

## 第 4 章 調査結果の分析

#### 4.1 クロス集計軸の設定

調査結果の単純集計と属性や関連する質問項目間のクロス集計を行うため、原子力の社会的受容性の判断に影響を与えると考えられる個人的特性（性別、年齢、居住地、知識、社会性価値観など）を中心にクロス集計軸を八つ設定した。

表 16 「クロス集計軸 1～3 の内容」

集計軸 1	集計軸 2	集計軸 3
<b>【地域】</b> ・北海道・東北 ・関東 ・中部・北陸 ・近畿 ・中国・四国・九州	<b>【職業】</b> ・農林漁業 ・自営・商工業 ・自由業 ・管理職 ・事務・技術職 ・労務・技能職 ・パート・アルバイト ・主婦専業 ・学生 ・無職	<b>【男性】</b> ・男性小計 ・15～19 才 ・20～29 才 ・30～39 才 ・40～49 才 ・50～59 才 ・60～69 才 ・70～79 才
<b>【都市規模】</b> ・21 大都市 ・15 万以上の都市 ・15 万未満の都市 ・郡部		
<b>【性別】</b> ・男性 ・女性	<b>【世帯年収】</b> ・300 万円未満 ・～400 万円未満 ・～500 万円未満 ・～600 万円未満 ・～700 万円未満 ・～800 万円未満 ・～1000 万円未満 ・～1200 万円未満 ・1200 万円以上	<b>【女性】</b> ・女性小計 ・15～19 才 ・20～29 才 ・30～39 才 ・40～49 才 ・50～59 才 ・60～69 才 ・70～79 才
<b>【年齢】</b> ・15～19 才 ・20～29 才 ・30～39 才 ・40～49 才 ・50～59 才 ・60～69 才 ・70～79 才		

※全質問にクロス

表 17「クロス集計軸 4 の内容」

集計軸 4																																											
<p>【子どもの有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供あり</li> <li>・ 小さい子供あり (0~14 歳)</li> <li>・ 子供なし</li> </ul>																																											
<p>【女性－仕事の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性 (仕事有) ー 農林漁業、自営・商工業、自由業、管理職、事務・技術職、 労務・技能職</li> <li>・ 女性 (パート等) ー パート・アルバイト</li> <li>・ 女性 (仕事無) ー 主婦専業、無職</li> <li>・ 女性 (学生) ー 学生</li> </ul>																																											
<p>【原子力発電所隣接 (30km 圏内)・原子力発電所非隣接】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隣接地域：30km 圏内 (UPZ:Urgent Protective action planning Zone 圏内)</li> <li>・ 非立地県：上記以外</li> </ul> <p>●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域 (UPZ・30km圏内) に含まれる市町村</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村</td> </tr> <tr> <td>青森県</td> <td>東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町</td> </tr> <tr> <td>福島県</td> <td>いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村</td> </tr> <tr> <td>新潟県</td> <td>柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町</td> </tr> <tr> <td>茨城県</td> <td>東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市</td> </tr> <tr> <td>静岡県</td> <td>御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市</td> </tr> <tr> <td>富山県</td> <td>氷見市</td> </tr> <tr> <td>石川県</td> <td>志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町</td> </tr> <tr> <td>岐阜県</td> <td>揖斐川町</td> </tr> <tr> <td>福井県</td> <td>敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町</td> </tr> <tr> <td>滋賀県</td> <td>長浜市、高島市</td> </tr> <tr> <td>京都府</td> <td>舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町</td> </tr> <tr> <td>鳥取県</td> <td>米子市、境港市</td> </tr> <tr> <td>島根県</td> <td>松江市、出雲市、安来市、雲南市</td> </tr> <tr> <td>山口県</td> <td>上関町</td> </tr> <tr> <td>愛媛県</td> <td>伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町</td> </tr> <tr> <td>福岡県</td> <td>糸島市</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>玄海町、唐津市、伊万里市</td> </tr> <tr> <td>長崎市</td> <td>松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町</td> </tr> </tbody> </table>		北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村	青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村	宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町	福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村	新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町	茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市	静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市	富山県	氷見市	石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町	岐阜県	揖斐川町	福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町	滋賀県	長浜市、高島市	京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町	鳥取県	米子市、境港市	島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市	山口県	上関町	愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町	福岡県	糸島市	佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市	長崎市	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市	鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町
北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村																																										
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村																																										
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町																																										
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村																																										
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町																																										
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市																																										
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市																																										
富山県	氷見市																																										
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町																																										
岐阜県	揖斐川町																																										
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町																																										
滋賀県	長浜市、高島市																																										
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町																																										
鳥取県	米子市、境港市																																										
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市																																										
山口県	上関町																																										
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町																																										
福岡県	糸島市																																										
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市																																										
長崎市	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市																																										
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町																																										
<small>出典：原子力規制委員会「原子力災害対策について」</small>																																											

※全質問にクロス

表 18 「クロス集計軸 5 の内容」

集計軸 5	
<p>【今後利用・活用していくべきエネルギー：問 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石炭火力発電</li> <li>・ 石油火力発電</li> <li>・ 天然ガス火力発電</li> <li>・ 原子力発電</li> <li>・ 水力発電</li> <li>・ 地熱発電</li> <li>・ 風力発電</li> <li>・ 太陽光発電</li> <li>・ 廃棄物発電</li> <li>・ バイオマス発電</li> <li>・ その他</li> <li>・ あてはまるものはない</li> </ul>	<p>【原子力発電の利用：問 6-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 増やす</li> <li>・ 震災以前を維持</li> <li>・ しばらく利用、徐々に廃止</li> <li>・ 即時、廃止</li> <li>・ その他</li> <li>・ わからない</li> <li>・ あてはまるものはない</li> </ul>
<p>【原子力発電所の再稼働に関する考え：問 6-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対策や審査を経れば認める</li> <li>・ 電力はまなかえている</li> <li>・ 理解が得られていない</li> <li>・ 安定供給、温暖化対策</li> <li>・ 廃棄物処分の見通し</li> <li>・ 大事故の不安</li> <li>・ 雇用や経済に貢献</li> <li>・ 防災体制が不十分</li> <li>・ 政府の全面にでる姿勢</li> <li>・ 電力会社を信じる</li> <li>・ 交付金のより良い使い方</li> <li>・ 地元住民は静観している</li> <li>・ 火山の噴火が心配</li> <li>・ 電気代を下げしてほしい</li> <li>・ 適合確認したものは安全</li> <li>・ 裁判所の判断を尊重すべき</li> <li>・ その他</li> <li>・ わからない</li> <li>・ あてはまるものはない</li> </ul>	

※全質問にクロス

表 19 「クロス集計軸 6 の内容」

集計軸 6
<p>【原子力の事業者に対する信頼：問 9-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信頼できる層 信頼できる+どちらかといえば信頼できる</li> <li>・ どちらともいえない層</li> <li>・ 信頼できない層 信頼できない+どちらかといえば信頼できない</li> </ul>
<p>【自治体に対する信頼：問 10-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信頼できる層 信頼できる+どちらかといえば信頼できる</li> <li>・ どちらともいえない層</li> <li>・ 信頼できない層 信頼できない+どちらかといえば信頼できない</li> </ul>

※全質問にクロス

表 20 「クロス集計軸 7 の内容」

集計軸 7
<p><b>【原子力やエネルギーに関する知識：問 4 の選択肢合計】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識が高い層 「よく知っている」、「ある程度、知っている」の選択肢を選択した合計が 11～15 個</li> <li>・ 知識が中程度の層 「よく知っている」、「ある程度、知っている」の選択肢を選択した合計が 4～10 個</li> <li>・ 知識が低い層 「よく知っている」、「ある程度、知っている」の選択肢を選択した合計が 1～3 個</li> <li>・ 知識がない層 「その他」、「特にない／わからない」を選択</li> </ul>
<p><b>【社会性価値観：問 1（生活意識や行動）の選択肢合計】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会性が高い層 選択肢の合計が 8～15 個</li> <li>・ 社会性が中程度の層 選択肢の合計が 3～7 個</li> <li>・ 社会性が低い層 選択肢の合計が 1～2 個</li> <li>・ 社会性がない層 「その他」、「特にない／わからない」を選択</li> </ul>

※全質問にクロス

表 21 「クロス集計軸 8 の内容」

集計軸 8
<p><b>【都道府県】</b></p> <p>北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県</p>

※全質問にクロス

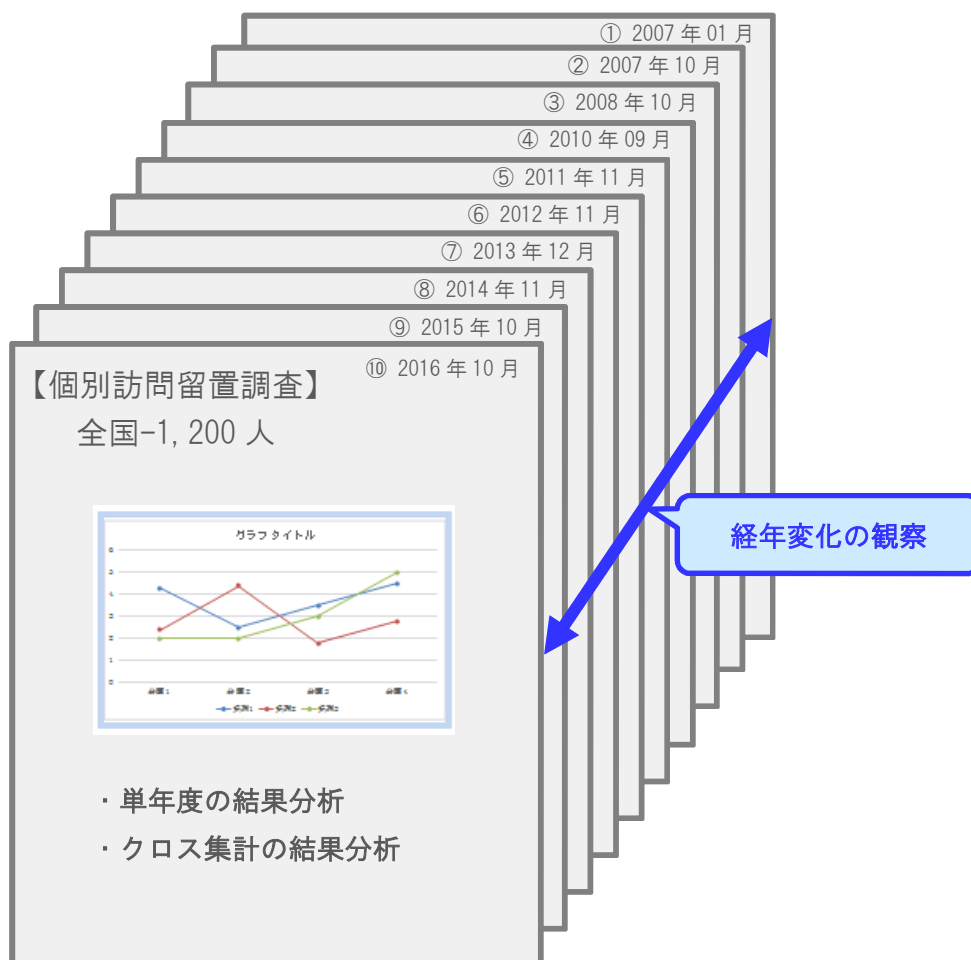
## 4.2 調査結果の分析

調査結果の単純集計と属性や関連する質問項目間のクロス集計を行い、調査結果を分析した。経年的・定点的变化を観察するにあたり、10ポイント以上の差をより特徴的な差が出ているものとみなした。

図4 「世論調査結果の分析方法」

- 単純集計結果による分析
- クロス集計結果による分析
- 経年変化の観察による分析

福島第一原子力発電所の事故後の変化を中心に経年変化を観察



---

---

## 世論調査結果

---

---



## 調査概要

---

### <2016年10月 全国個別訪問留置調査>

- 調査地域 : 全国
- 調査対象者 : 15～79歳男女個人
- サンプリング : 住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- 標本数の配分 : 200地点(1地点6サンプル)を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- 調査方法 : 個別訪問留置調査
- サンプル数 : 1200人
- 実査期間 : 2016年10月5日(水)～10月17日(月)

## I 章 回答者の属性

## 1. 性別

---

(%)

	男性	女性
全体(N=1200)	49.7	50.3

## 2. 年代

---

(%)

	10代 (15~19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体(N=1200)	5.9	12.4	16.2	17.8	15.3	18.5	13.9

## 3. 居住地(原子力発電所隣接(30km圏内)・原子力発電所非隣接)

---

(%)

	30km圏内*	30km圏外
全体(N=1200)	7.5	92.5

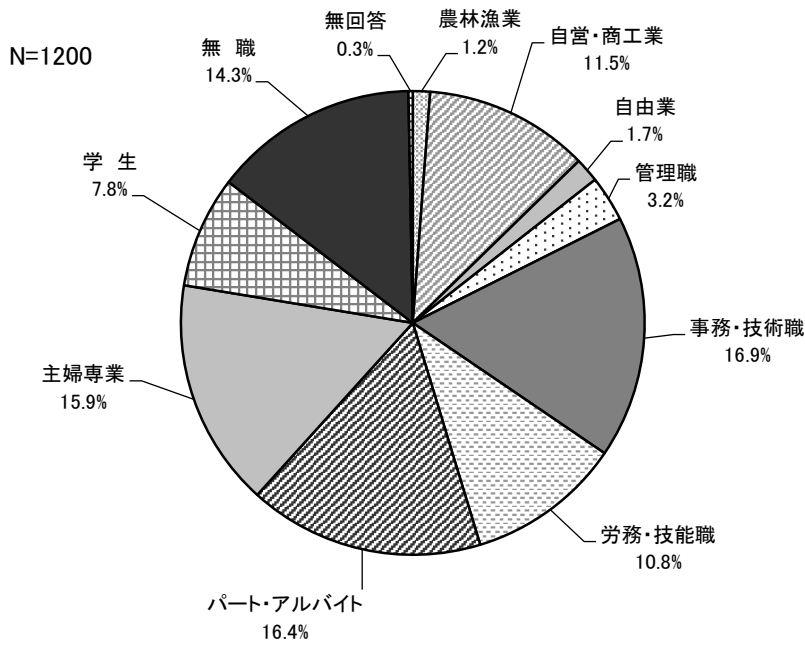
\*次頁参照

●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域(UPZ・30km圏内)に含まれる市町村

北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市
富山県	氷見市
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町
岐阜県	揖斐川町
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町
滋賀県	長浜市、高島市
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町
鳥取県	米子市、境港市
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市
山口県	上関町
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町
福岡県	糸島市
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市
長崎市	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町

出典：原子力規制委員会「原子力災害対策について」

#### 4. 職業



#### 5. 未既婚

(%)

	既婚	別居	離婚	死別	未婚	無回答
全体(N=1200)	68.2	0.3	5.3	4.8	21.3	0.2

#### 6. 学歴

(%)

	短大卒以下	大学卒以上	無回答
全体(N=1200)	74.5	24.8	0.7

#### 7. 子どもの有無

(%)

	子どもあり	小さい子どもあり*	子どもなし	無回答
全体(N=1200)	30.3	24.5	67.8	1.9

\*0～14歳の子ども

## Ⅱ章 原子力・放射線に対する イメージ

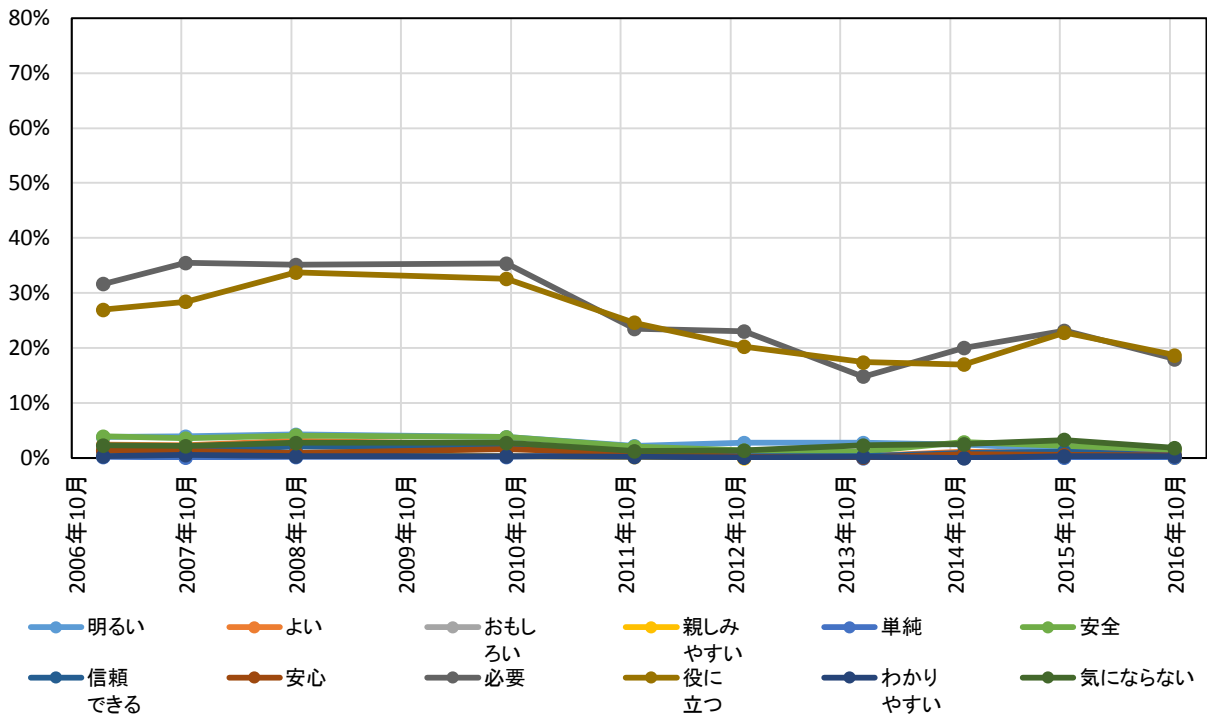
## ●原子力に対するイメージ

「原子力」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージより否定的なイメージの反応が高く、「危険」(67.3%)、「不安」(58.8%)、「複雑」(32.8%)に回答が集中。一方、肯定的なイメージは、「必要」(18.0%)、「役に立つ」(18.7%)という回答が多く、他の項目はきわめて低い反応水準にある。肯定的／否定的イメージとも上位の項目は前回と同様。なお、「必要」「役に立つ」という認識は、福島事故後からの減少傾向が前回まで回復を見せていたが、今年は減少した。

問1. あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

N=1200

### 肯定的なイメージ

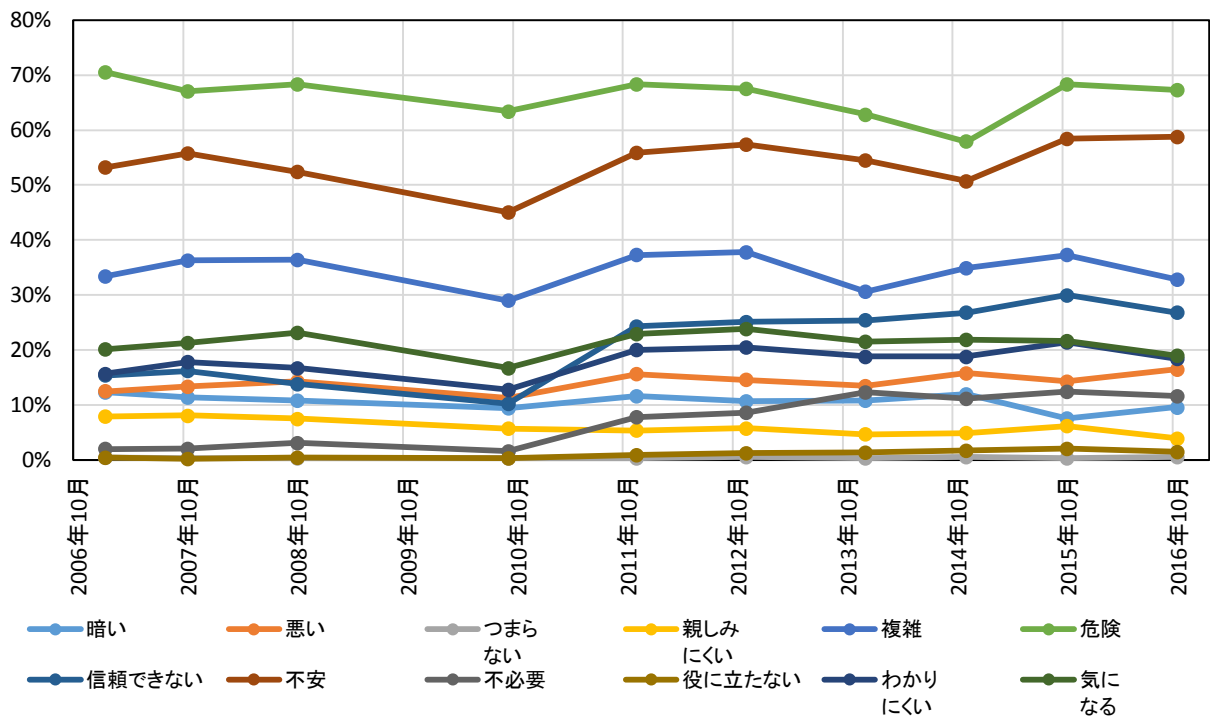


	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月
明るい	3.8	3.9	4.3	3.8	2.2	2.8	2.8	2.4	1.6	1.3
よい	2.4	2.3	3.1	2.4	1.3	0.9	0.3	1.1	0.9	1.5
おもしろい	0.6	0.6	0.8	0.3	0.6	0.6	0.5	0.3	0.6	0.4
親しみやすい	0.3	0.6	0.7	0.3	0.2	-	0.2	0.2	0.2	0.1
単純	0.2	0.1	0.2	0.2	0.7	0.2	-	0.1	0.1	0.1
安全	3.9	3.6	4.1	3.8	2.1	1.4	1.2	2.9	2.2	1.5
信頼できる	1.4	1.4	2.1	1.8	0.8	0.3	0.3	0.9	1.1	0.5
安心	1.4	1.3	0.9	1.6	0.8	0.2	0.1	0.7	0.6	0.4
必要	31.7	35.5	35.1	35.4	23.5	23.0	14.8	20.0	23.2	18.0
役に立つ	27.0	28.4	33.8	32.6	24.6	20.3	17.4	17.0	22.8	18.7
わかりやすい	0.3	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2	-	0.3	0.3
気にならない	2.3	2.2	2.8	2.8	1.3	1.4	2.3	2.5	3.3	1.8

(%)

N=1200

否定的なイメージ



	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月
暗い	12.3	11.4	10.8	9.4	11.6	10.7	10.8	12.0	7.6	9.6
悪い	12.5	13.4	14.3	11.3	15.6	14.6	13.5	15.8	14.3	16.5
つまらない	0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.3	0.6	0.3	0.6
親しみにくい	7.9	8.1	7.5	5.7	5.4	5.8	4.7	4.9	6.2	3.9
複雑	33.4	36.3	36.4	29.0	37.3	37.8	30.6	34.9	37.3	32.8
危険	70.5	67.1	68.3	63.4	68.3	67.5	62.8	57.9	68.3	67.3
信頼できない	15.4	16.2	13.8	10.2	24.3	25.1	25.4	26.8	30.0	26.8
不安	53.2	55.8	52.4	45.0	55.9	57.4	54.5	50.7	58.4	58.8
不必要	2.0	2.1	3.1	1.6	7.8	8.6	12.3	11.2	12.4	11.6
役に立たない	0.4	0.2	0.5	0.3	0.9	1.3	1.4	1.7	2.1	1.5
わかりにくい	15.7	17.8	16.7	12.8	20.0	20.5	18.8	18.8	21.4	18.4
気になる	20.1	21.3	23.1	16.7	22.9	23.8	21.5	21.9	21.7	19.0
その他	1.3	1.8	1.5	0.8	2.8	1.9	1.1	2.1	1.2	1.8
あてはまるものはない	2.5	2.8	2.5	2.8	2.5	1.6	4.0	3.8	2.4	4.3

(%)

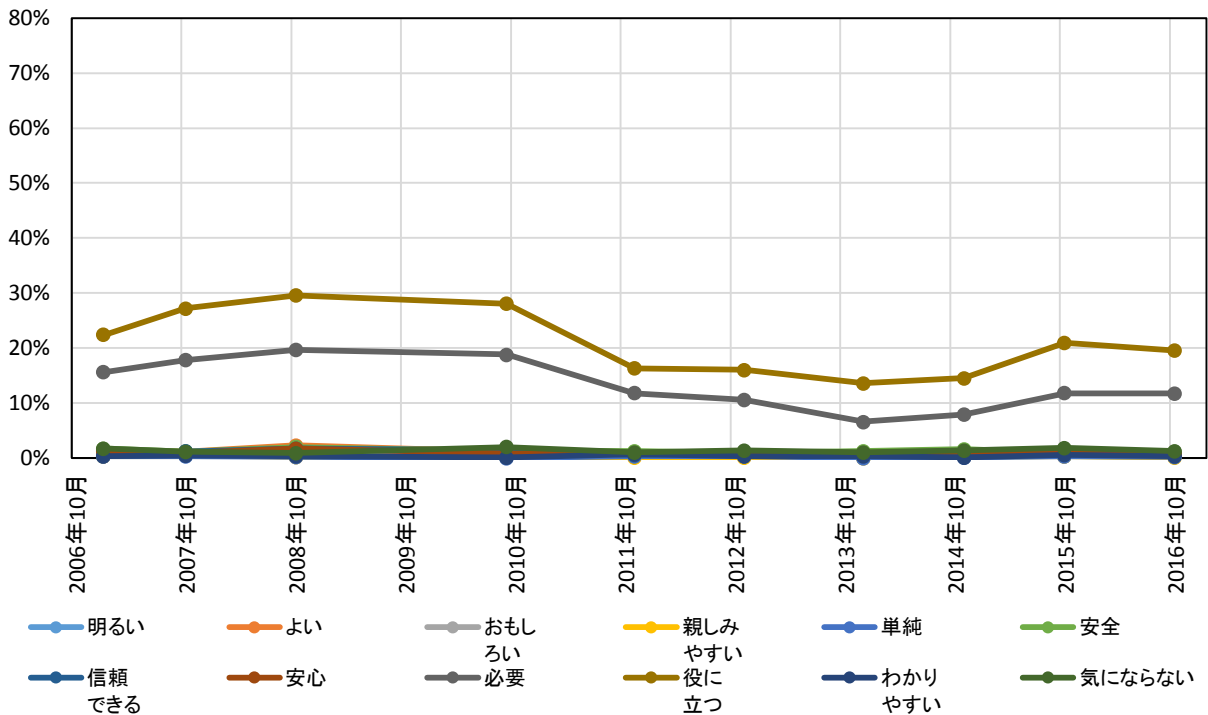


●放射線に対するイメージ

「放射線」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージよりも否定的なイメージの反応が圧倒的に高く、「危険」(72.1%)、「不安」(50.9%)という回答が突出している。一方、肯定的なイメージでは「役に立つ」(19.6%)、という回答が高いが、否定的イメージと比べるとポイント数が圧倒的に低い。否定的イメージは高いポイントで安定している。

問2. あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)  
N=1200

肯定的なイメージ

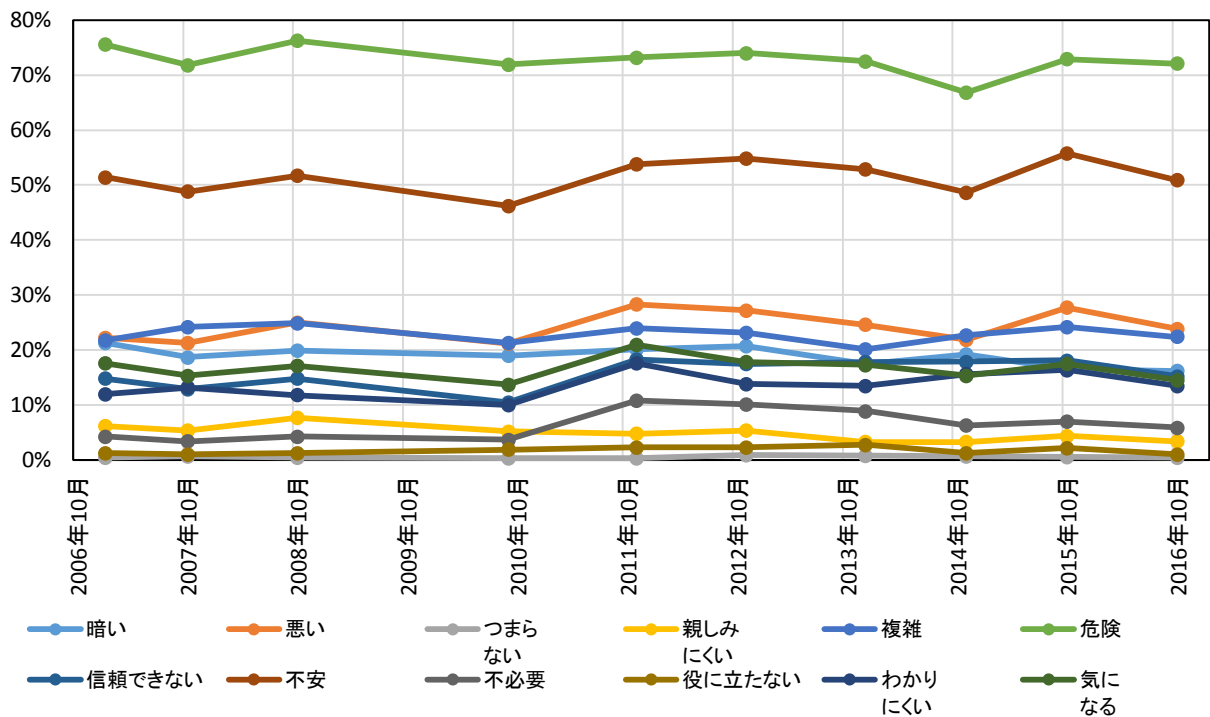


	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月
明るい	0.3	1.0	1.1	0.5	0.5	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2
よい	1.4	1.1	2.3	1.2	0.6	0.8	0.2	0.7	0.9	0.8
おもしろい	0.3	0.8	0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	0.3	0.3	0.4
親しみやすい	0.3	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1	-	0.2	0.3	0.1
単純	0.3	0.3	0.2	-	0.3	0.3	-	0.1	0.3	0.2
安全	1.7	1.2	2.0	1.3	1.3	0.9	1.3	1.6	0.9	1.1
信頼できる	0.6	1.2	1.7	1.4	0.6	0.8	0.8	0.8	0.9	0.8
安心	1.2	0.9	1.7	0.8	0.8	0.9	0.9	1.1	1.0	0.8
必要	15.6	17.8	19.7	18.8	11.8	10.6	6.6	7.9	11.8	11.7
役に立つ	22.4	27.2	29.6	28.1	16.3	16.0	13.6	14.5	21.0	19.6
わかりやすい	0.3	0.5	0.3	0.1	0.7	0.3	0.3	0.1	0.6	0.3
気にならない	1.7	1.1	0.9	2.0	1.0	1.4	1.0	1.4	1.8	1.3

(%)

N=1200

否定的なイメージ



	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月
暗い	21.3	18.7	19.9	19.0	20.1	20.7	17.5	19.2	16.5	16.2
悪い	22.2	21.3	25.0	21.2	28.3	27.2	24.6	21.9	27.7	23.8
つまらない	0.4	0.7	0.4	0.3	0.3	0.9	0.8	0.7	0.6	0.4
親しみにくい	6.2	5.4	7.7	5.2	4.8	5.4	3.3	3.3	4.4	3.4
複雑	21.8	24.2	24.9	21.3	24.0	23.2	20.1	22.7	24.2	22.4
危険	75.6	71.8	76.3	71.9	73.2	74.0	72.5	66.8	72.9	72.1
信頼できない	14.8	12.9	14.8	10.5	18.3	17.5	17.8	17.9	18.1	15.2
不安	51.4	48.8	51.7	46.2	53.8	54.8	52.9	48.6	55.8	50.9
不必要	4.3	3.4	4.3	3.7	10.8	10.1	8.9	6.3	7.0	5.9
役に立たない	1.3	1.0	1.3	1.9	2.3	2.3	2.8	1.3	2.2	1.0
わかりにくい	12.0	13.2	11.8	10.0	17.6	13.8	13.5	15.6	16.4	13.5
気になる	17.6	15.3	17.1	13.7	20.9	17.8	17.3	15.3	17.5	14.5
その他	2.0	2.1	2.0	1.1	3.8	2.8	2.3	1.6	2.3	1.9
あてはまるものはない	2.8	2.9	1.8	1.9	2.0	1.4	4.4	5.1	2.7	3.0

(%)



### Ⅲ章 原子力・放射線・エネルギーについての 関心・知識

## ●原子力・放射線・エネルギー分野への関心

原子力やエネルギーの分野について関心のあることを尋ねた。  
 突出して関心が高い項目は「地球温暖化」(50.4%)である。次いで、「放射線による人体の影響」(35.3%)、「原子力施設のリスク」(33.3%)、「日本のエネルギー事情」(31.8%)、「放射性廃棄物の処分」(31.3%)。  
 前回に比べると、回答の傾向は変わらないが、全体としての選択率が下がっている。

問3. 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。  
 次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

16年10月全体 N=1200

	0%	20%	40%	60%	15年 10月	14年 11月	13年 12月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
石油や石炭など化石資源の消費	17.4				22.2	17.2	17.8	20.7	22.3	23.3	24.1	23.3	13.3
地球温暖化	50.4				54.5	49.5	45.9	52.1	55.8	62.8	64.7	65.3	60.1
世界のエネルギー事情	19.1				21.6	21.1	20.7	23.4	27.0	25.9	25.3	23.1	25.3
日本のエネルギー事情	31.8				36.3	36.7	36.8	41.6	41.0	36.1	39.1	35.4	35.9
太陽光発電の開発状況	29.1				32.6	33.5	38.3	39.9	44.2	37.8	38.9	32.9	35.5
風力発電の開発状況	19.7				20.9	21.0	27.8	27.5	29.8	21.9	23.8	25.0	25.3
バイオマス発電の開発状況	12.4				14.1	13.2	14.0	12.4	15.5	8.6	9.9	9.2	7.8
核分裂のしくみ	5.3				6.1	4.9	4.7	4.0	5.3	3.3	4.0	4.9	4.3
原子力発電の安全性	25.6				30.4	25.0	26.8	22.2	23.8	24.3	25.5	25.8	25.6
プルサーマル・核燃料サイクル	5.7				8.1	6.8	8.7	6.4	7.3	10.6	9.8	9.6	10.1
放射線による人体の影響	35.3				37.6	30.5	41.7	37.3	40.5	32.0	32.3	31.7	32.8
放射線の工業利用	3.9				4.8	3.8	5.8	4.8	5.0	5.1	5.0	6.3	5.9
放射線の医療利用	20.5				21.3	14.5	22.1	28.5	29.8	36.0	36.2	33.9	35.9
放射線の農業利用	4.8				3.7	3.9	5.2	5.7	5.8	5.2	5.3	4.8	6.1
核不拡散	8.3				9.4	8.0	8.7	6.8	7.4	8.3	8.3	9.8	10.2
高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ	5.9				5.7	5.3	6.7	6.3	5.0	7.6	5.6	4.8	4.0
高速増殖炉「もんじゅ」の安全性	11.3				11.0	9.1	11.4	9.8	8.4	10.9	11.8	11.8	10.9
核燃料の製造加工	3.5				4.7	3.8	4.0	3.1	4.2	3.4	4.0	4.3	3.2
省エネルギー	20.2				25.4	22.3	15.8	20.2	24.0	28.1	30.9	30.0	30.2
放射性廃棄物の処分	31.3				36.4	33.3	35.4	29.0	32.8	23.3	27.4	30.3	28.5
使用済燃料の貯蔵	16.7				23.4	20.1	24.7	18.9	18.1	14.5	16.8	16.3	18.0
原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)	33.3				37.2	32.2	37.9	29.0	32.4				
原子力発電所の再稼働	18.4				25.8	21.2							
原子力発電所の防災体制	17.4				21.5	19.0							
各発電方法の発電コスト比較	8.0				13.2	10.1							
電力システム改革 (小売全面自由化、発送電分離など)	10.4												
その他	0.3				0.8	1.6	0.9	0.3	0.8	0.2	0.3	0.3	0.4
特にない／わからない	19.8				16.0	18.7	18.6	14.1	11.2	14.8	14.8	14.6	19.3

\* 07年1月の選択肢は「化石資源の消費」、07年10月からは「石油や石炭など化石資源の消費」に変更

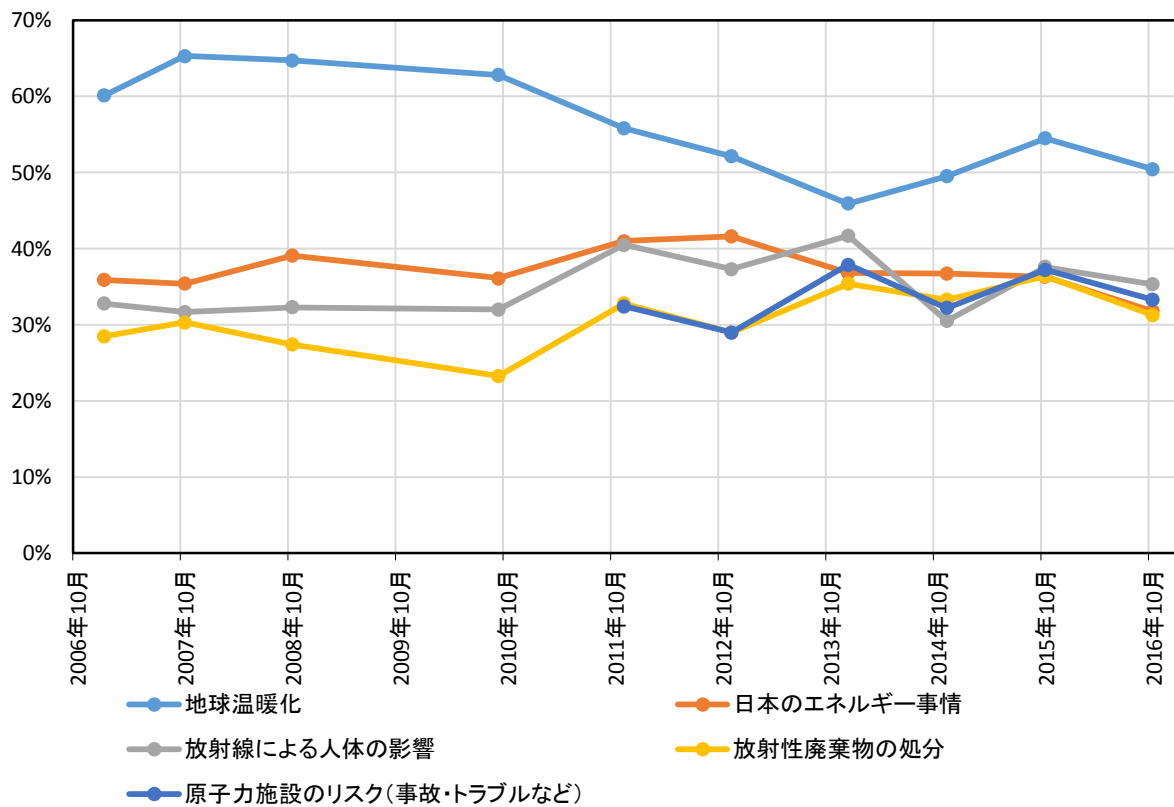
\* 07年1月、07年10月の選択肢は「高速増殖炉のしくみ」、08年10月からは「高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ」に変更

\* 「原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)」は、11年11月から追加

\* 「原子力発電所の再稼働」「原子力発電所の防災体制」「各発電方法の発電コスト比較」は、14年11月から追加

\* 「電力システム改革(小売全面自由化、発送電分離など)」は、16年10月から追加

<参考 ポイントが高い項目の経年変化>



## ●原子力・エネルギー分野に関する知識

原子力やエネルギー分野で認知率が高い項目は、「二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである」(知っている・ある程度知っている 55.5%)、「電力を安定的に供給するため、さまざまな発電方法を組み合わせて発電されている」(知っている・ある程度知っている 47.6%)。その他、放射線利用、自然放射線が知られている。

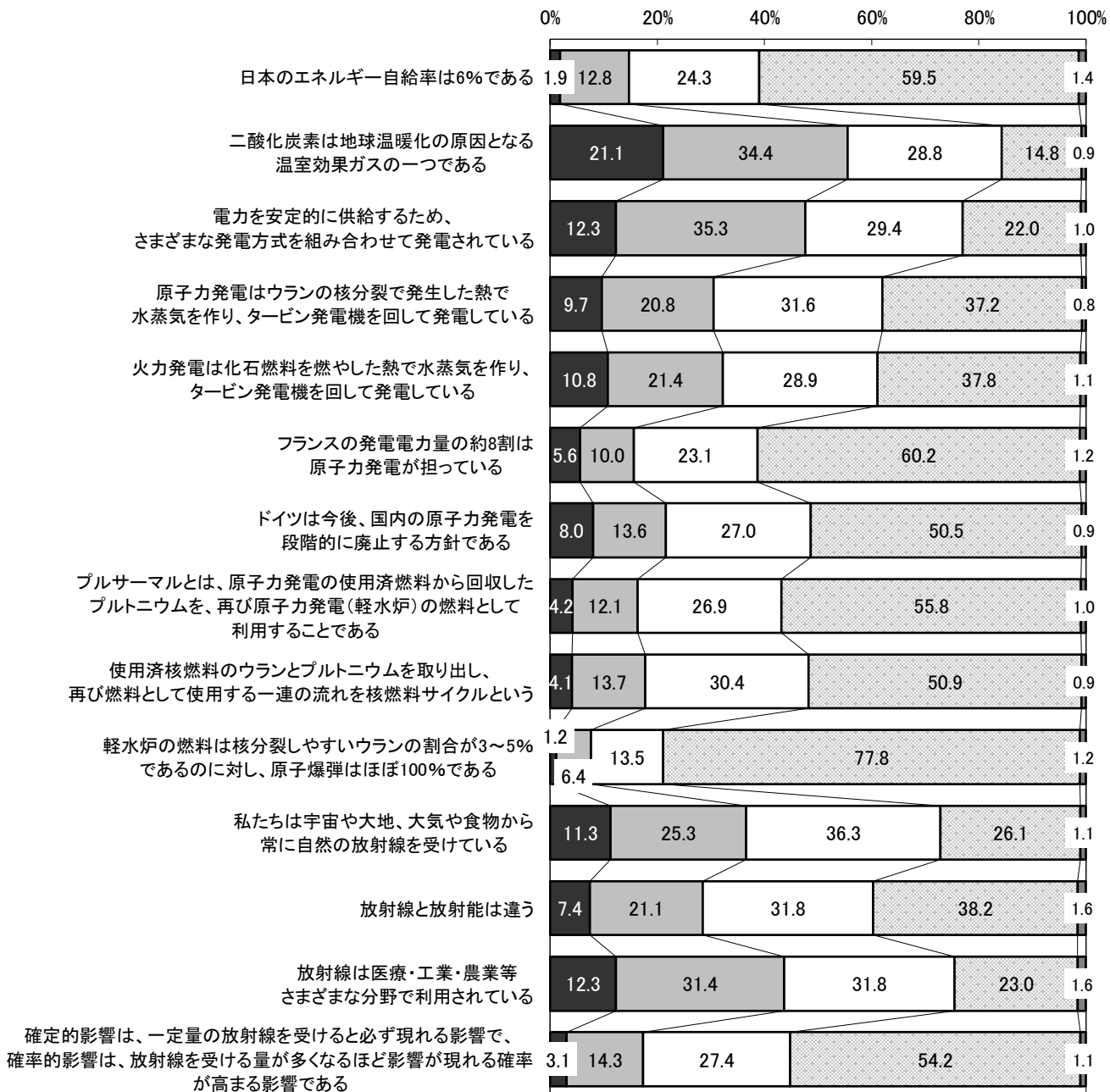
一方で、認知率の低い項目として、「軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3~5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である」(知らない 77.8%)が突出している。その他、日本のエネルギー自給率、フランスの原子力事情、プルサーマル、放射線の確定影響と確率影響の違いが知られていない。

前回に比べると、回答の傾向は変わらないが、全体として「よく知っている」「ある程度、知っている」という回答が減り、「知らない」という回答が増えている。

問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

16年10月全体 N=1200

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答

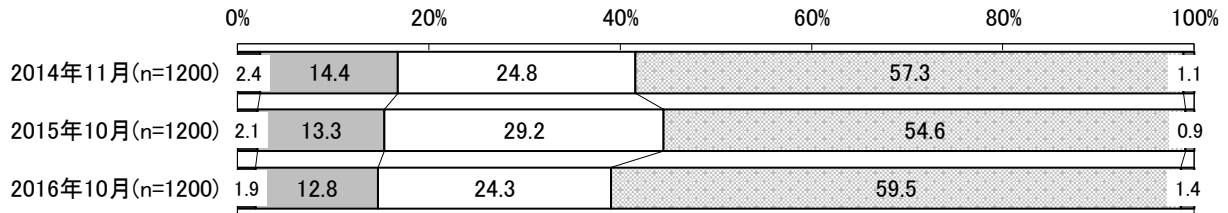


<経年変化(1/3)>

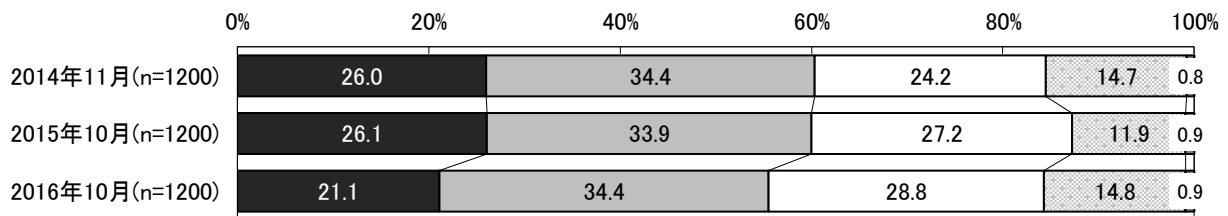
問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答

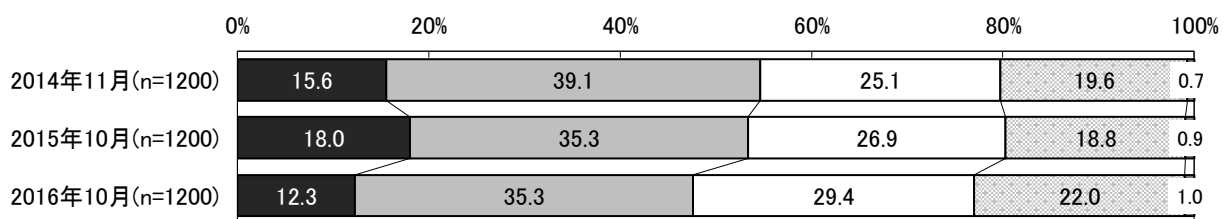
a) 日本のエネルギー自給率は6%である



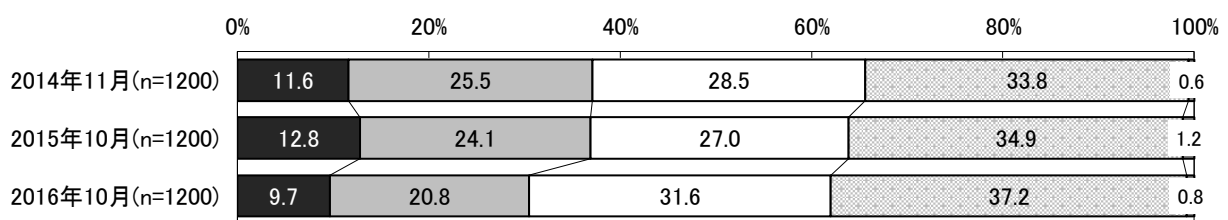
b) 二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである



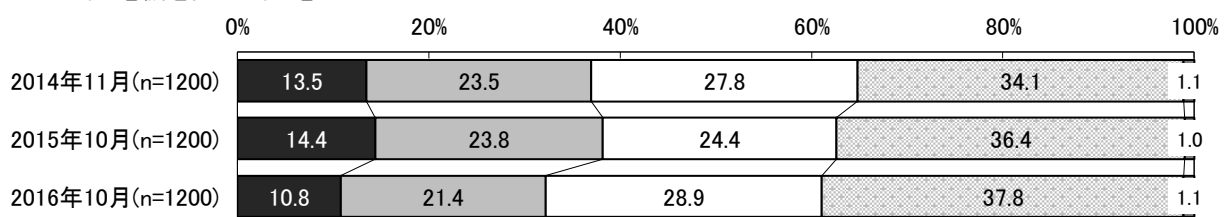
c) 電力を安定的に供給するため、さまざまな発電方式を組み合わせることで発電されている



d) 原子力発電はウランの核分裂で発生した熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している



e) 火力発電は化石燃料を燃やした熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している



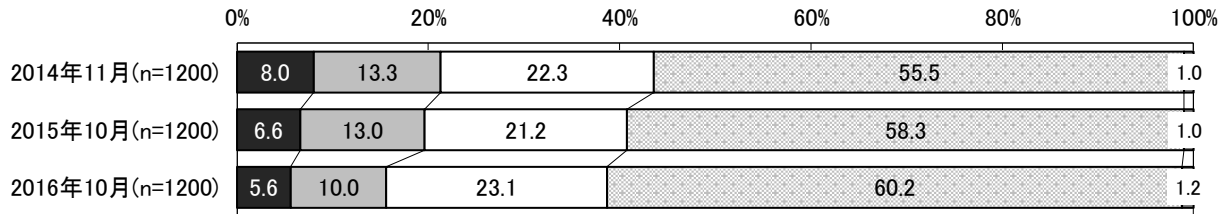


<経年変化(2/3)>

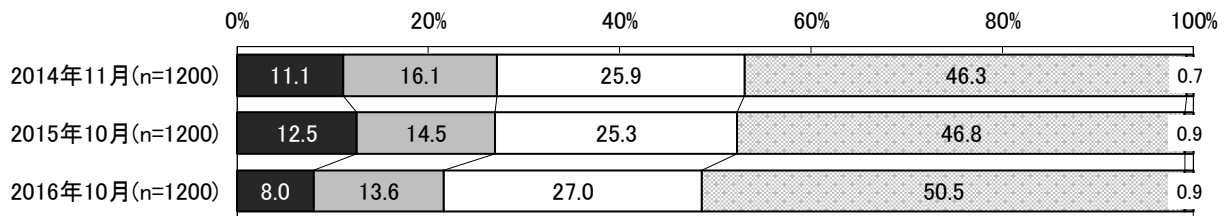
問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答

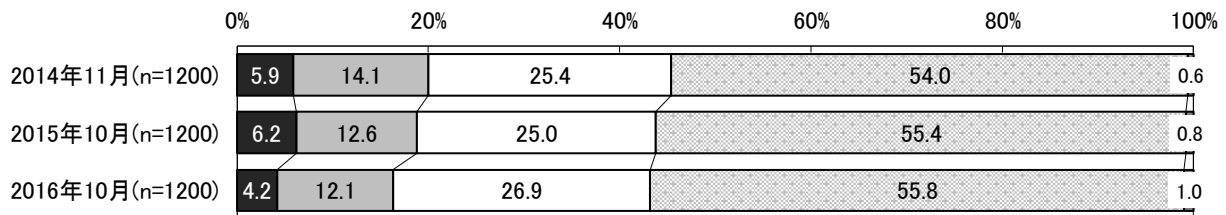
f) フランスの発電電力量の約8割は原子力発電が担っている



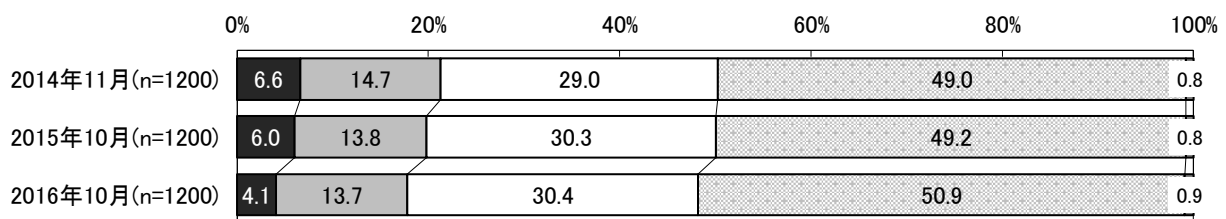
g) ドイツは今後、国内の原子力発電を段階的に廃止する方針である



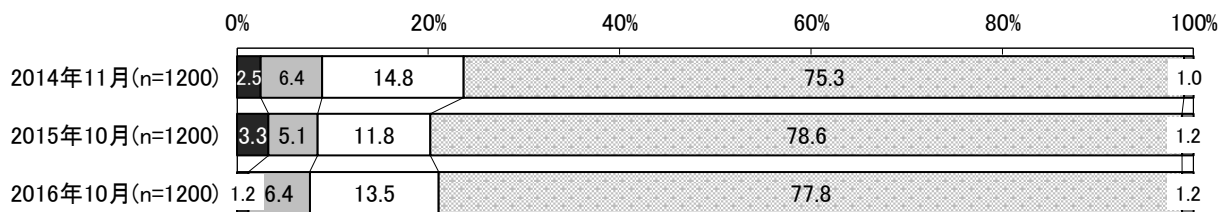
h) プルサーマルとは、原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することである



i) 使用済核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、再び燃料として使用する一連の流れを核燃料サイクルという



j) 軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3~5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である

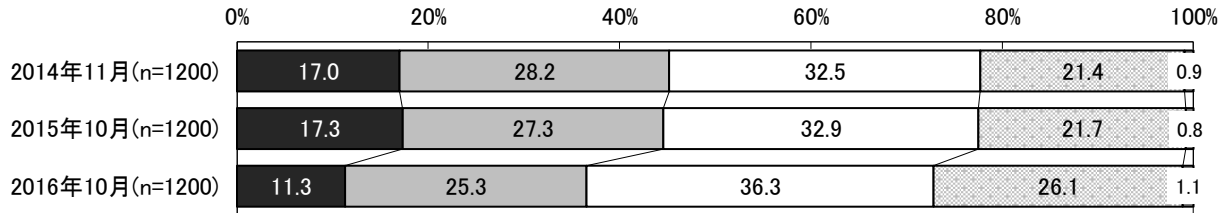


<経年変化(3/3)>

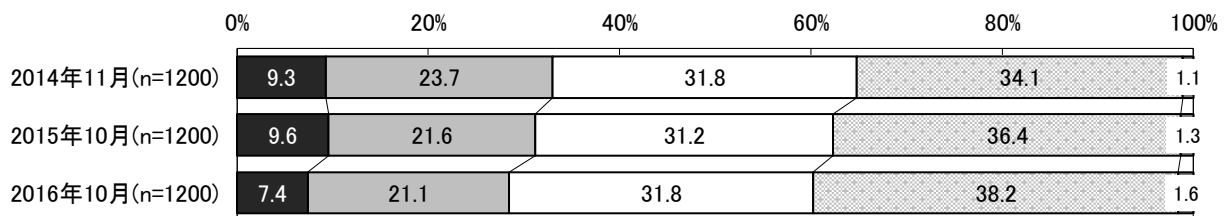
問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答

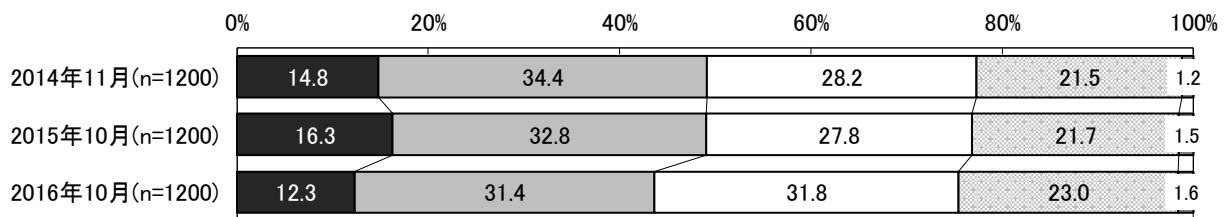
k) 私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている



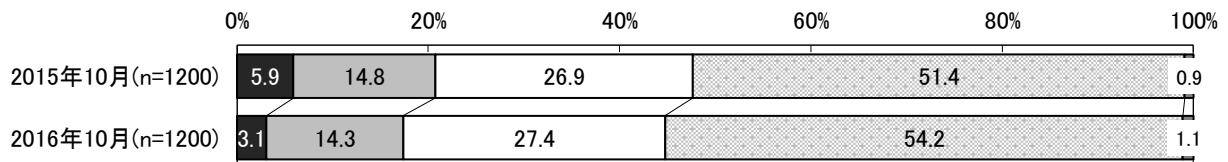
l) 放射線と放射能は違う



m) 放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている



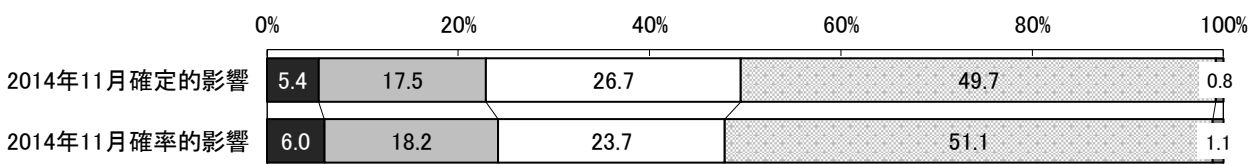
n) 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響で、確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である



<参考> 2014年11月 N=1200

上) 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響である

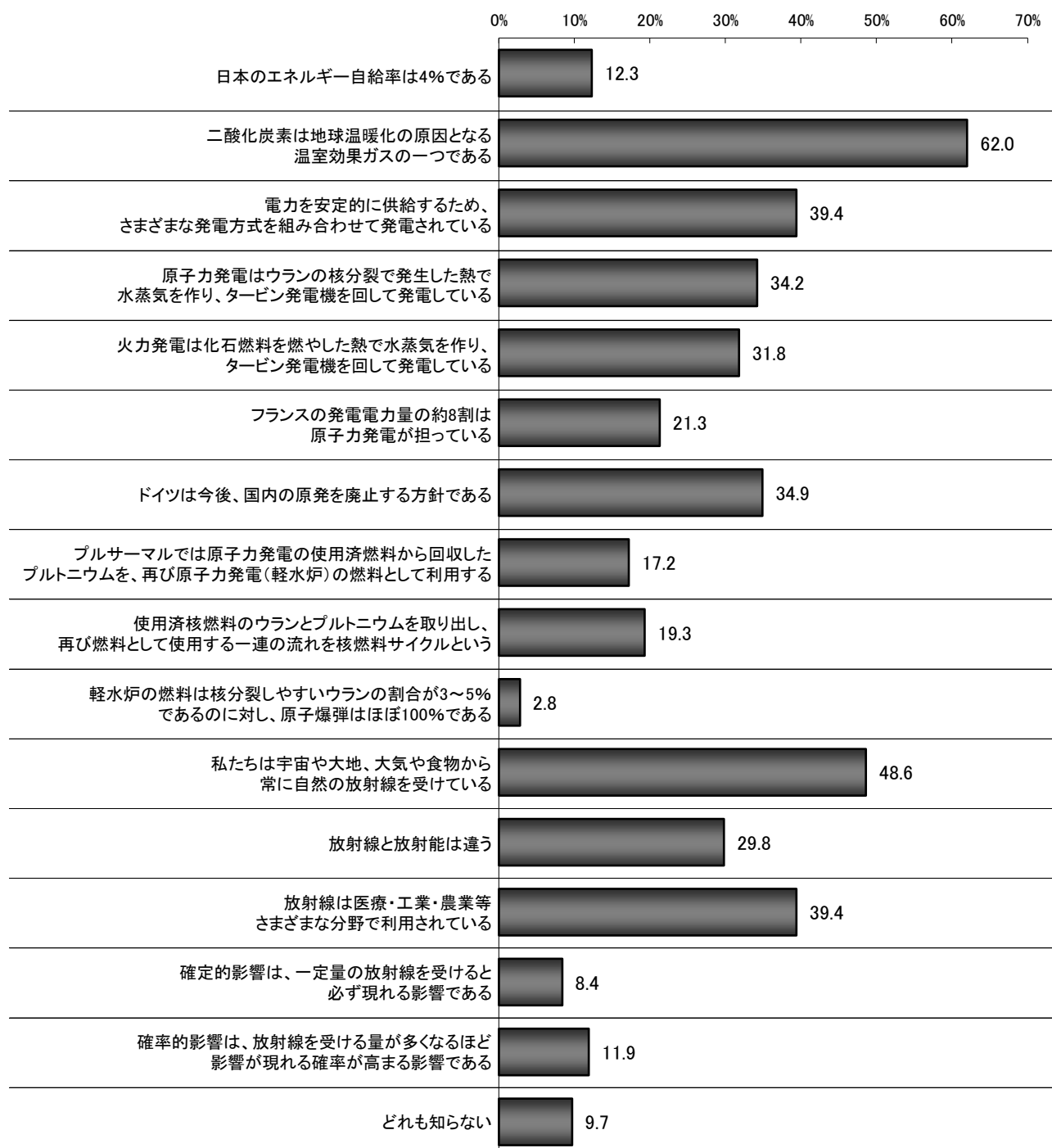
下) 確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である



<参考> 2013年12月

問. 原子力やエネルギーの分野において、あなたをご存知のものはどれですか。  
ご存知のものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200



<参考>

問. 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。  
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
自然界にある放射線について	42.3	41.9	26.9	23.8	25.4	24.1
放射線と放射能の違い	23.3	25.1	17.2	20.3	19.0	17.5
様々な分野での放射線の利用	39.3	41.2	37.6	37.7	36.5	35.0
放射線の量と人体への影響 の関係	39.1	34.9	38.5	36.5	40.4	41.3
原子力発電と原子爆弾の違い	26.3	31.3	28.8	30.3	28.8	27.6
プルサーマルや 核燃料サイクルのしくみ	14.1	14.7	17.5	14.6	14.8	11.9
どれも知らない	26.9	23.7	31.3	33.9	29.7	33.8

(%)



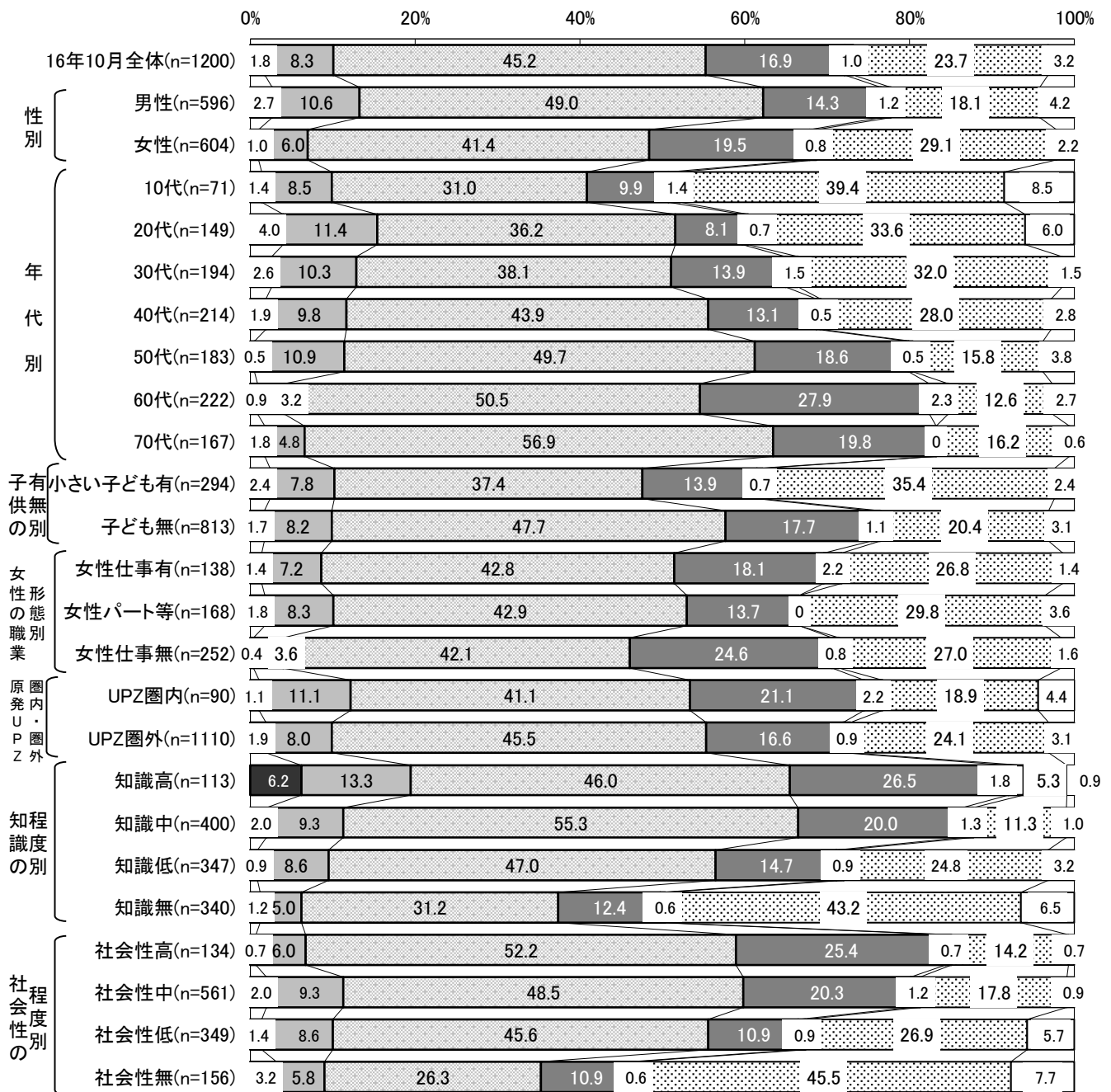
## IV章 原子力・エネルギーに対する態度

●エネルギーに対する態度

原子力の利用に関して、もっとも大きい意見は「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」(45.2%)。次いで、「原子力発電は即時、廃止すべきだ」(16.9%)。一方、原子力発電維持の意見は1割強程度である。また、「わからない」の回答が23.7%。前回と大きな変化はない。年齢別で見ると、即時廃止の回答は50代以上で多く見られる。一方、40代以下では「わからない」の回答が多い。

問6-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

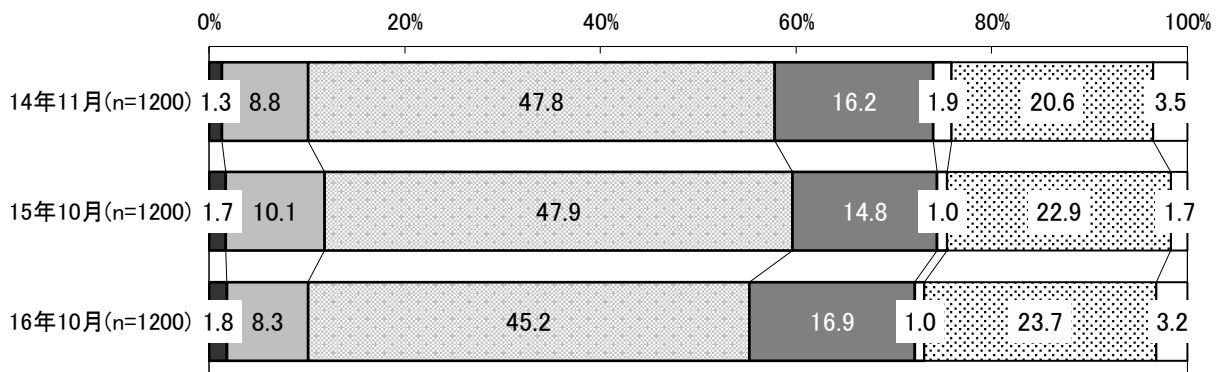
- 原子力発電を増やしていくべきだ    □東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ    □原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
- 原子力発電は即時、廃止すべきだ    □その他    □わからない
- あてはまるものはない



＜経年変化＞

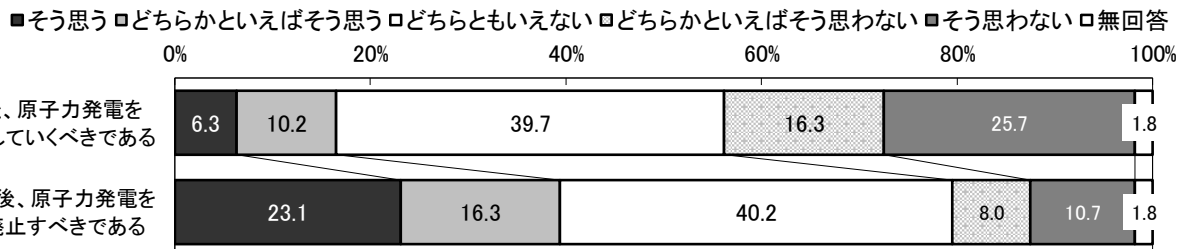
問6-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- 原子力発電を増やしていくべきだ    □東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ    □原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
- 原子力発電は即時、廃止すべきだ    □その他    □わからない
- あてはまるものはない



＜参考＞ 2013年12月 全体 N=1200

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)





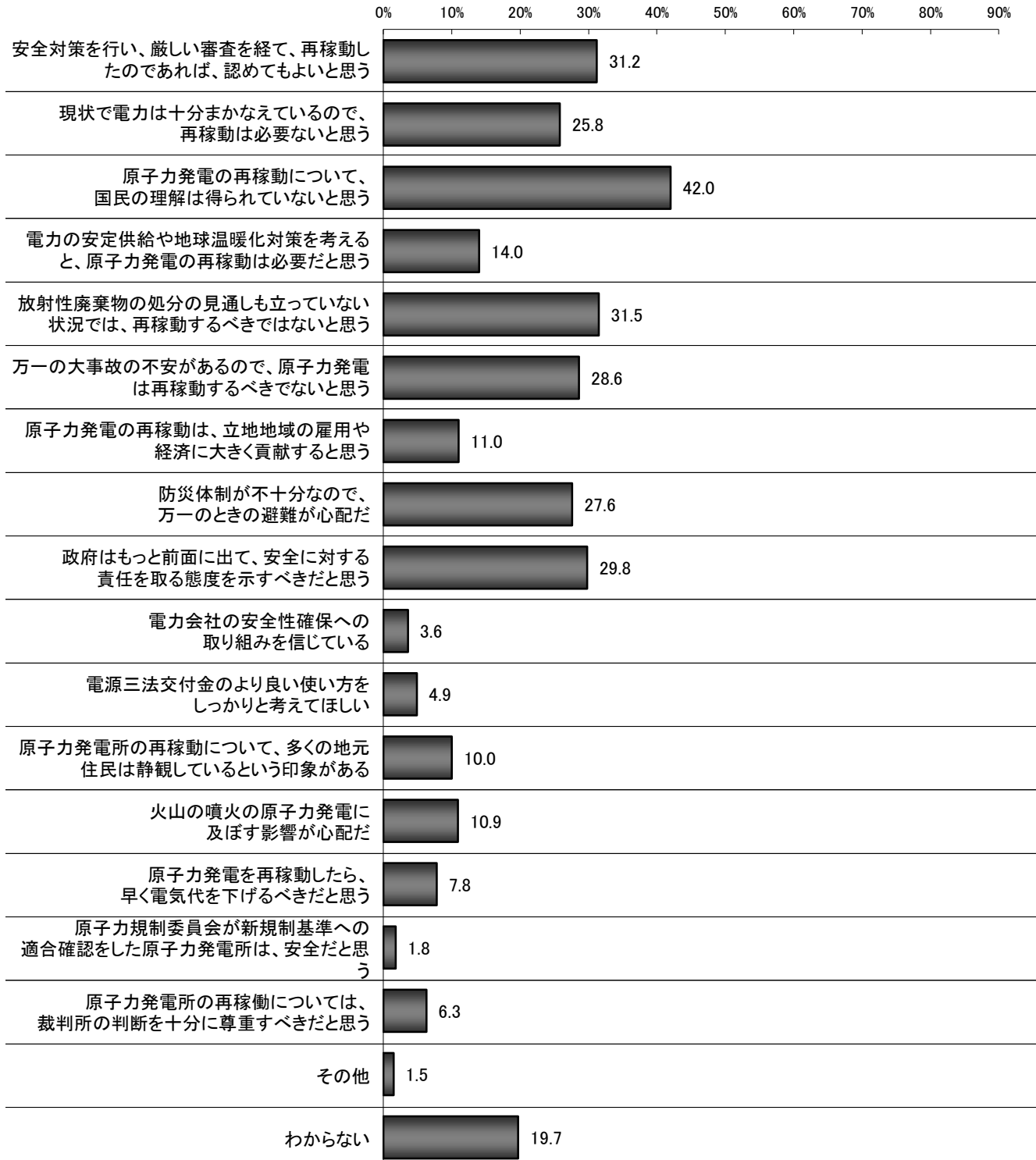
## ●エネルギーに対する態度

再稼働に関する意見として多く見られるのは、「原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う」(42.0%)、「放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う」(31.5%)、「安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う」(31.2%)。一方、少ない意見は、「原子力規制委員会が新規規制基準への適合確認をした原子力発電所は、安全だと思う」「電力会社の安全性確保への取り組みを信じている」「電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい」。

前回と比べると、「防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ」の選択率がやや増加しているが、全体としては大きな変化はない。

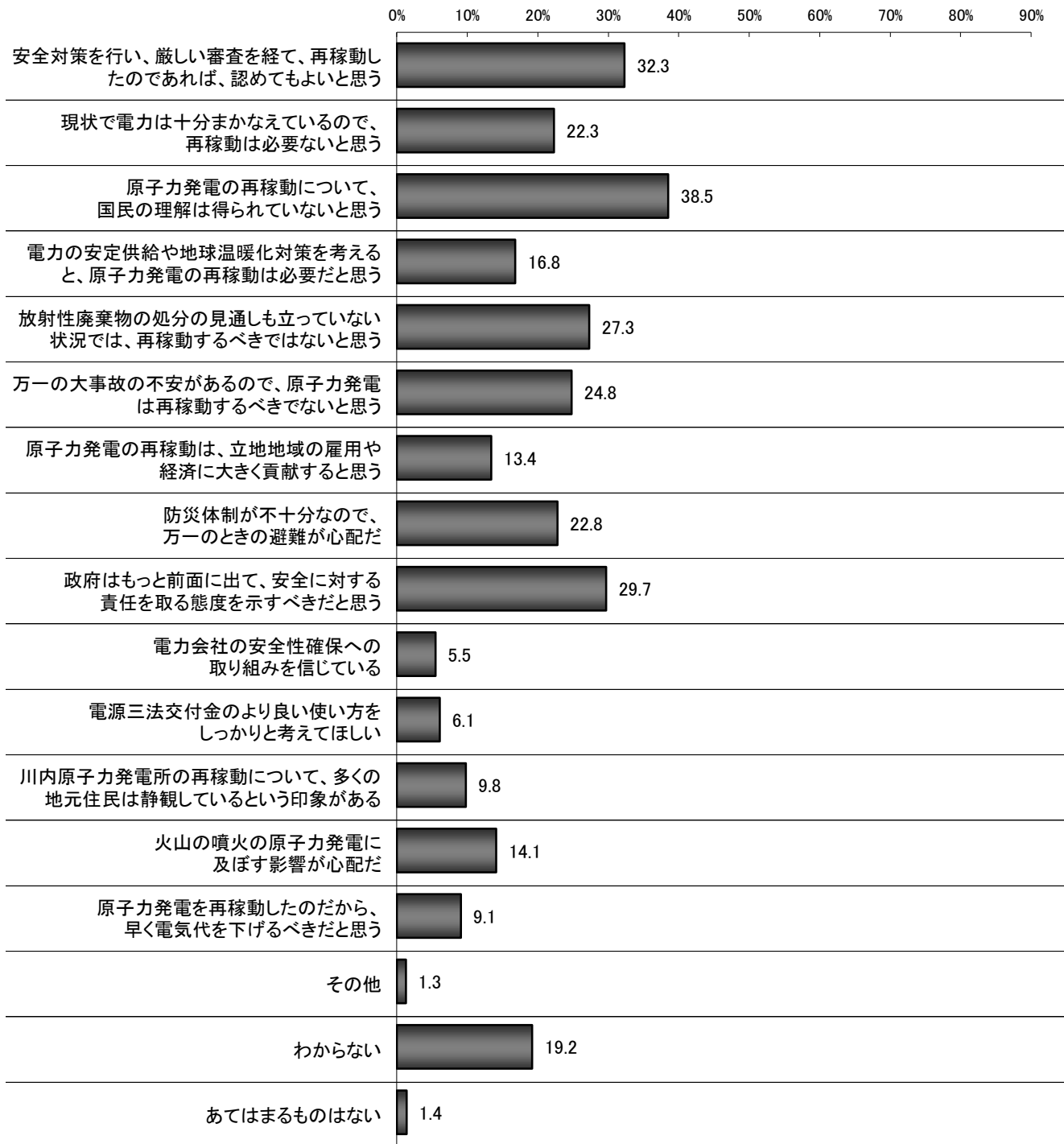
問6-2. 原子力規制委員会による新規規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることとなります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

16年10月全体 N=1200



<参考>2015年10月 N=1200

問. 九州電力(株)川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)



<2016年10月のクロス集計結果(1/2)>

問6-2. 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることになります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	性別		年代別							UPZ圏内・圏外	
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	原発UPZ圏内	原発UPZ圏外
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	222	167	90	1110
安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う	31.2	35.7	26.7	29.6	32.2	37.1	34.6	26.8	24.8	32.9	31.1	31.2
現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う	25.8	23.8	27.8	12.7	14.8	18.0	26.2	30.6	36.5	30.5	25.6	25.9
原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う	42.0	43.6	40.4	25.4	29.5	37.6	41.6	47.0	54.5	43.7	37.8	42.3
電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う	14.0	18.0	10.1	14.1	14.8	16.5	11.2	10.9	14.9	16.2	17.8	13.7
放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う	31.5	29.9	33.1	21.1	18.1	23.7	30.4	38.3	46.4	31.1	33.3	31.4
万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないとと思う	28.6	27.0	30.1	14.1	14.1	24.2	23.8	33.3	40.5	37.7	32.2	28.3
原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う	11.0	14.9	7.1	7.0	7.4	13.9	13.1	10.9	11.3	9.6	16.7	10.5
防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ	27.6	28.2	27.0	21.1	17.4	27.8	28.0	26.8	32.9	32.3	26.7	27.7
政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う	29.8	31.0	28.6	18.3	19.5	29.4	23.8	39.3	37.8	31.1	25.6	30.2
電力会社の安全性確保への取り組みを信じている	3.6	3.7	3.5	-	-	3.6	4.2	3.3	6.3	4.2	5.6	3.4
電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい	4.9	4.2	5.6	1.4	3.4	4.6	4.7	4.9	6.8	6.0	6.7	4.8
原子力発電所の再稼働について、多くの地元住民は静観しているという印象がある	10.0	10.6	9.4	7.0	4.7	7.7	7.9	9.3	14.0	16.8	11.1	9.9
火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ	10.9	12.1	9.8	5.6	6.7	7.7	8.9	10.4	15.8	17.4	6.7	11.3
原子力発電を再稼働したら、早く電気代を下げるべきだと思う	7.8	10.6	5.1	4.2	7.4	11.9	9.8	4.4	6.8	7.8	5.6	8.0
原子力規制委員会が新規制基準への適合確認をした原子力発電所は、安全だと思う	1.8	2.3	1.3	-	1.3	1.5	0.9	1.1	2.7	4.2	4.4	1.6
原子力発電所の再稼働については、裁判所の判断を十分に尊重すべきだと思う	6.3	6.4	6.3	-	3.4	5.7	4.2	6.6	10.8	9.0	4.4	6.5
その他	1.5	1.5	1.5	-	0.7	3.1	0.9	2.2	1.8	0.6	2.2	1.4
わからない	19.7	15.8	23.5	36.6	34.2	19.6	19.2	18.0	11.7	12.6	16.7	19.9

<2016年10月のクロス集計結果(2/2)>

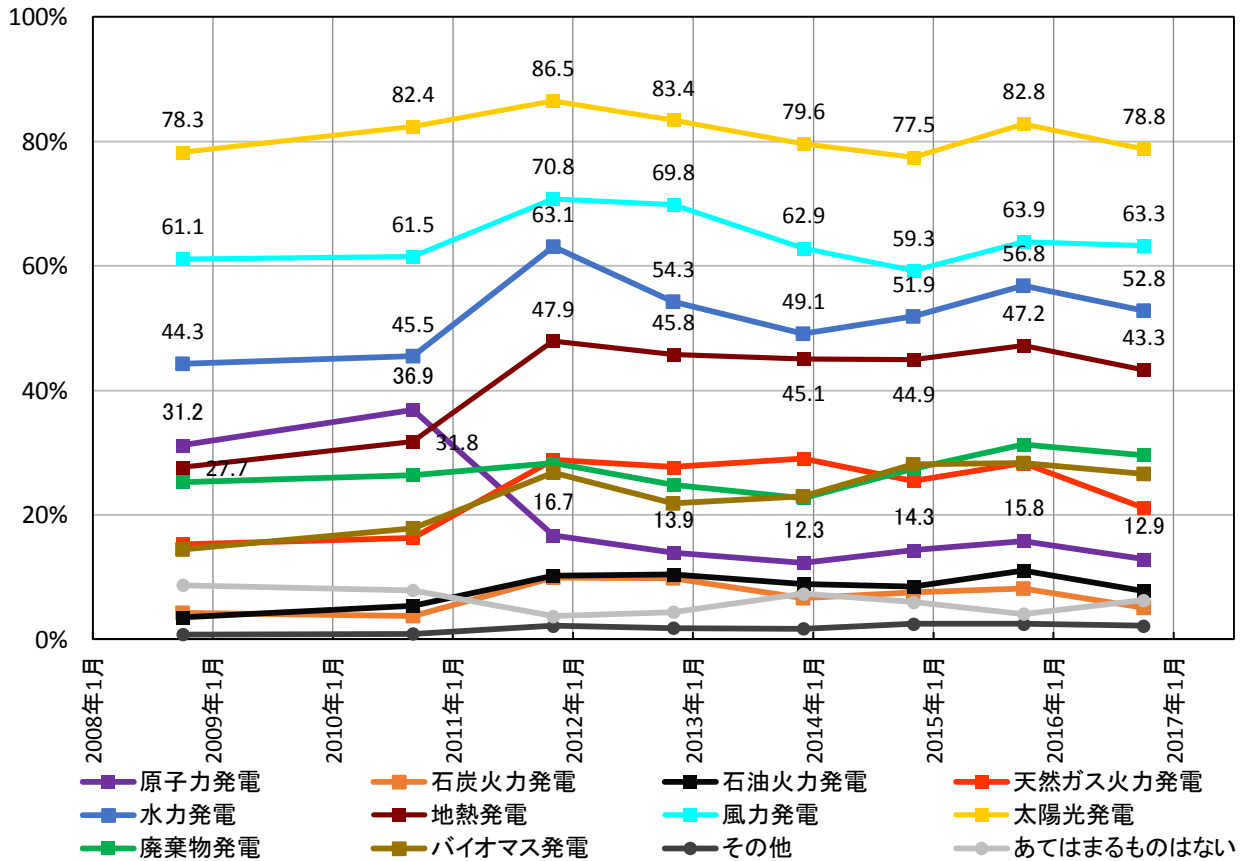
問6-2. 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることになります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	子供の有無別		女性の職業形態別			知識の程度別				社会性の程度別			
		小さい子供あり	子供なし	仕事あり	パート等	仕事なし	知識高	知識中	知識低	知識無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無
N	1200	294	813	138	168	252	113	400	347	340	134	561	349	156
安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う	31.2	32.3	31.5	29.0	31.5	22.2	40.7	35.0	30.8	23.8	31.3	35.1	31.2	16.7
現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う	25.8	20.7	27.7	24.6	29.8	29.8	33.6	30.5	26.2	17.4	45.5	28.3	18.3	16.7
原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う	42.0	35.7	44.0	34.8	41.7	45.6	54.9	53.3	40.3	26.2	62.7	50.8	28.4	23.1
電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う	14.0	12.2	14.8	10.9	7.1	10.7	24.8	19.5	12.4	5.6	18.7	15.3	12.3	9.0
放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う	31.5	22.4	34.2	28.3	36.9	35.3	43.4	42.5	32.0	14.1	47.8	39.2	21.2	12.8
万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないと思う	28.6	23.8	30.3	23.9	27.4	38.1	35.4	35.8	28.2	18.2	50.7	33.9	18.1	14.1
原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う	11.0	10.5	11.3	5.1	6.5	9.1	20.4	15.3	7.5	6.5	14.2	13.4	7.7	7.1
防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ	27.6	25.9	28.8	23.2	23.8	30.6	34.5	34.8	27.7	16.8	46.3	33.7	18.9	9.0
政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う	29.8	21.4	33.3	28.3	32.7	27.0	41.6	36.5	31.4	16.5	50.7	33.3	22.1	16.7
電力会社の安全性確保への取り組みを信じている	3.6	3.4	3.4	1.4	4.2	4.8	7.1	3.5	3.7	2.4	6.0	3.4	4.0	1.3
電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい	4.9	3.1	5.4	12.3	1.8	5.2	11.5	5.8	4.6	2.1	6.7	6.2	3.2	2.6
原子力発電所の再稼働について、多くの地元住民は静観しているという印象がある	10.0	7.5	11.2	11.6	8.3	9.5	20.4	12.0	9.5	4.7	21.6	11.8	5.2	4.5
火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ	10.9	6.5	12.2	4.3	10.1	13.5	22.1	14.0	9.8	4.7	26.1	11.8	6.0	5.8
原子力発電を再稼働したら、早く電気代を下げるべきだと思う	7.8	8.8	7.1	8.7	3.0	5.2	13.3	9.5	8.1	3.8	9.0	10.3	4.6	5.1
原子力規制委員会が新規制基準への適合確認をした原子力発電所は、安全だと思う	1.8	1.0	2.2	0.7	0.6	2.4	4.4	2.3	1.4	0.9	5.2	2.0	0.6	1.3
原子力発電所の再稼働については、裁判所の判断を十分に尊重すべきだと思う	6.3	5.4	7.0	8.0	6.0	6.7	10.6	9.0	3.7	4.4	14.9	6.6	4.3	2.6
その他	1.5	2.4	1.2	2.2	1.2	1.6	5.3	2.0	0.9	0.3	6.0	1.4	0.6	-
わからない	19.7	23.1	18.5	23.9	20.8	23.4	5.3	6.3	20.5	39.4	4.5	10.9	25.2	51.9

## ●エネルギーに対する態度

今後日本が利用・活用していくべきと思うエネルギーを尋ねたところ、「太陽光発電」(78.8%)、「風力発電」(63.3%)、「水力発電」(52.8%)、「地熱発電」(43.3%)と続く。前回と大きな変化はない。一方、石炭火力、石油火力は経年的にも低いポイントである。原子力発電も福島事故後から低いポイントであり、この傾向は維持されている。

問5. 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。  
以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)



	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月
原子力発電	31.2	36.9	16.7	13.9	12.3	14.3	15.8	12.9
石炭火力発電	4.3	3.7	9.9	9.8	6.6	7.6	8.2	5.1
石油火力発電	3.5	5.4	10.2	10.4	8.9	8.5	11.1	7.8
天然ガス火力発電	15.3	16.3	28.9	27.7	29.1	25.5	28.3	21.1
水力発電	44.3	45.5	63.1	54.3	49.1	51.9	56.8	52.8
地熱発電	27.7	31.8	47.9	45.8	45.1	44.9	47.2	43.3
風力発電	61.1	61.5	70.8	69.8	62.9	59.3	63.9	63.3
太陽光発電	78.3	82.4	86.5	83.4	79.6	77.5	82.8	78.8
廃棄物発電	25.3	26.4	28.3	24.8	22.7	27.4	31.3	29.6
バイオマス発電	14.4	17.8	26.8	21.9	23.0	28.1	28.3	26.6
その他	0.8	0.9	2.2	1.8	1.7	2.5	2.5	2.2
あてはまるものはない	8.7	7.9	3.7	4.4	7.3	6.0	4.1	6.3

\*08年10月までの質問文は「今後わが国は～」、10年9月から「今後日本は～」に変更

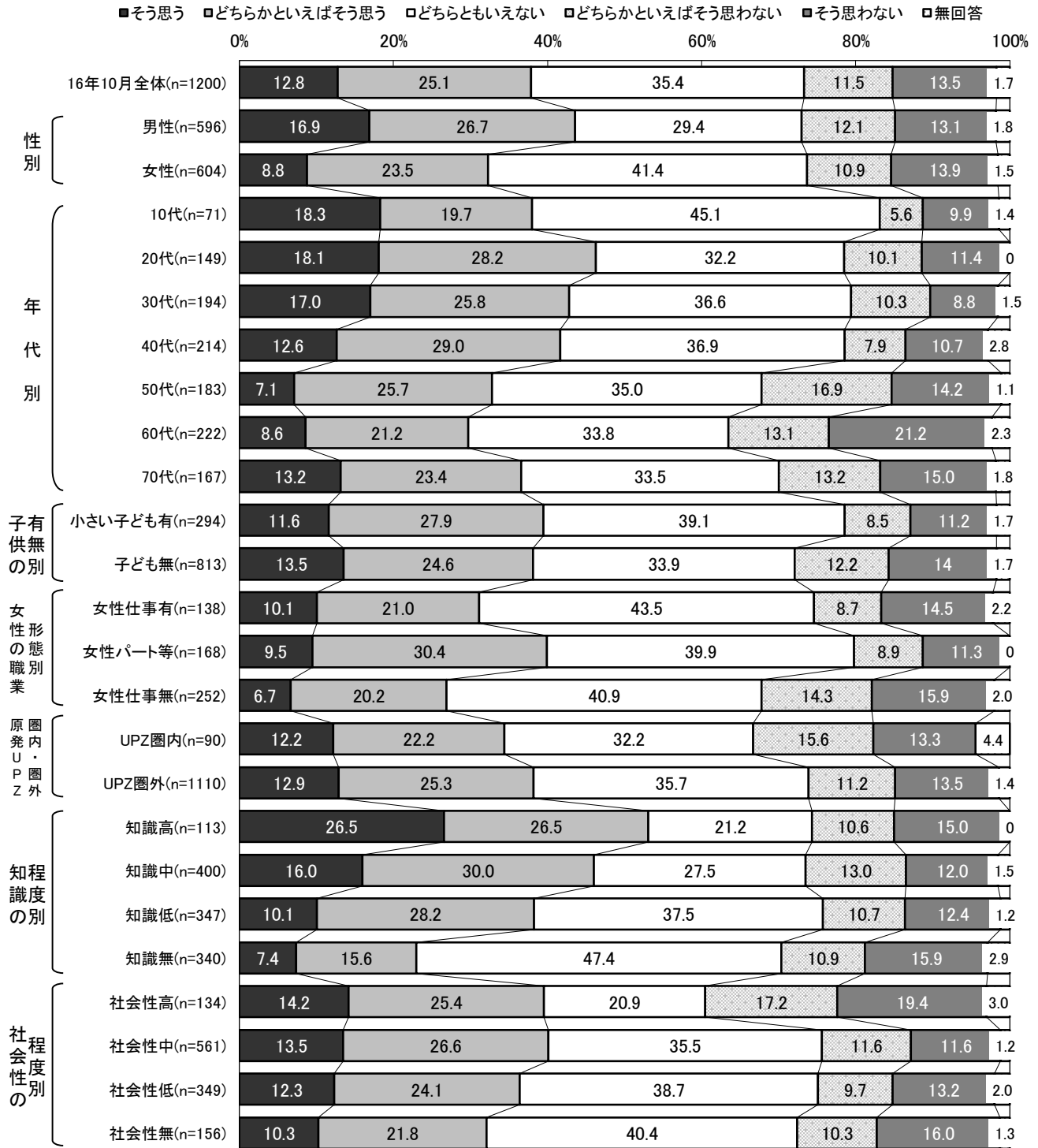
V章 原子力・放射線・エネルギーについての  
ベネフィット認知

●原子力発電のベネフィット認知

「原子力発電は役に立つ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は37.9%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は25.0%。前回と比べると、否定側に変化している。性別では、肯定的回答は女性(32.3%)よりも男性(43.6%)の方が高め。年代別にみると、若年層で肯定的意見が多く、高齢層では、若年層に比べて否定的意見がやや多くなる。知識高では肯定的意見が多く、知識量が低くなるにつれて肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)

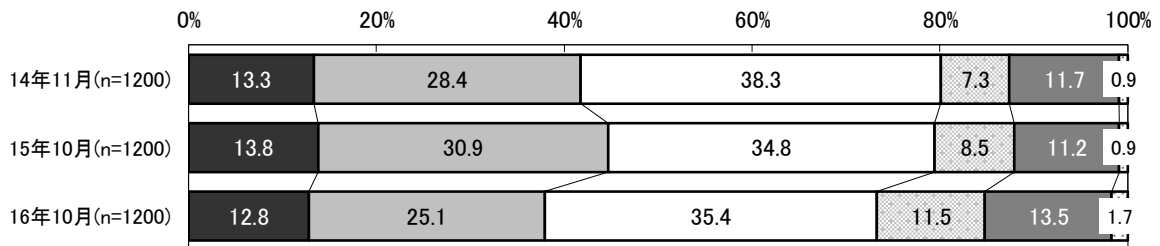
【a】原子力発電は役に立つ



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【原子力発電は役に立つ】

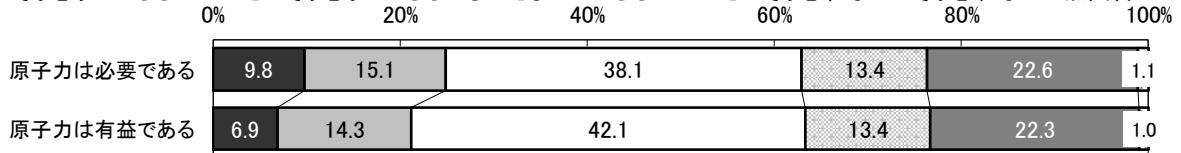
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
2013年12月 全体N=1200

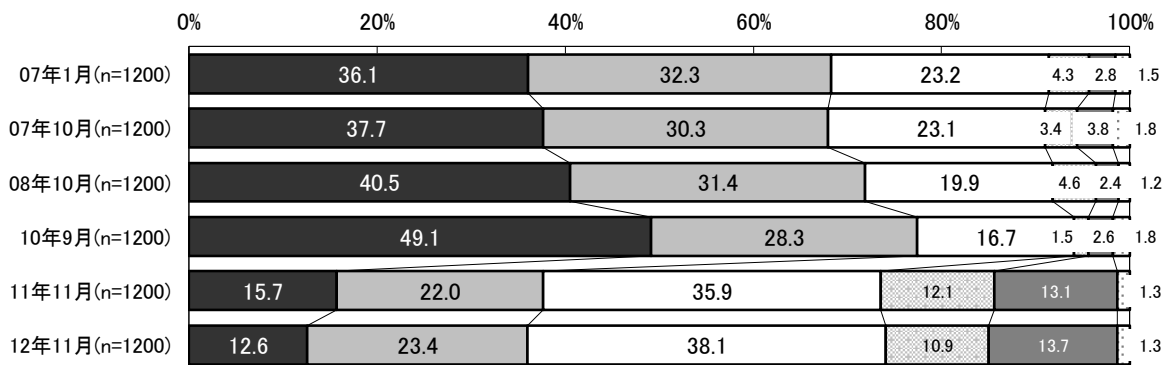
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【原子力発電】

■ 必要である □ どちらかといえば必要である □ どちらともいえない □ どちらかといえば必要でない □ 必要でない □ 無回答



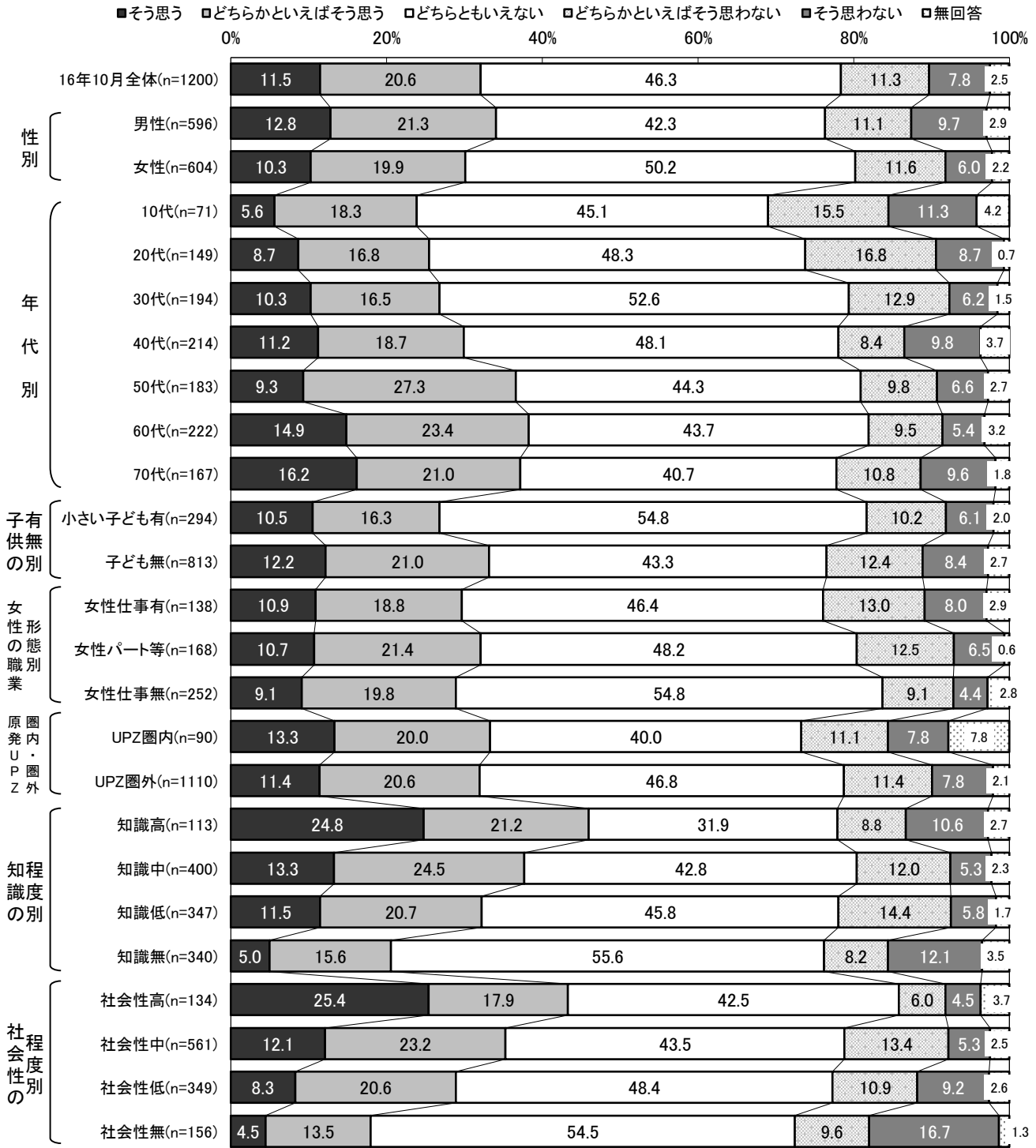
\* 07年1月の選択肢は「そう思う/どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である/どちらかといえば必要である」



●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

「原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる」に肯定的な回答(原子力に否定的な意見)「**そう思う**」+「**どちらかといえばそう思う**」は32.1%。一方、否定的な回答(「**そう思わない**」+「**どちらかといえばそう思わない**」)の割合は19.1%。(原子力の必要性に関しては、逆転項目であることに注意する。)**「どちらともいえない」という回答が4割を大きく超える。前回と大きな変化はない。**  
 10~60代で、年齢と共に肯定的意見が増える。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【c) 原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】

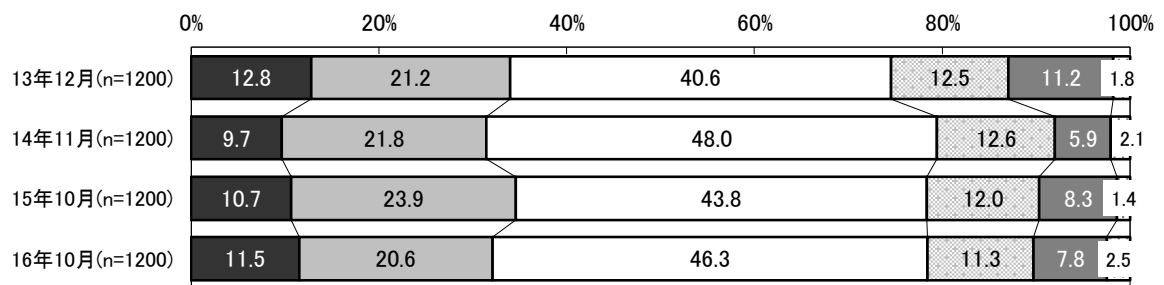


<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】

\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

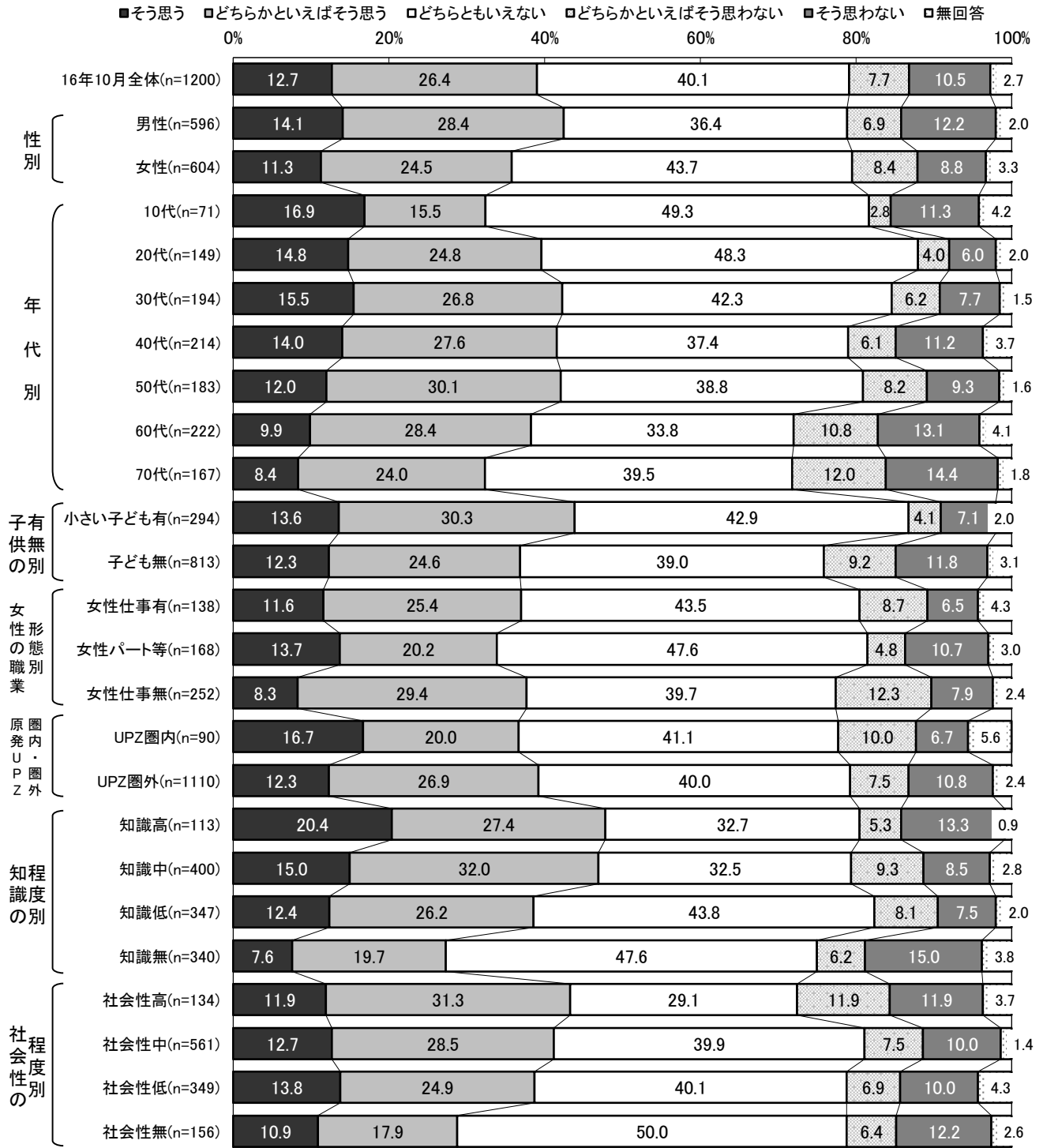
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

「原子力発電がないと、電気料金が上がる」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は39.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は18.2%。前回と比べると、肯定的意見が減少している。  
 年代別にみると、高齢層で否定的意見が多い。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)  
 【d) 原子力発電がないと、電気料金が上がる】

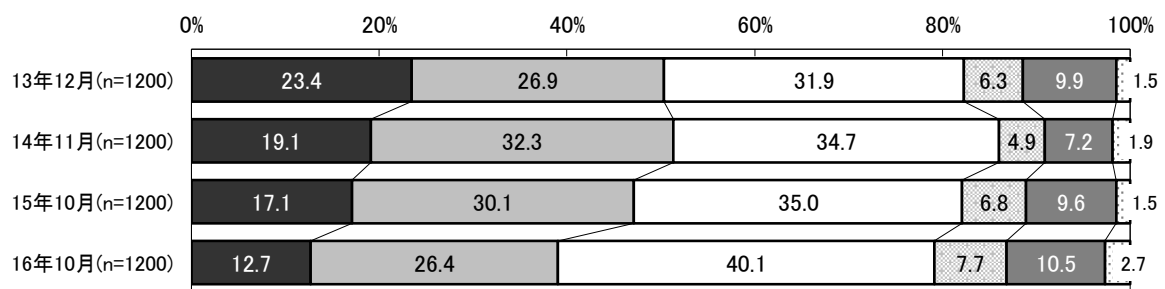


<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【原子力発電がないと、電気料金が上がる】

\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



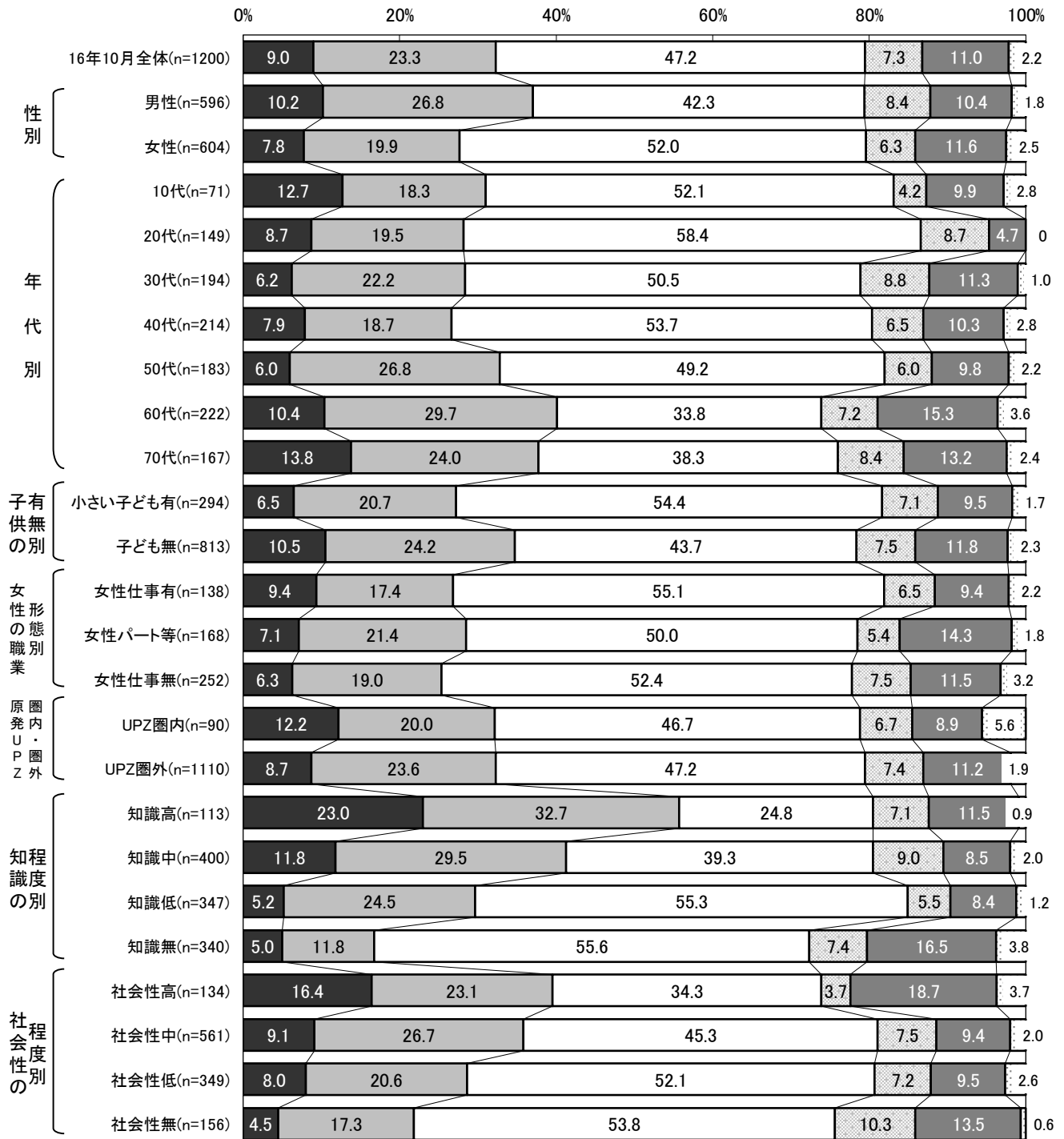
●原子力発電のベネフィット認知(地球温暖化)

「原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないの、地球温暖化防止に有効である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は32.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は18.3%。「どちらともいえない」という回答が5割弱。前回と大きな変化はない。  
性別では、肯定的回答は女性よりも男性が多い。年代別にみると、50代以上で、肯定的意見が高い。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)

【e) 原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないの、地球温暖化防止に有効である】

■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答



<経年変化>

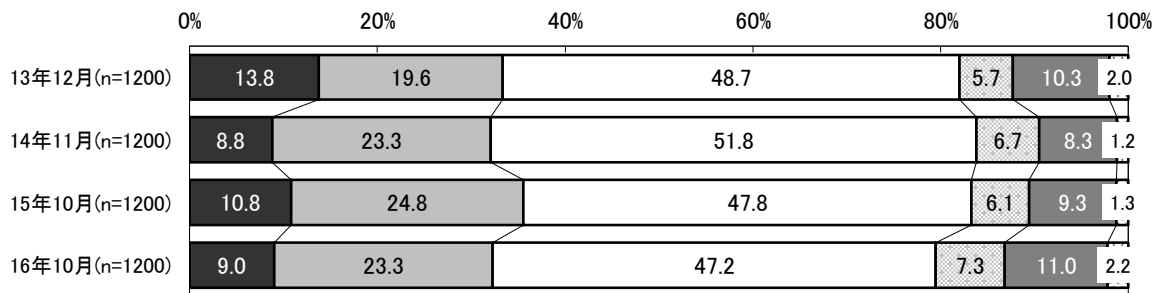
問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。

あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】

\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

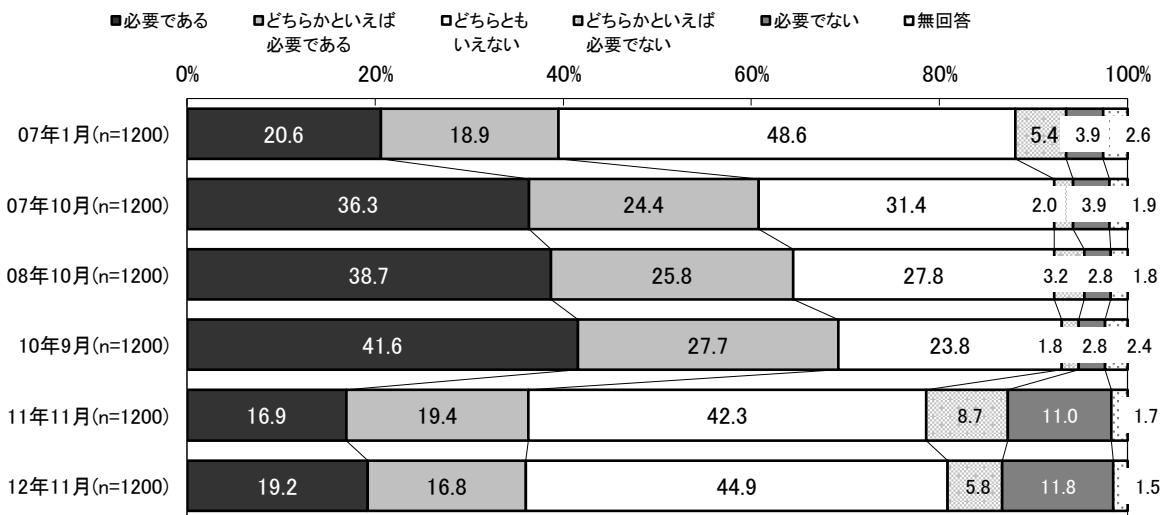


<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。

あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること】

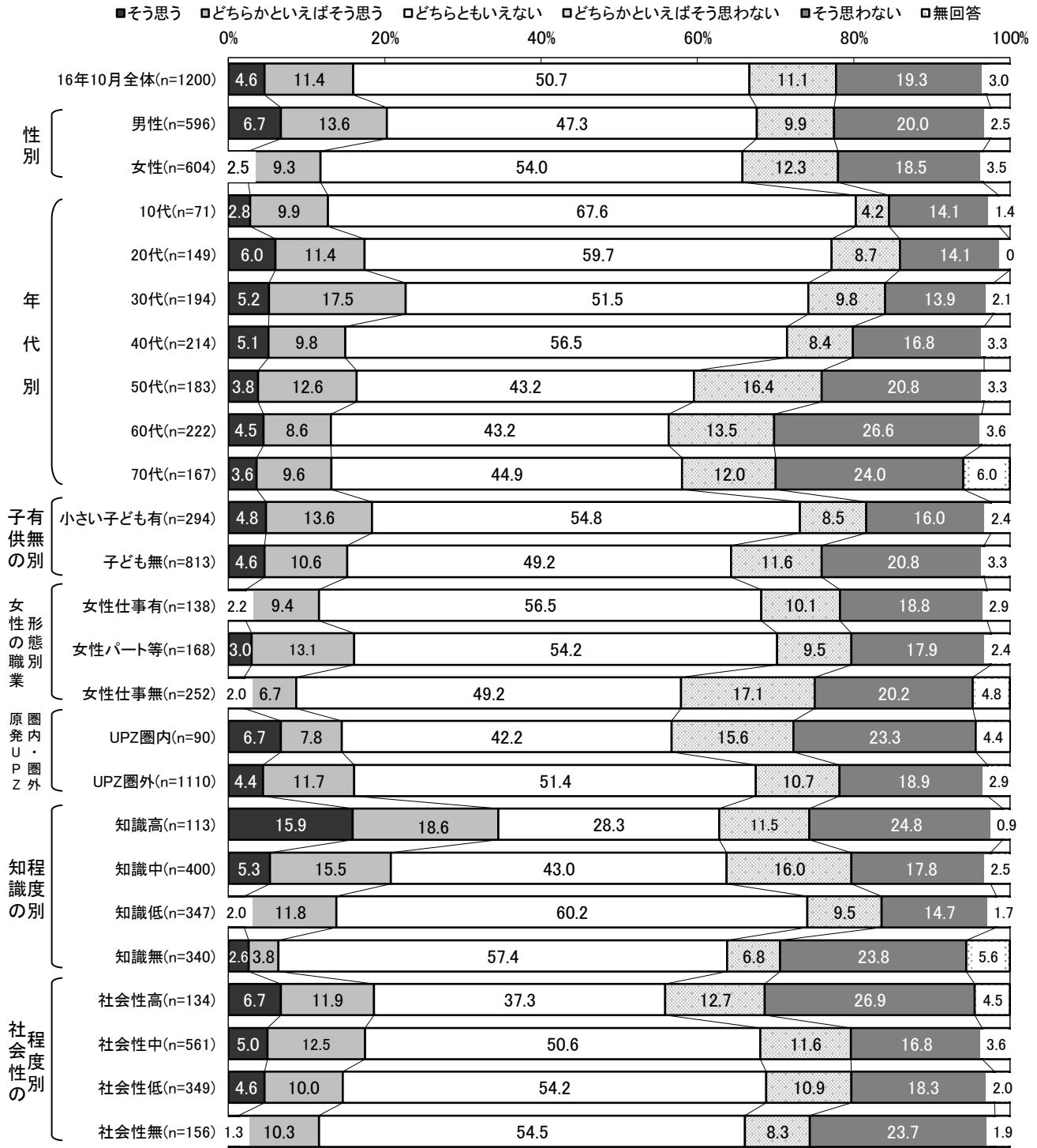


\* 07年1月の選択肢は「そう思う/どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である/どちらかといえば必要である」

●核燃料サイクル・プルサーマルのベネフィット認知

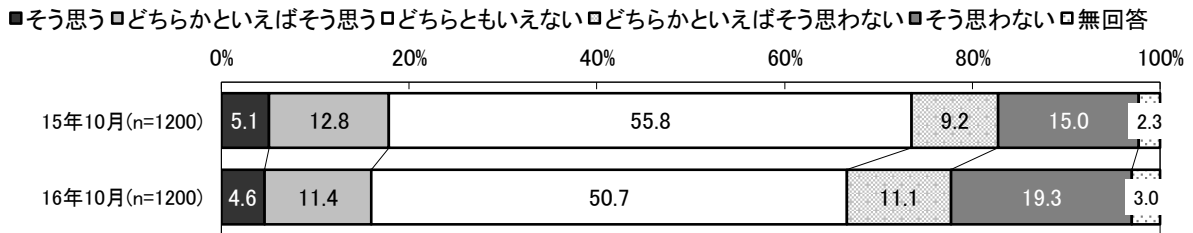
「核燃料サイクルは有益である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は16.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は30.4%。前回より否定的意見が若干増加した。年代で見ると、50代以上で否定的意見が高い。知識高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)  
【b) 核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ】



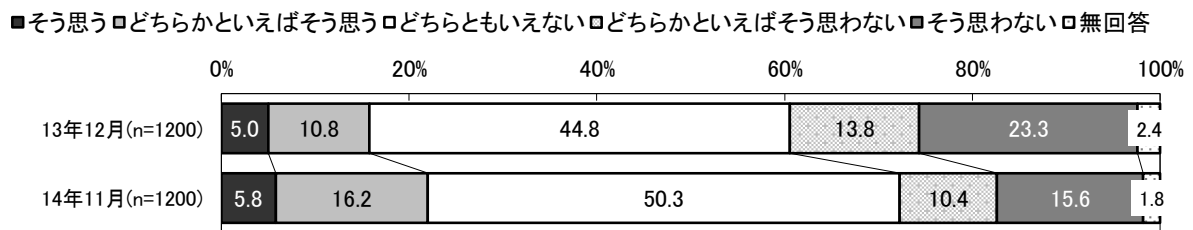
<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ】

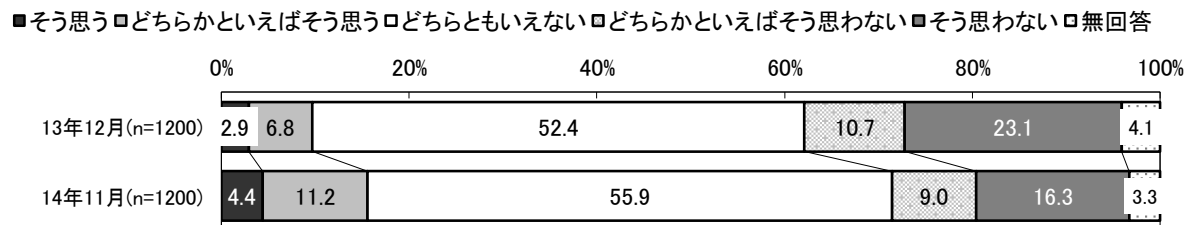


<参考>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
13年12月【核燃料サイクルは有益である】、14年11月【核燃料サイクルは役に立つ】  
\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。



問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
13年12月【プルサーマルは有益である】、14年11月【プルサーマルは役に立つ】  
\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

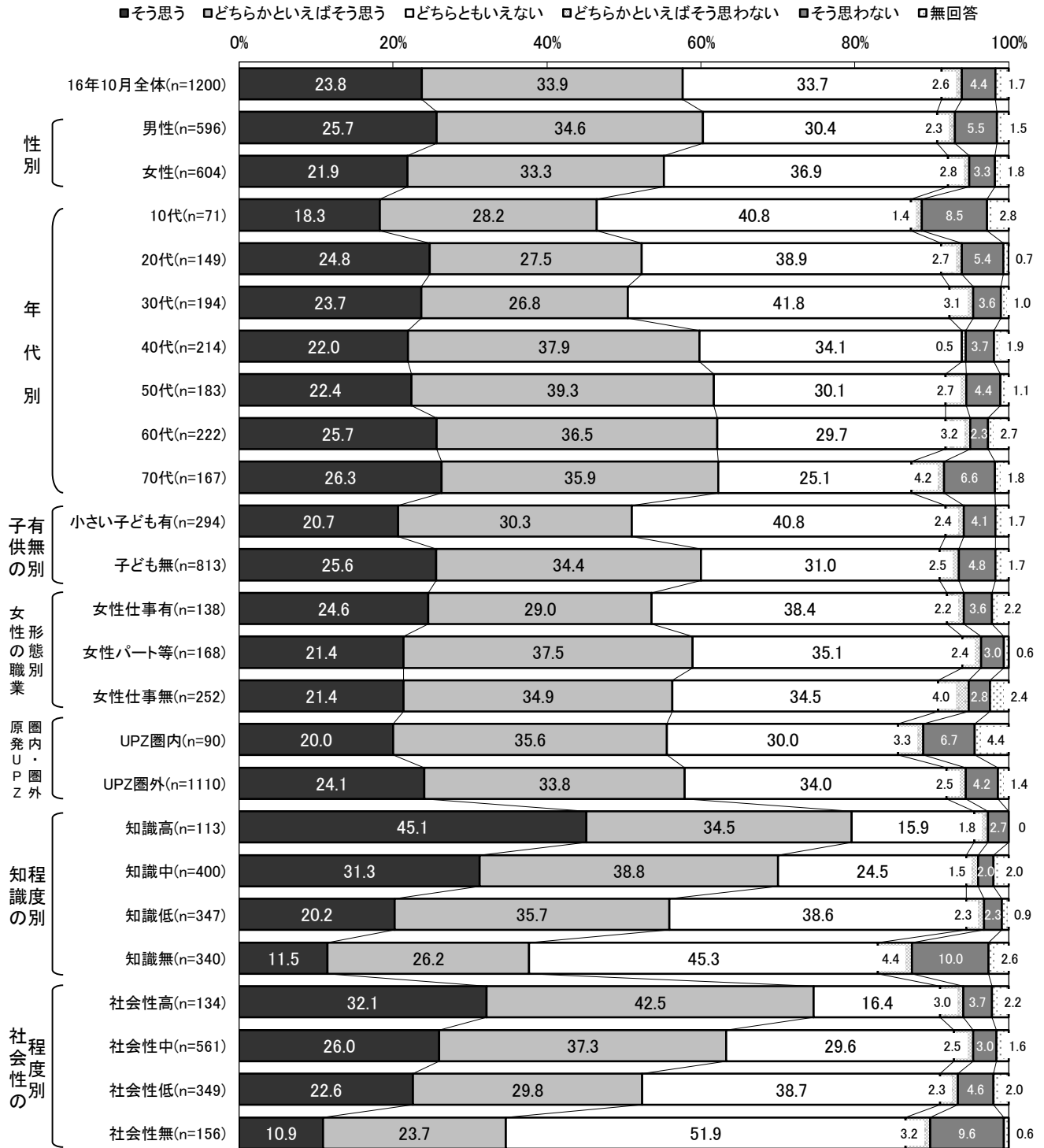




●放射線利用のベネフィット認知

「医療、工業、農業等における放射線利用は必要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は57.7%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は7.0%。前回と大きな変化はない。  
年代では、40代以上で肯定的意見が高い。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【n】医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】

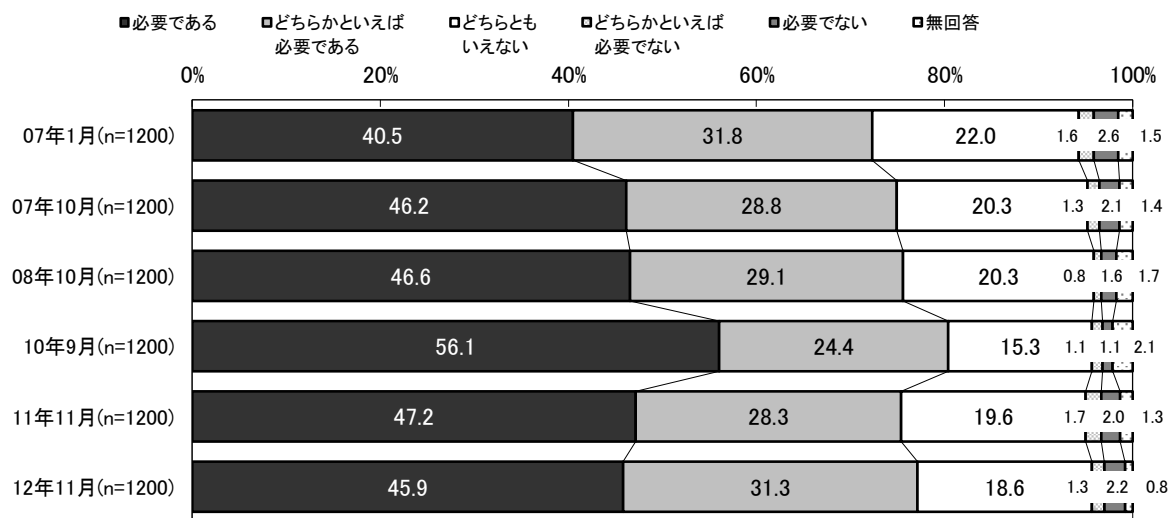
\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【医療、工業、農業等における放射線利用】



\* 07年1月の選択肢は「そう思う/どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である/どちらかといえば必要である」

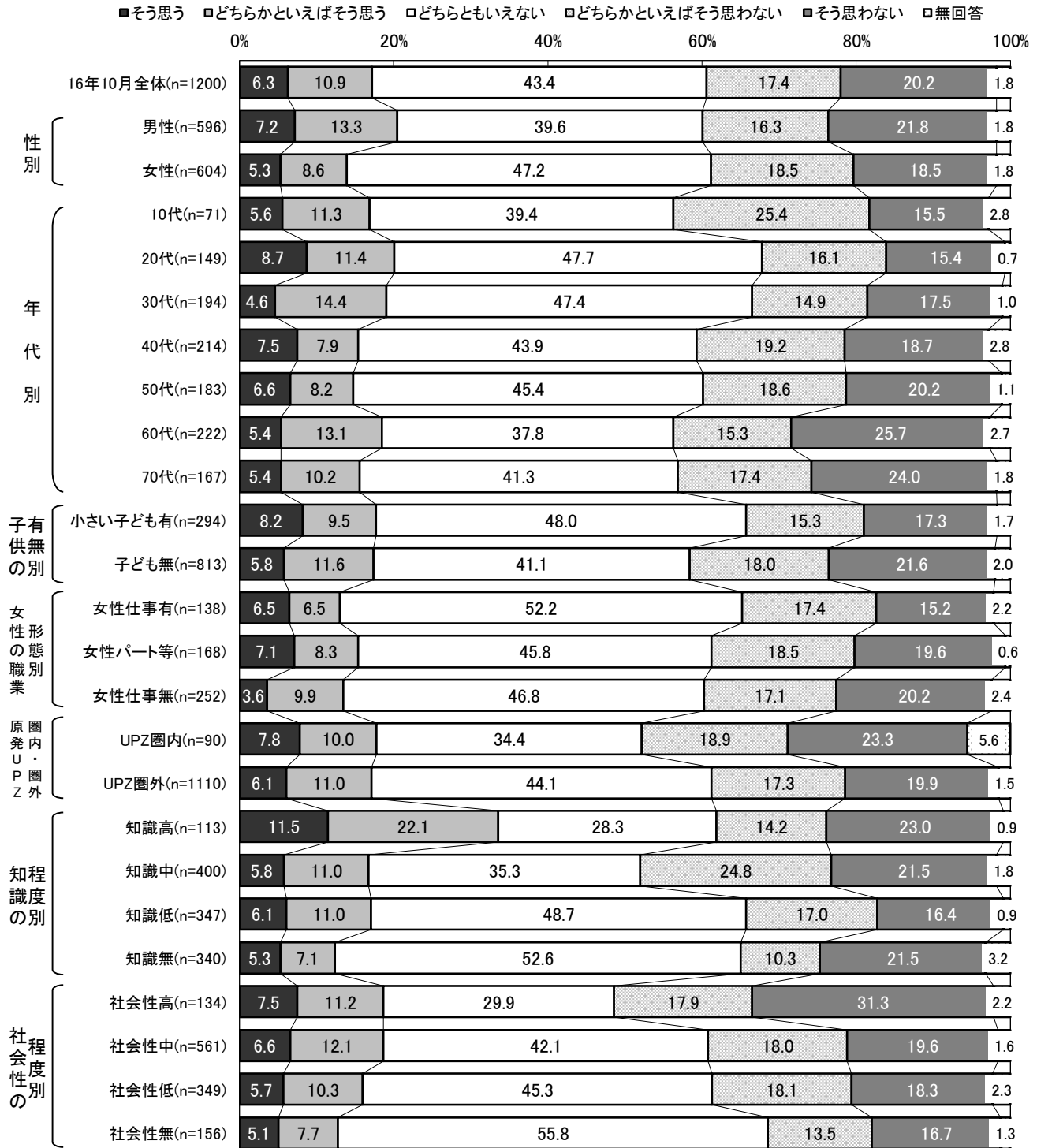


## VI章 原子力・放射線・エネルギーについての リスク認知

●原子力発電のリスク認知

「今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は17.2%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は37.6%。前回と大きな変化はない。  
 男性よりも女性の方が、肯定的な回答が低い。知識高では肯定的意見が比較的多く見られ、逆に知識中では否定的意見が多く見られる。

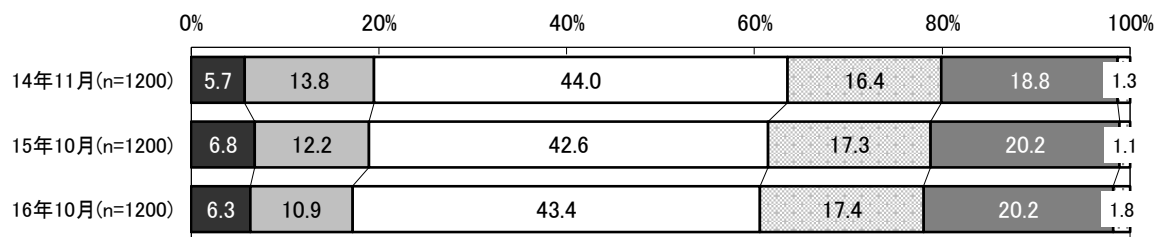
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)  
 【f) 今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

問. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
 それぞれの意見に対して、あなたは納得できますか、納得できませんか。  
 あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。  
 【今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】

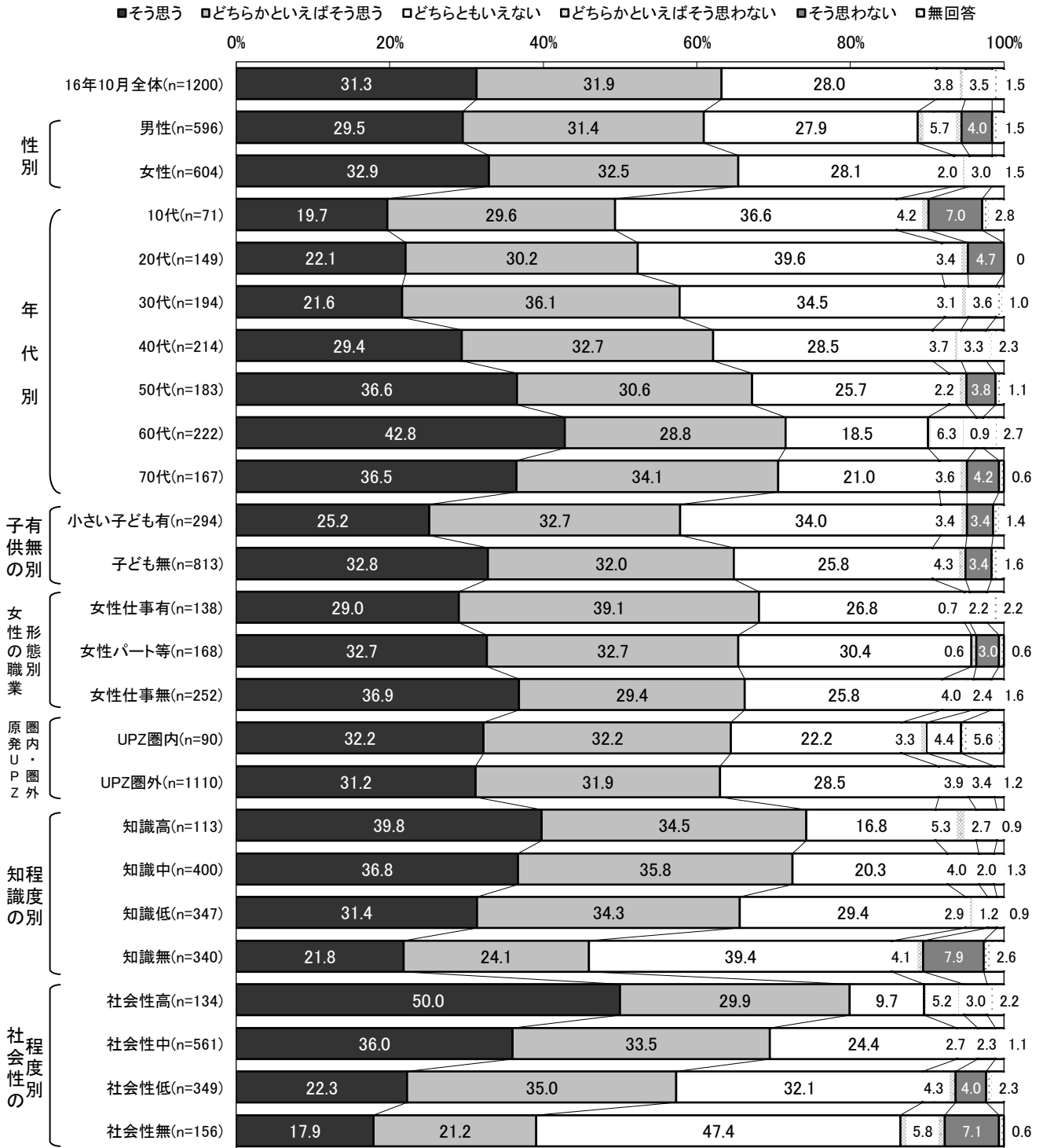
■ 納得できる □ どちらかといえば納得できる □ どちらともいえない □ わからない・しらない  
 □ どちらかといえば納得できない ■ 納得できない □ 無回答



●原子力発電のリスク認知

「わが国のような地震国に原子力発電所は危険である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は63.2%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は7.3%。前回と大きな変化はない。  
 年代別に見ると、10~60代で、年齢と共に、強い肯定的意見が増加する。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

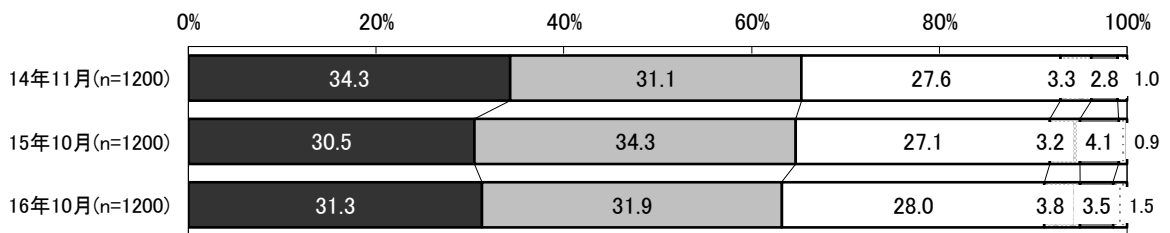
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)  
 【g】わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

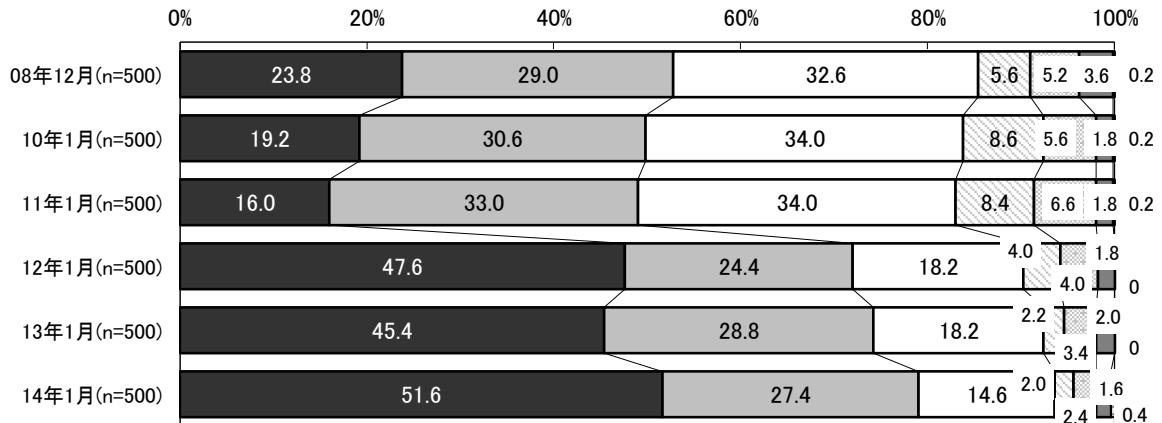


<参考>

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

問. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
それぞれの意見に対して、あなたは納得できますか、納得できませんか。  
あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。  
【わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

■ 納得できる □ どちらかといえば納得できる □ どちらともいえない □ わからない・しらない  
□ どちらかといえば納得できない ■ 納得できない □ 無回答

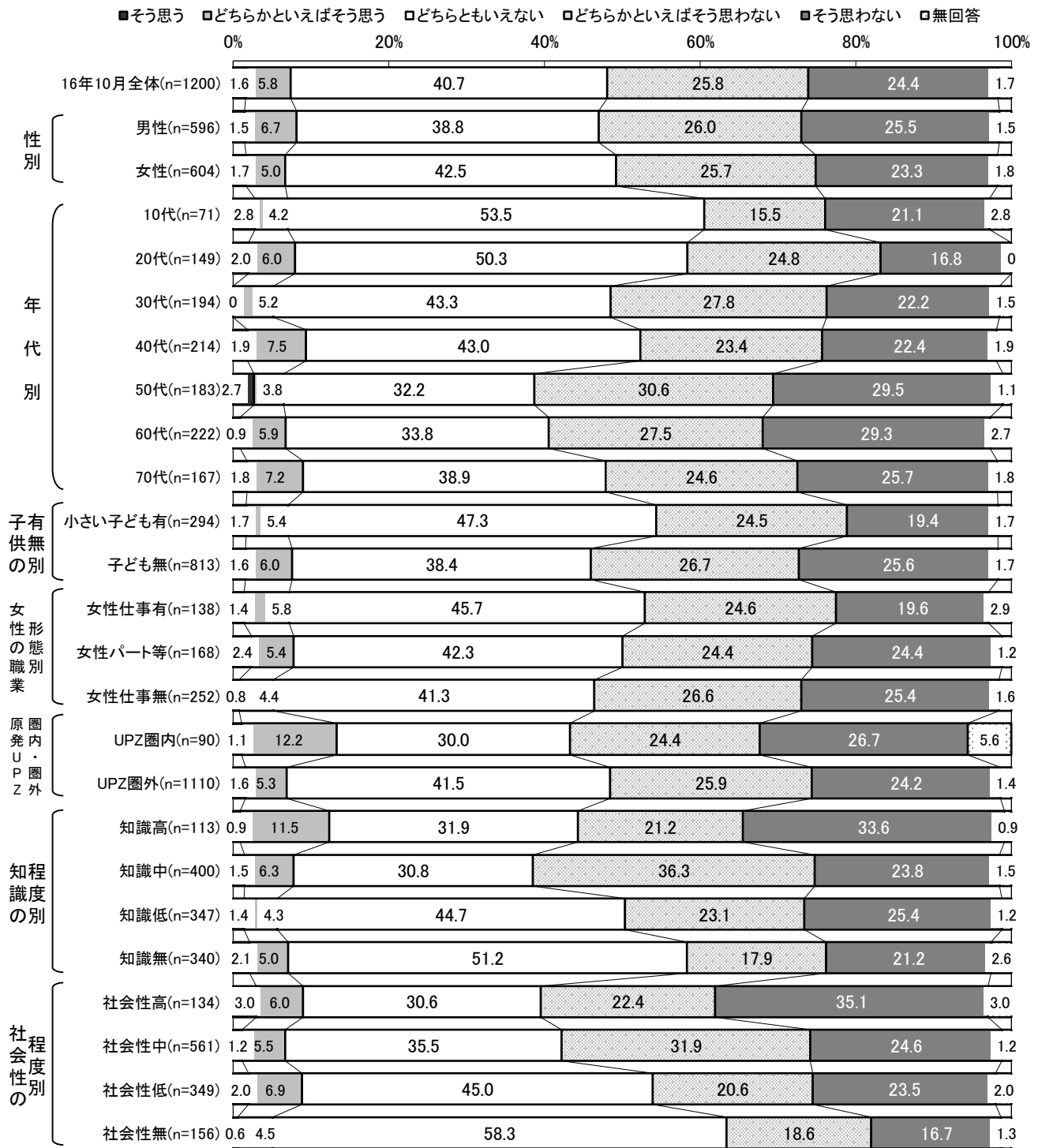




●原子力発電のリスク認知

「原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は7.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は50.2%。前回と大きな変化はない。  
 年齢別に見ると、高齢層での否定的意見が多い。知識別では、知識中で否定的意見がもっとも大きい。また、社会性高で否定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、否定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)  
 【h) 原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】



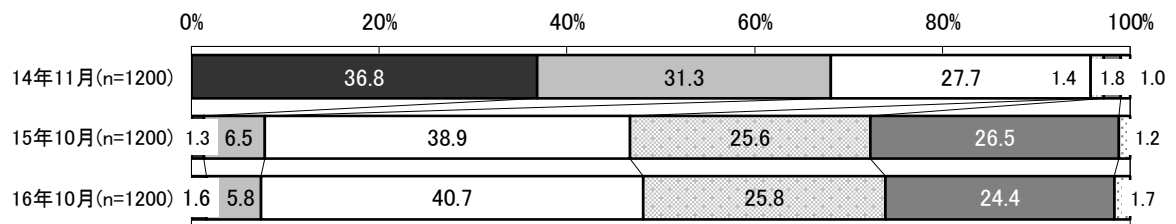
<参考>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

14年11月【原子力発電所の周辺地域の防災体制は十分でないと思う】

15年10月、16年10月【原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



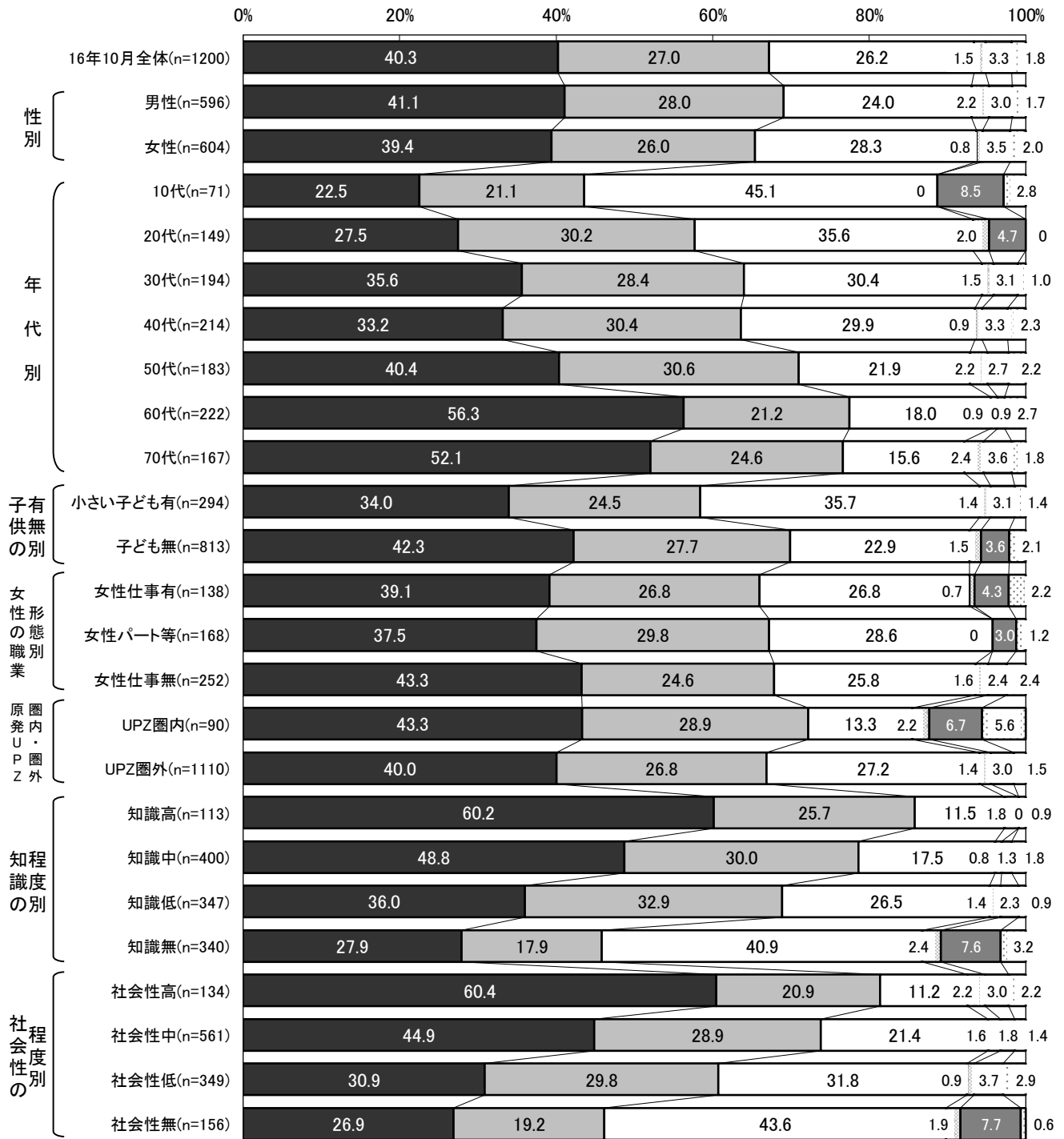
●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

「原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は67.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は4.8%。前回と大きな変化はない(もしくは、若干肯定的意見に減少が見られる)。年齢別に見ると、全体として年齢と共に、肯定的意見が増加する。また、知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)

(i) 原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない

■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答



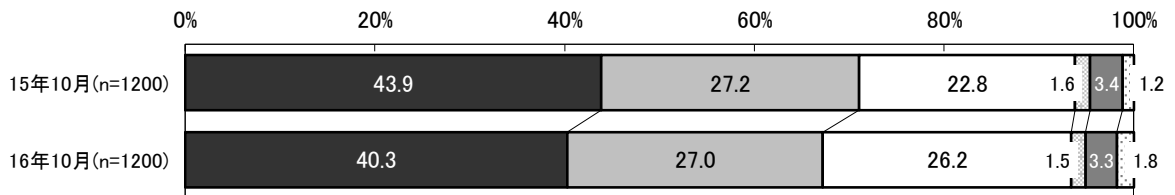
<経年変化>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。

あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

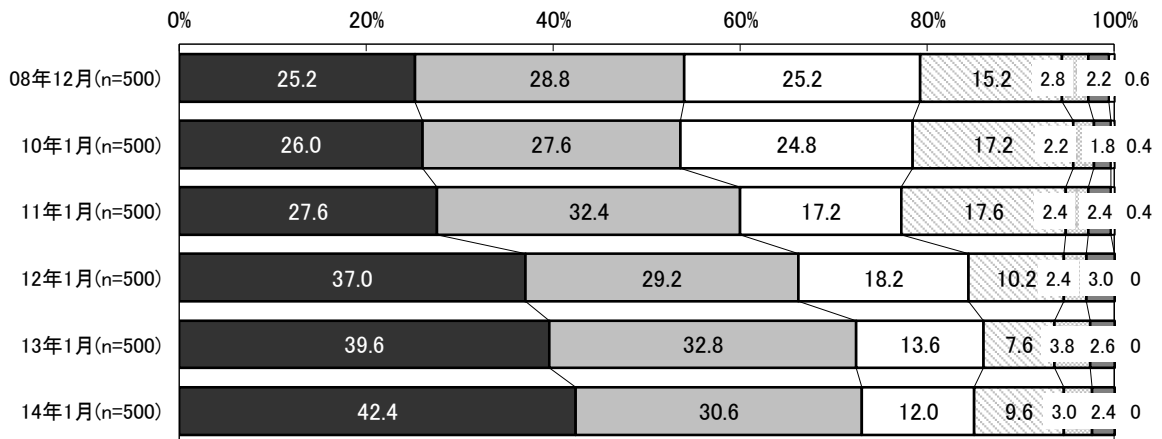
問. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

それぞれの意見に対して、あなたは納得できますか、納得できませんか。

あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。

【高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない】

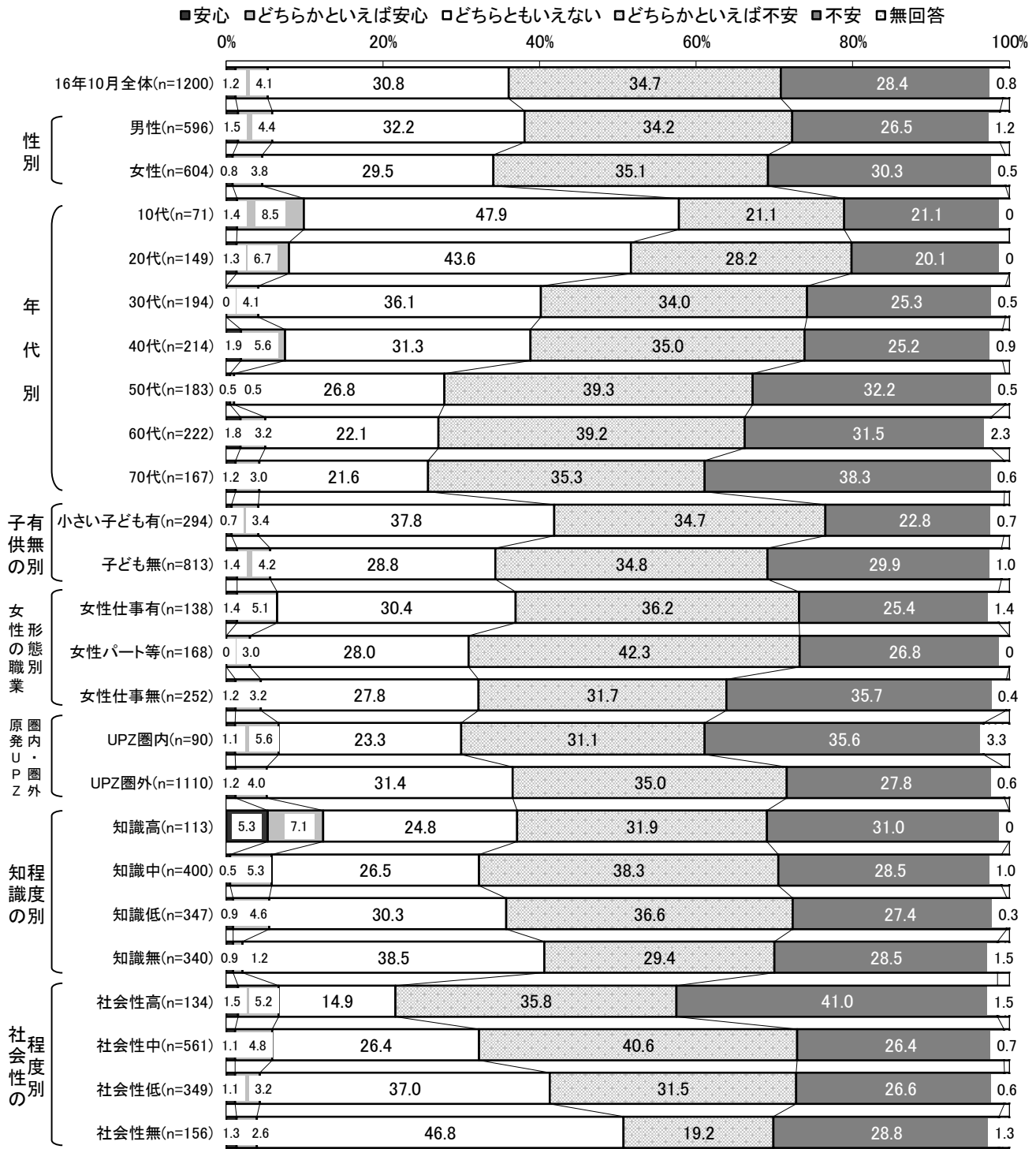
■ 納得できる □ どちらかといえば納得できる □ どちらともいえない □ わからない・しらない  
 □ どちらかといえば納得できない □ 納得できない □ 無回答



●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

放射性廃棄物処分の検討について、安心(「安心」+「どちらかといえば安心」という回答は5.3%であるのに対し、不安(「不安」+「どちらかといえば不安」という回答は63.1%と、不安層が圧倒的に多い。前回と大きな変化はない。年代別にみると、年齢と共に、不安との回答が増加し、60代以上では7割近くが不安と回答している。また、社会性高で否定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、否定的意見が減少する。

問8-1. 現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

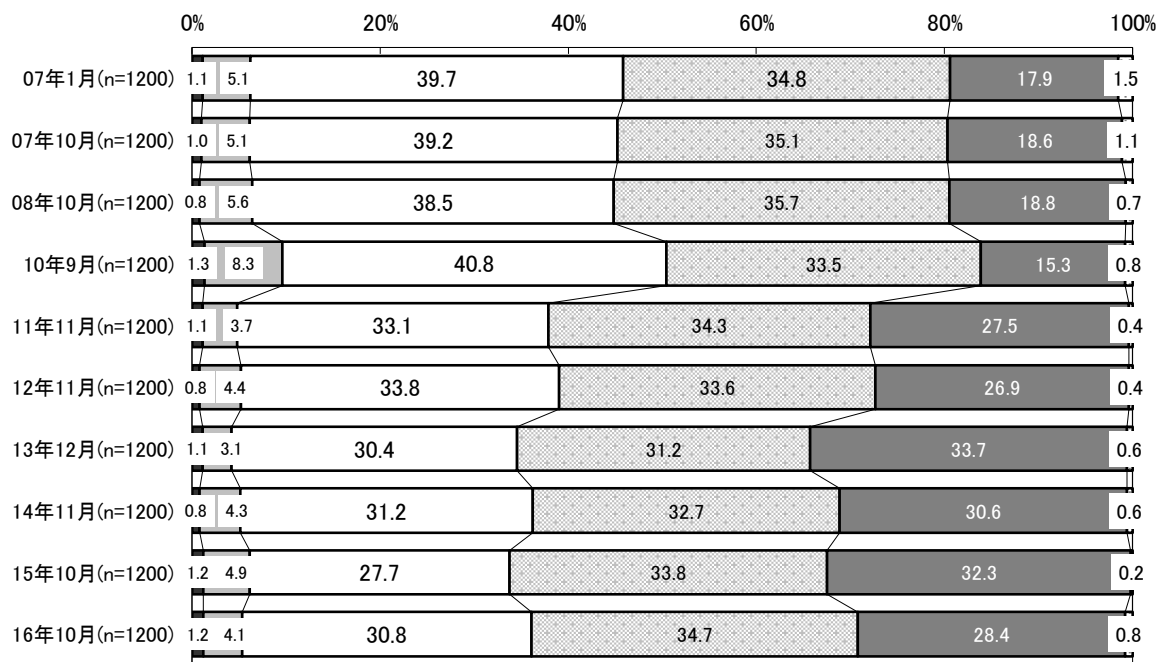


<経年変化>

問. 現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。  
あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

\* 11年11月までの質問文は、「放射性廃棄物」として聴取

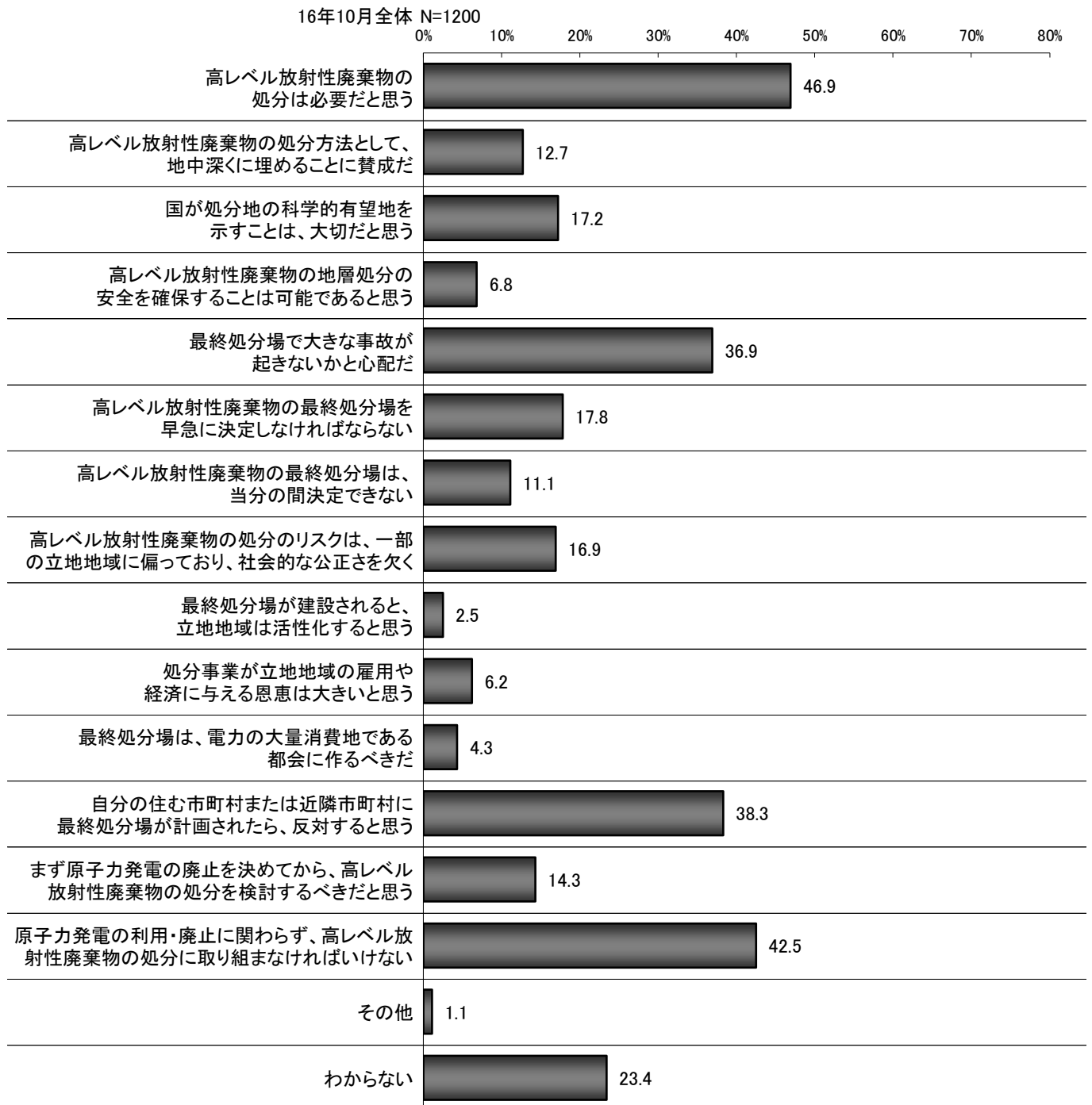
■安心 □どちらかといえば安心 □どちらともいえない □どちらかといえば不安 ■不安 □無回答



## ●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

高レベル放射性廃棄物処分に関する意見として多く見られるのは、「高レベル放射性廃棄物の処分は必要だと思う」(46.9%)、「原子力発電の利用・廃止に関わらず、高レベル放射性廃棄物の処分に取り組まなければいけない」(42.5%)、「自分の住む市町村または近隣市町村に最終処分場が計画されたら、反対すると思う」(38.3%)、「最終処分場で大きな事故が起きないかと心配だ」(36.9%)。原子力発電の利用・廃止に関わらず高レベル放射性廃棄物の処分は取り組まなければならないと思う一方、大きな事故の不安があり、近隣への処分場立地には否定的な意見を有する。  
 なお、立地による恩恵、安全確保が可能、都会への立地は選択率が小さい。

問8-2. 高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか。あなたのご意見と近いものをお選びください。(○はいくつでも)



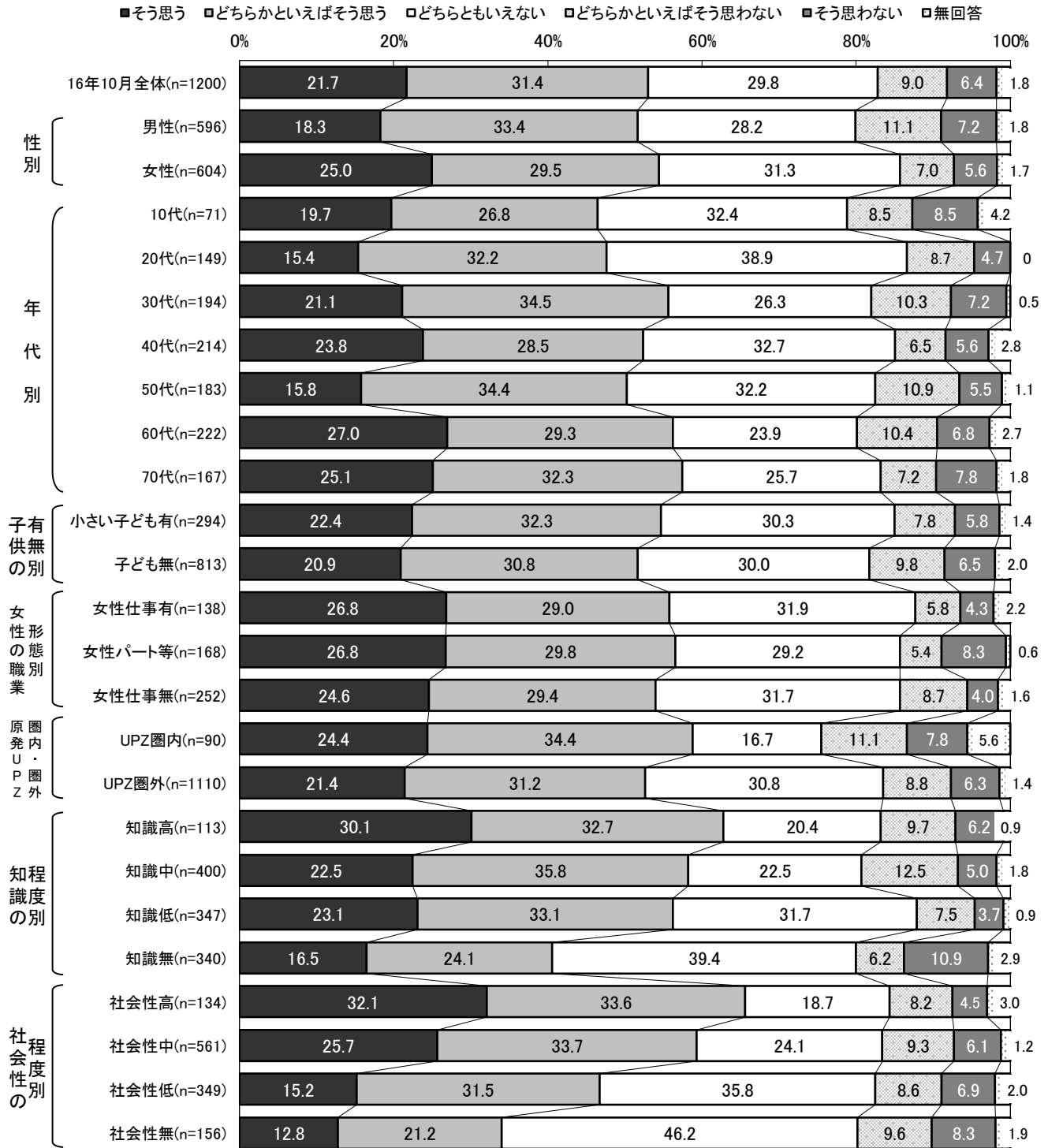




●放射能・放射線のリスク認知

「自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は53.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は15.4%。年を経るにしたがい、肯定方向への変化(不安感情の減少)が続いているように見える。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

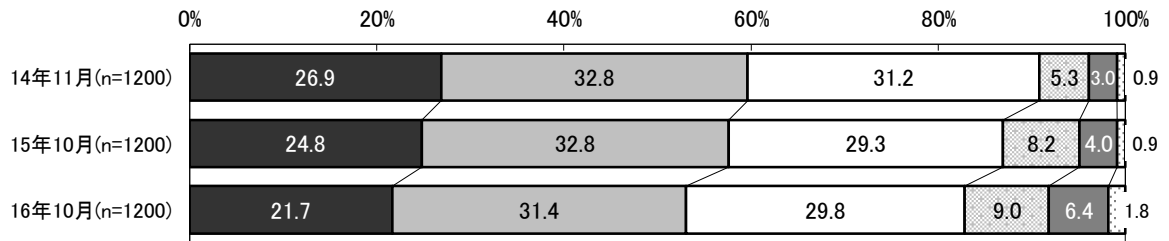
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1ずつ)  
【k) 自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】



＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】

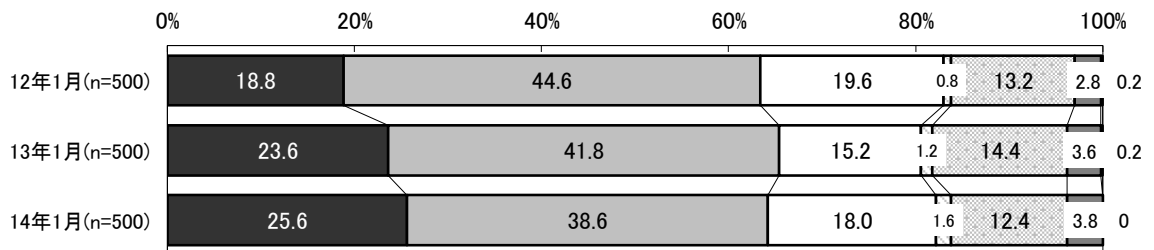
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



＜参考＞

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」  
 問. 以下は、放射能や放射線についてよく聞かれる意見です。  
 これらの意見は、あなたのお考えにあてはまりますか、あてはまりませんか。  
 あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。  
 【自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】

■ 強くあてはまる □ あてはまる □ どちらともいえない □ わからない・しらない □ あてはまらない □ まったくあてはまらない □ 無回答

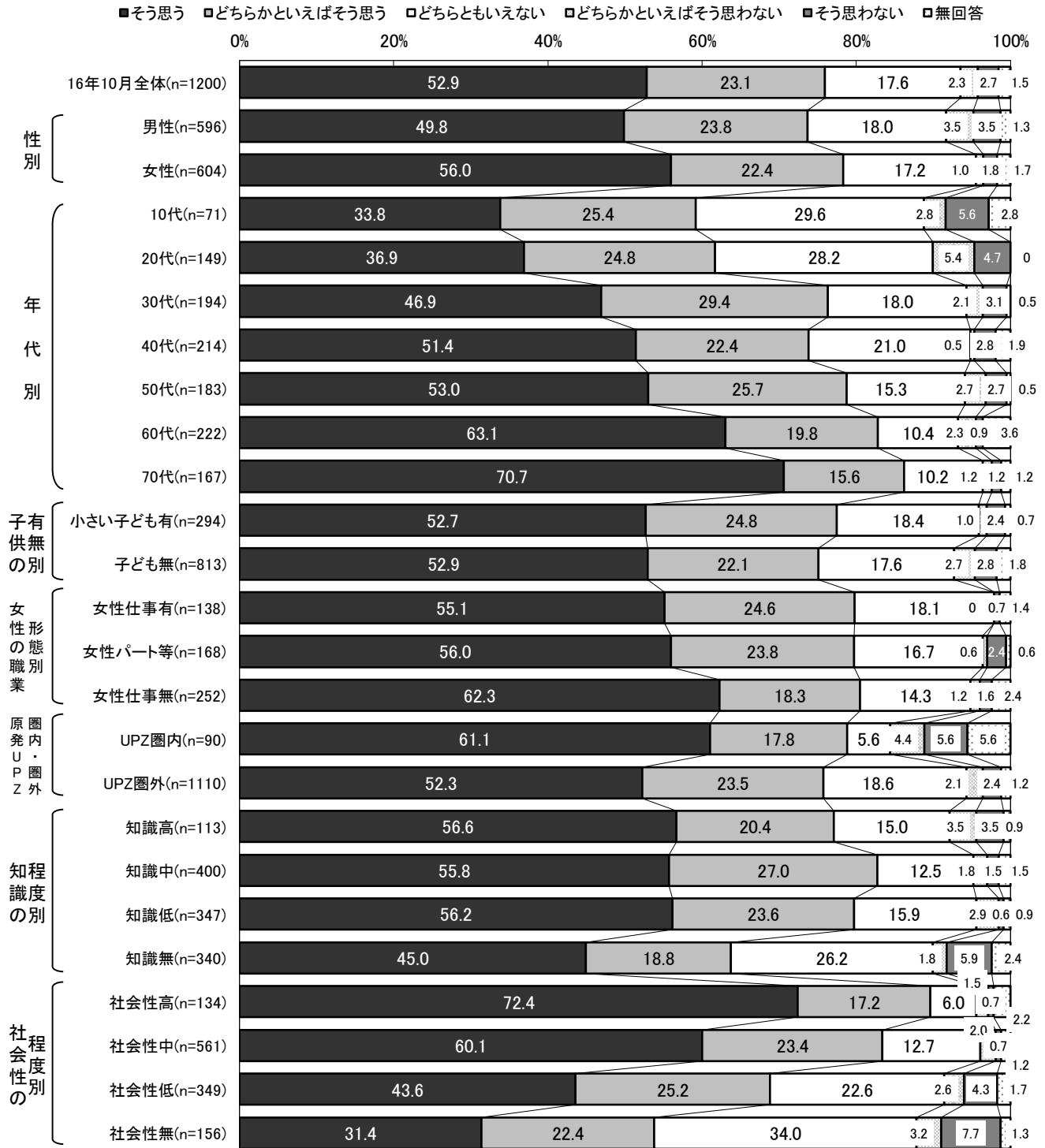


●放射能・放射線のリスク認知

「子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は76.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は5.0%。前回と比べると、若干肯定的回答が減少しているように見える。年代別に見ると、全体として年齢と共に、肯定的意見が増加する(その傾向からすると、30代で肯定的意見の突出が見られる)。また、社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)

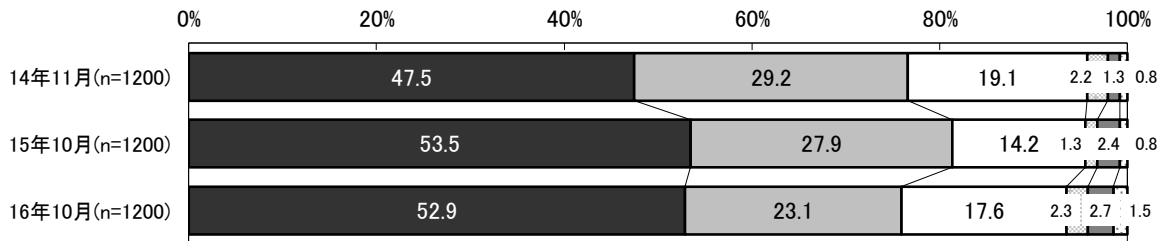
【(I) 子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】

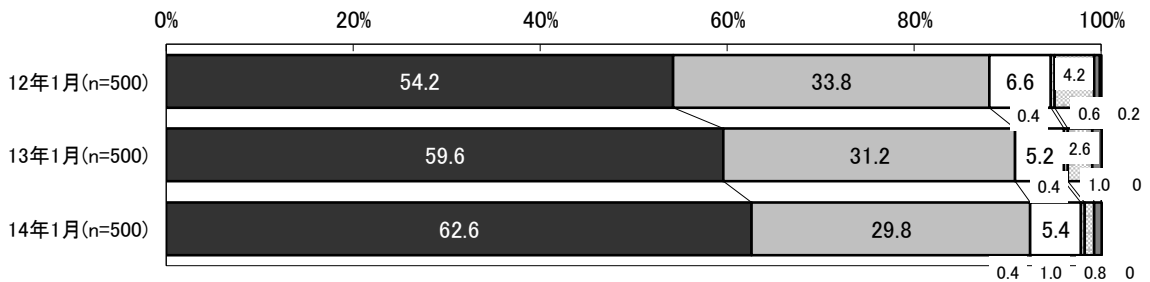
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」  
問. 以下は、放射能や放射線についてよく聞かれる意見です。  
これらの意見は、あなたのお考えにあてはまりますか、あてはまりませんか。  
あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。  
【子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】

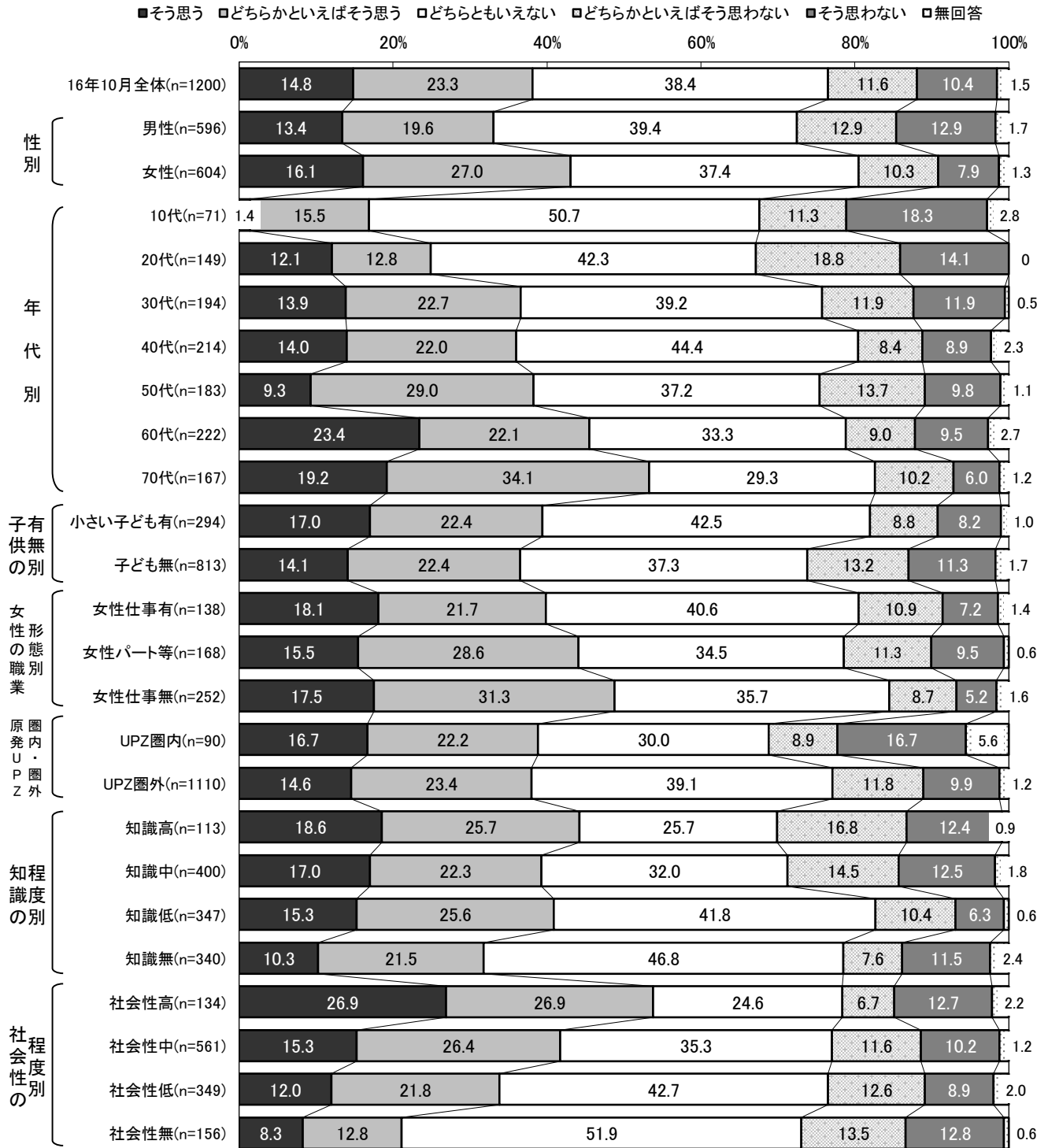
■ 強くあてはまる □ あてはまる □ どちらともいえない □ わからない・しらない □ あてはまらない □ まったくあてはまらない □ 無回答



●放射能・放射線のリスク認知

「食品を選ぶときは、放射能について気をつけている」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は38.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は22.0%。年を経るにしたがい、肯定方向への変化(不安感情の減少)が続いているように見える。年代別に見ると、全体として年齢と共に、肯定的意見が増加する。否定的意見は20代以下で多く見られる。また、社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

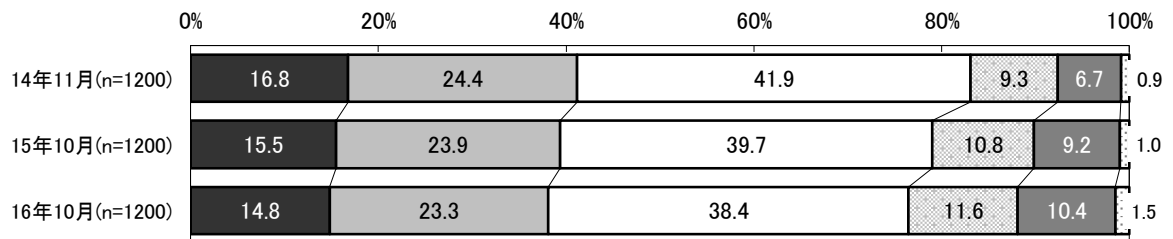
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つつ)  
【m】食品を選ぶときは、放射能について気をつけている



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
 【食品を選ぶときは、放射能について気をつけている】

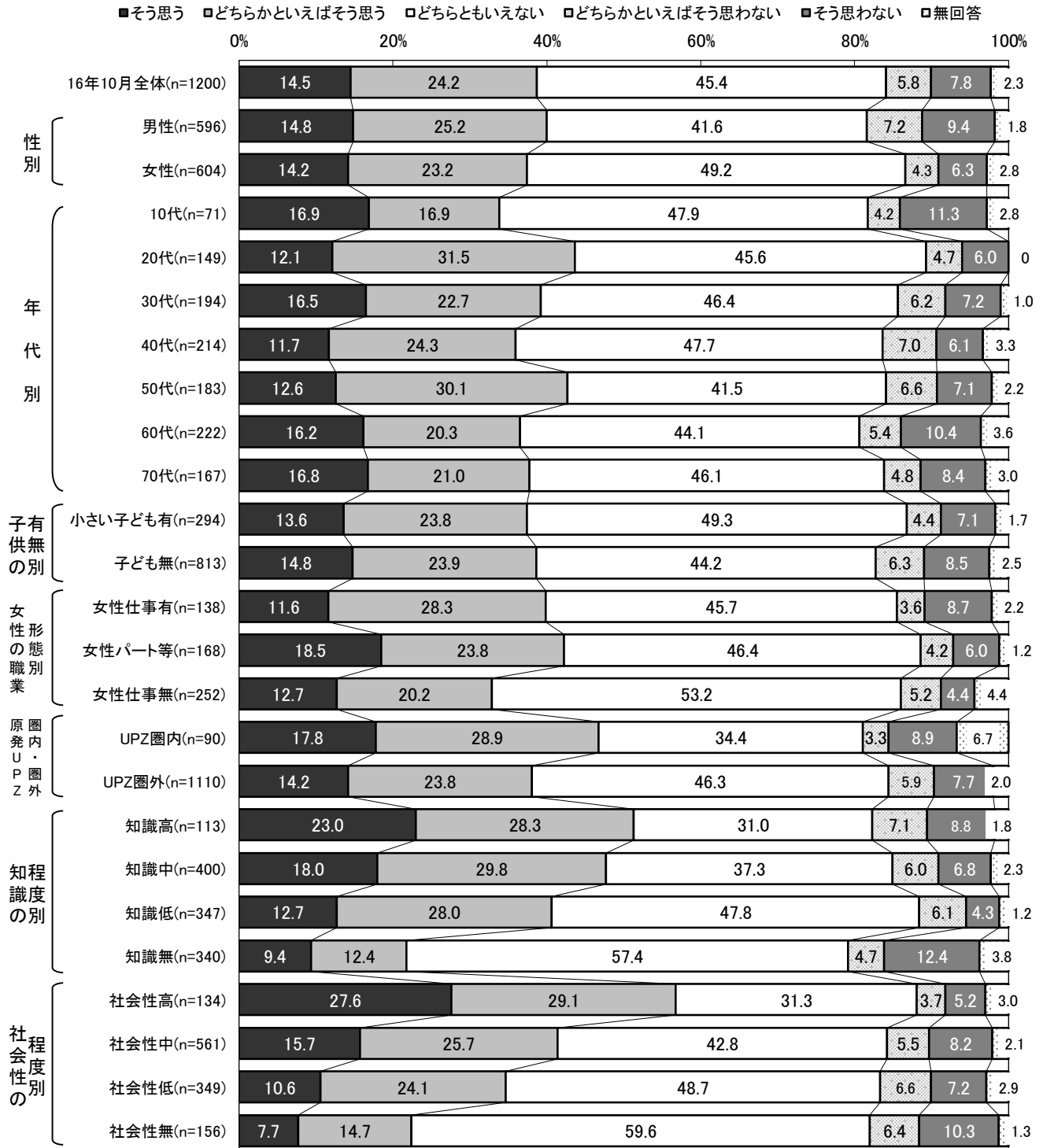
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



●エネルギー供給のリスク認知

「化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は38.7%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は13.6%。14年以降を見ると、年を経るにしたがい、否定方向への変化(不安感情の減少)が続いているように見える。知識高・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【j) 化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ】

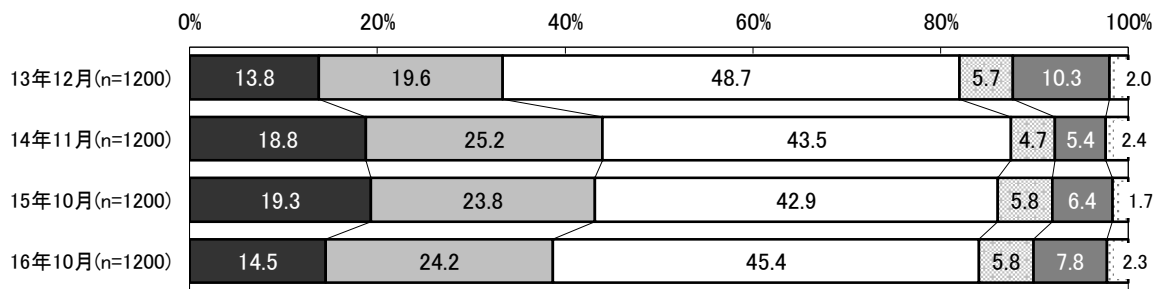


<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ】

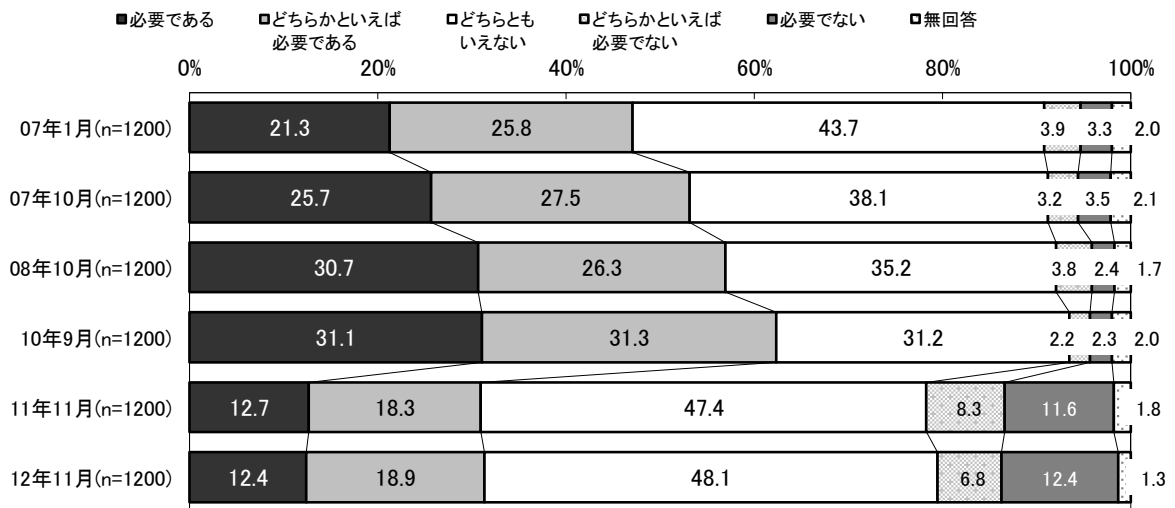
\* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。  
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)  
【化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること】



\* 07年1月の選択肢は「そう思う/どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である/どちらかといえば必要である」





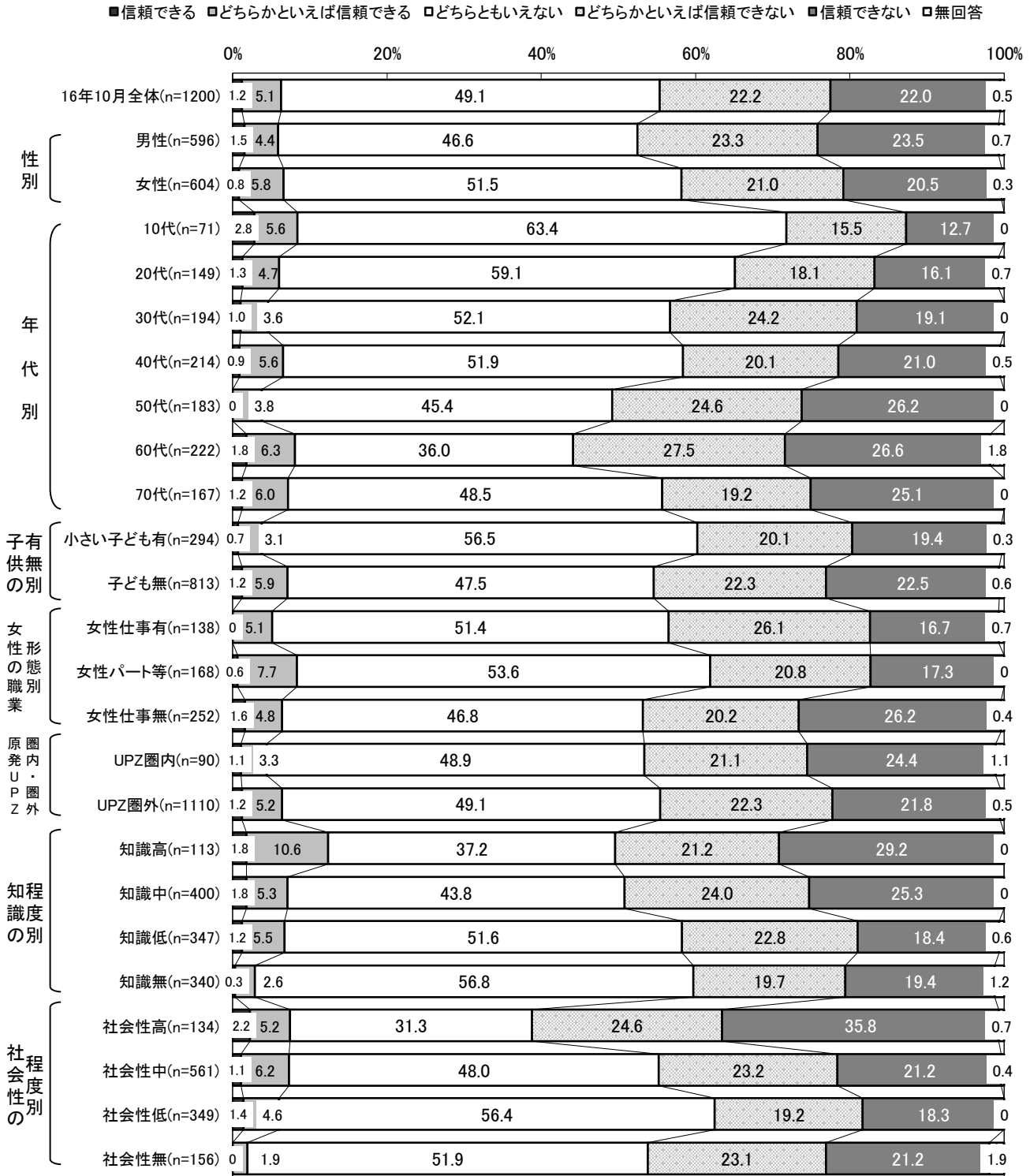
## Ⅶ章 原子力に対する信頼について

●原子力に対する信頼(原子力の事業者)

原子力の事業者についての信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」という回答は6.3%、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」という回答は44.2%。「どちらともいえない」という回答が約5割を占めている。前回(14年)と大きな変化はない(もしくは、若干否定的意見が減少しているように見える)。原子力の専門家(15年)に比べると、信頼感は低い。

年代別に見ると、10~60代で、年齢と共に、否定的意見が増加する。また、社会性高で否定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、否定的意見が減少するが、社会性無については、否定的意見が大きい。

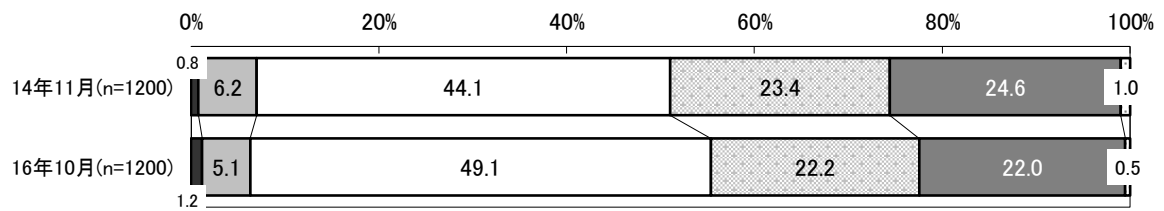
問9-1. 原子力に関して、あなたは「原子力の事業者」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



<経年変化>

問. 原子力に関して、あなたは「原子力の事業者」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

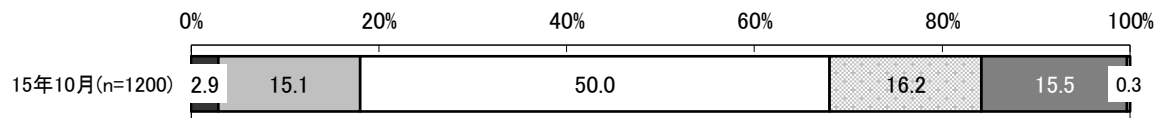
■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



<参考>

問. 原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答

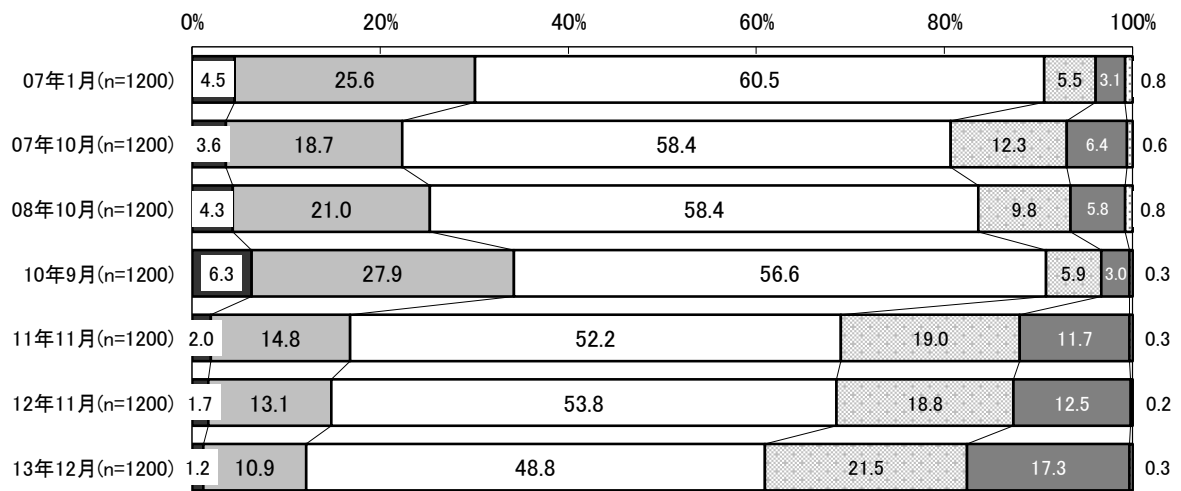


<参考>

問. 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

\*07年1月～12年11月までは「あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか」と聴取

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



●原子力に対する信頼(原子力の事業者)

原子力の事業者を「信頼できる」とする回答者については、「専門的な知識を持っているから」が突出して多く、次いで「信頼したいから」「熱意を持って、原子力に携わっているから」と続く。  
 一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」「私たちのことには配慮していないから」と続く。  
 「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」のポイントが高く、「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」と続く。「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いが、そのポイント数はかなり低いことがわかる。

問9-2. あなたが、問9-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
 (○はいくつでも)

<参考>  
 全体N=1200

N→	2016年10月			
	全体 1200	信頼 できる 75	どちらと もいえない 589	信頼 できない 530
原子力の事業者は、専門的な知識を持っているから	12.3	84.0	12.6	1.9
原子力の事業者は、専門的な知識が不足しているから	9.3	1.3	7.5	12.5
原子力の事業者は、偏った見方をしているから	16.3	-	9.3	26.6
原子力の事業者は、公平な見方をしているから	1.3	8.0	1.4	0.4
原子力の事業者は、正直に話しているから	1.5	9.3	1.0	0.9
原子力の事業者は、正直には話していないから	41.2	4.0	29.5	59.8
原子力の事業者は、私たちのことを配慮しているから	2.2	10.7	2.4	0.8
原子力の事業者は、私たちのことには配慮していないから	21.5	1.3	9.2	38.3
原子力の事業者は、私たちと考え方が似ているから	0.6	5.3	-	0.6
原子力の事業者は、私たちとは考え方が違うから	16.5	2.7	9.2	26.8
原子力の事業者は、熱意をもって、原子力に携わっているから	4.3	37.3	3.6	0.6
原子力の事業者は、熱意が感じられないから	13.1	-	6.1	22.8
原子力の事業者は、管理体制や安全対策ができていないから	2.7	25.3	1.2	1.1
原子力の事業者は、管理体制や安全対策が不足しているから	43.1	2.7	33.1	60.4
原子力の事業者は、情報公開ができていないから	0.4	1.3	0.3	0.4
原子力の事業者は、情報公開が不足しているから	54.5	10.7	48.2	68.3
原子力の事業者を信頼したいから	7.2	45.3	7.5	1.3
原子力の事業者を信頼したくないから	13.8	-	6.1	24.2
その他	7.3	1.3	11.0	4.0

(%)

2014年11月		
信頼 できる 83	どちらと もいえない 529	信頼 できない 576
78.3	16.3	0.9
1.2	5.9	17.2
-	10.2	30.9
7.2	1.7	0.7
4.8	0.9	0.2
3.6	31.2	61.6
10.8	3.0	-
-	10.6	40.1
1.2	0.9	0.3
1.2	9.6	24.7
32.5	4.2	0.2
1.2	7.6	19.8
21.7	2.1	0.5
1.2	30.1	62.7
2.4	1.9	0.2
2.4	43.1	69.4
49.4	9.1	1.4
-	4.3	19.4
6.0	10.8	4.2

(%)

<参考> 2015年10月

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも)

※対象が「原子力の専門家」

	全体 N→	原子力専門家を信頼できるかどうか		
		信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
	1200	216	600	380
原子力の専門家は、専門的な知識を持っているから	25.3	94.0	15.2	2.4
原子力の専門家は、専門的な知識が不足しているから	6.7	0.9	5.5	11.8
原子力の専門家は、偏った見方をしているから	21.1	2.8	17.3	37.6
原子力の専門家は、公平な見方をしているから	4.7	15.7	2.8	1.3
原子力の専門家は、正直に話しているから	2.8	10.2	1.7	0.3
原子力の専門家は、正直には話していないから	27.8	2.3	22.2	51.6
原子力の専門家は、私たちのことを 配慮しているから	3.8	11.6	3.2	0.5
原子力の専門家は、私たちのことには 配慮していないから	14.3	0.9	10.0	28.7
原子力の専門家は、私たちと考え方が似ているから	0.8	1.9	0.8	0.3
原子力の専門家は、私たちとは考え方が違うから	14.8	4.6	13.8	22.4
原子力の専門家は、熱意をもって、 原子力に携わっているから	8.0	30.1	4.5	0.8
原子力の専門家は、熱意が感じられないから	8.7	0.9	4.8	19.2
原子力の専門家は、管理体制や安全対策が できているから	2.6	8.3	1.5	1.1
原子力の専門家は、管理体制や安全対策が 不足しているから	30.0	3.7	27.7	48.7
原子力の専門家は、情報公開ができているから	2.4	5.6	2.0	1.3
原子力の専門家は、情報公開が不足しているから	43.1	6.5	46.2	59.5
原子力の専門家を信頼したいから	10.9	42.1	6.0	1.1
原子力の専門家を信頼したくないから	8.3	-	6.0	16.8
その他	10.2	1.9	15.2	6.6

(%)

<参考> 2013年12月

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも)

※対象が「専門家や原子力関係者」

N→	全体 1200	専門家を信頼できるかどうか		
		信頼 できる 145	どちらとも いえない 585	信頼 できない 466
専門的な知識を持っているから	16.0	84.8	10.1	2.1
専門的な知識が不足しているから	17.0	3.4	19.3	18.5
偏った見方をしているから	19.8	2.8	16.8	29.2
公平な見方をしているから	2.7	9.0	2.2	1.3
正直に話しているから	2.3	9.7	1.7	0.6
正直には話していないから	37.0	-	27.4	60.9
私たちのことを配慮しているから	3.1	11.0	3.2	0.4
私たちのことには配慮していないから	17.3	0.7	10.1	31.8
私たちと考え方が似ているから	0.7	2.8	0.5	0.2
私たちとは考え方が違うから	10.7	-	9.4	15.7
熱意をもって、原子力に携わっているから	4.8	24.8	3.4	0.2
熱意が感じられないから	13.4	0.7	9.2	22.7
管理体制や安全対策ができていないから	1.8	8.3	1.0	0.6
管理体制や安全対策が不足しているから	40.8	2.8	34.2	61.4
情報公開ができていないから	1.5	4.8	1.5	0.4
情報公開が不足しているから	52.4	4.8	49.4	71.5
信頼したいから	8.3	37.9	5.3	3.0
信頼したくないから	7.9	-	4.8	14.4
その他	4.5	2.8	6.0	3.2

(%)

<参考>

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも) ※対象が「原子力に携わる専門家や原子力関係者」

	12年11月			11年11月			10年9月		
	専門家を信頼できるかどうか			専門家を信頼できるかどうか			専門家を信頼できるかどうか		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
N→	177	646	375	202	626	368	410	679	107
情報公開が十分されているから	7.9	1.5	0.8	8.4	1.0	2.4	13.2	1.8	0.8
情報公開が十分されていないから	7.9	53.4	76.0	9.4	59.4	74.5	8.0	47.9	57.0
事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから	36.2	3.3	1.1	30.2	1.9	0.8			
大きな事故が起きたから	15.8	40.9	46.7	14.4	37.7	44.6			
管理体制や安全対策が十分だから	3.4	0.3	0.3	4.0	1.3	0.5	14.6	1.2	-
管理体制や安全対策が不十分だから	7.9	36.7	57.3	6.4	39.0	60.1	3.9	21.2	44.9
専門的な知識を持っている人だから	59.9	4.2	0.3	67.3	3.7	0.3	45.9	2.1	1.9
専門家にも間違いはあるから	13.0	27.6	33.1	5.4	31.9	32.1	8.3	26.2	31.8
信頼したいから	34.5	5.4	0.3	42.1	4.5	1.1	50.2	5.2	-
信頼できないから	1.1	17.5	56.5	1.0	17.4	57.9	-	11.3	49.5
その他	1.1	3.3	2.9	1.5	4.0	7.1	0.7	4.9	4.7

\*「事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから」「大きな事故が起きたから」は、11年11月から追加

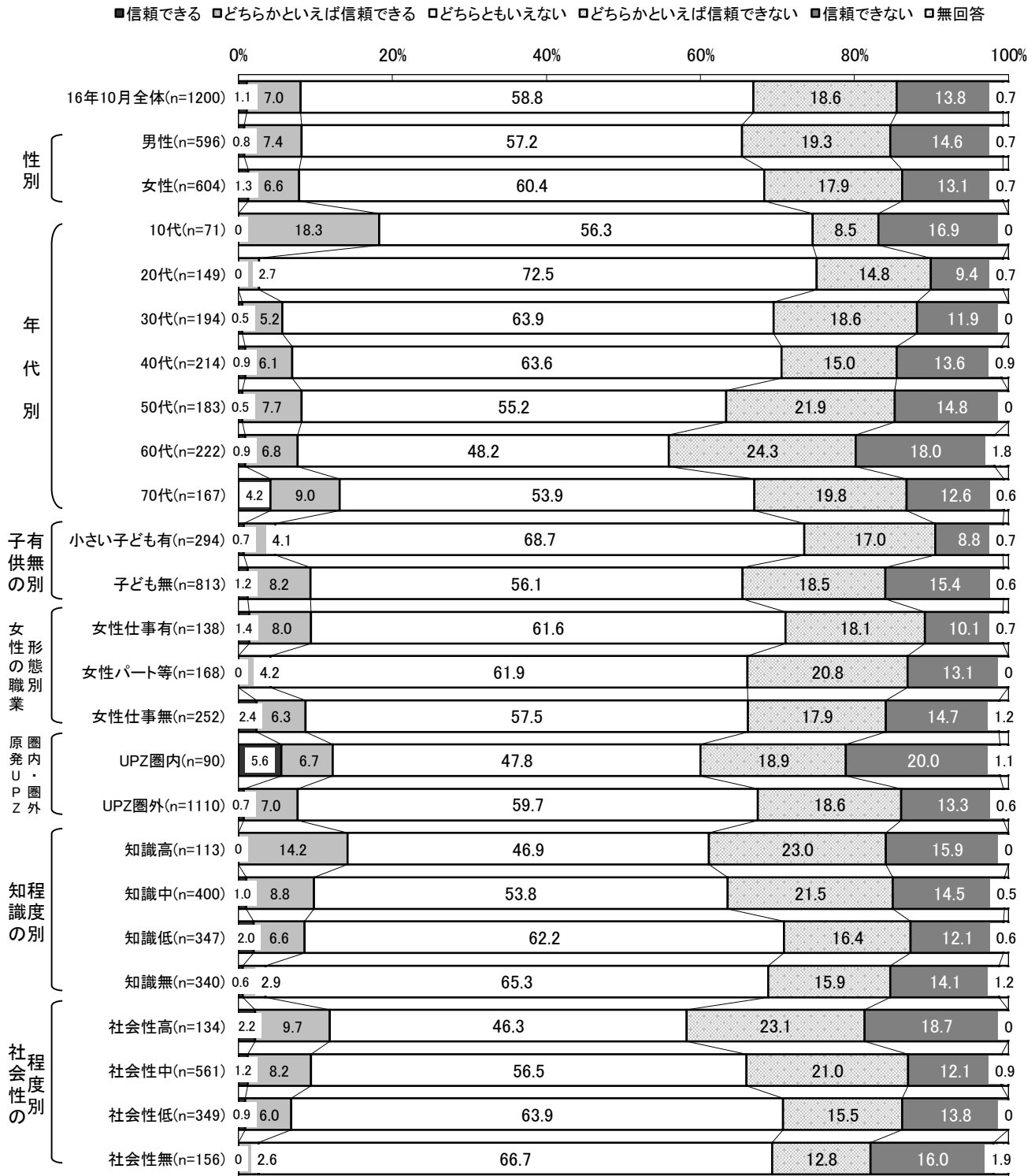
(%)



●原子力に対する信頼(自治体)

原子力について、自治体の信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」という回答は8.1%、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」という回答は32.4%。また、「どちらともいえない」という回答が6割近い。前回(14年)と大きな変化はない。原子力の専門家(15年)に比べると、信頼感は低い。年代別に見ると、10~60代で年齢と共に、否定的意見が増加傾向を示す。また、知識高・社会性高で肯定的意見・否定的意見が共に大きく、その程度が小さくなるにつれて、その両意見は減少する傾向にある。

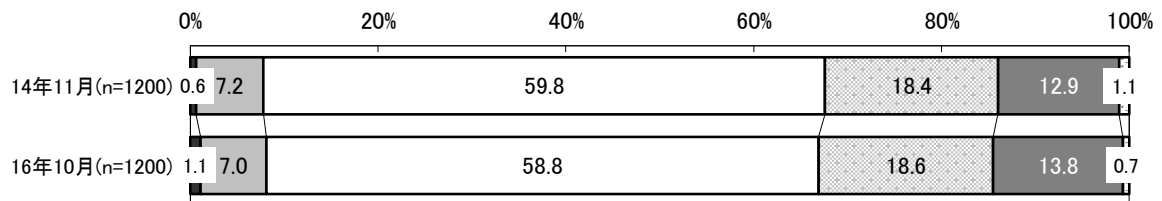
問10-1. 原子力に関して、あなたは「自治体」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



<経年変化>

問. 原子力に関して、あなたは「自治体」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

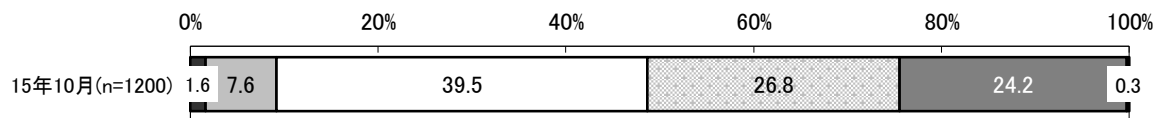
■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



<参考>

問. 原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



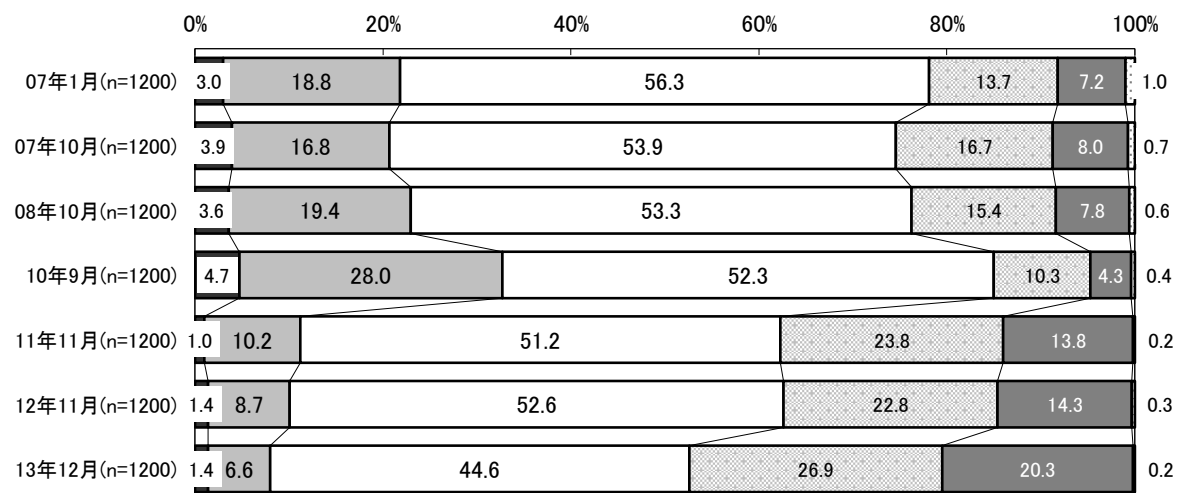
<参考>

問. 原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

\*07年1月～12年11月までは

「原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか」と聴取

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



●原子力に対する信頼(自治体)

自治体を「信頼できる」とする回答者については、「信頼したいから」「私たちのことを配慮しているから」が多い。一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」「専門的な知識が不足しているから」「自分たちの利益優先に感じるから」が多い。「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」「専門的な知識が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」が多い。「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いが、ポイントは全体として低いことがわかる。

問10-2. あなたが、問10-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

<参考>  
全体N=1200

N→	2016年10月			
	全体 1200	信頼 できる 97	どちらと もいえない 706	信頼 できない 389
自治体は、専門的な知識を持っているから	3.3	18.6	2.4	1.0
自治体は、専門的な知識が不足しているから	32.2	6.2	29.7	43.7
自治体は、偏った見方をしているから	14.6	2.1	11.9	22.9
自治体は、公平な見方をしているから	2.9	21.6	1.6	0.8
自治体は、正直に話しているから	1.8	8.2	1.1	1.3
自治体は、正直には話していないから	25.3	-	18.7	44.0
自治体は、私たちのことを配慮しているから	6.3	40.2	4.7	0.8
自治体は、私たちのことには配慮していないから	15.2	1.0	8.4	31.4
自治体は、私たちと考え方が似ているから	1.5	10.3	0.8	0.5
自治体は、私たちとは考え方が違うから	13.2	1.0	9.8	22.6
自治体は、熱意をもって、原子力に携わっているから	1.5	9.3	0.8	0.8
自治体は、熱意が感じられないから	12.0	2.1	9.1	20.1
自治体は、管理体制や安全対策ができていないから	1.7	9.3	1.3	0.5
自治体は、管理体制や安全対策が不足しているから	32.6	-	26.8	51.9
自治体は、情報公開ができていないから	1.0	7.2	0.6	0.3
自治体は、情報公開が不足しているから	41.6	3.1	38.1	58.1
自治体を信頼したいから	7.3	45.4	5.4	1.3
自治体を信頼したくないから	7.8	1.0	4.4	15.7
自治体は、営利目的ではないから	5.3	21.6	5.2	1.3
自治体は、自分たちの利益優先に感じるから	23.4	-	17.8	39.8
その他	6.8	1.0	10.3	1.8

(%)

2014年11月		
信頼 できる 93	どちらと もいえない 718	信頼 できない 376
26.9	1.5	0.3
-	27.4	40.4
1.1	10.3	23.1
28.0	1.9	0.8
14.0	1.5	0.5
1.1	17.4	45.5
24.7	3.8	1.1
1.1	7.1	33.8
9.7	2.2	0.8
1.1	7.7	23.4
9.7	1.7	0.3
1.1	6.8	22.9
7.5	0.6	-
-	26.5	56.1
7.5	0.6	-
4.3	32.9	56.6
51.6	6.5	1.3
-	2.6	10.6
31.2	5.2	3.2
2.2	15.5	38.8
2.2	12.1	2.7

(%)

<参考> 2015年10月

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

※対象が「国」

N→	全体 1200	国を信頼できるかどうか		
		信頼 できる 110	どちらとも いえない 474	信頼 できない 612
国は、専門的な知識を持っているから	6.0	44.5	4.2	0.5
国は、専門的な知識が不足しているから	21.6	-	17.5	28.8
国は、偏った見方をしているから	20.8	2.7	13.3	29.9
国は、公平な見方をしているから	2.8	19.1	1.7	0.7
国は、正直に話しているから	1.8	10.9	0.8	1.0
国は、正直には話していないから	46.2	5.5	31.4	65.2
国は、私たちのことを配慮しているから	3.9	28.2	2.7	0.5
国は、私たちのことには配慮していないから	25.4	0.9	11.6	40.7
国は、私たちと考え方が似ているから	1.0	4.5	1.3	0.2
国は、私たちとは考え方が違うから	17.3	0.9	10.5	25.7
国は、熱意をもって、原子力に携わっているから	3.8	26.4	3.2	0.2
国は、熱意が感じられないから	18.8	-	13.1	26.8
国は、管理体制や安全対策ができていないから	2.7	20.9	1.3	0.5
国は、管理体制や安全対策が不足しているから	46.0	1.8	34.8	62.7
国は、情報公開ができていないから	1.7	12.7	0.8	0.3
国は、情報公開が不足しているから	54.8	4.5	47.0	70.3
国を信頼したいから	8.9	60.0	7.0	1.3
国を信頼したくないから	8.5	-	4.2	13.4
国は、営利目的ではないから	3.2	20.9	2.1	0.8
国は、自分たちの利益優先に感じるから	32.6	5.5	21.1	46.6
その他	5.3	2.7	8.2	3.4

(%)

<参考> 2013年12月

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも)

※対象が「国や自治体」

	全体 N→	国や自治体を信頼できるかどうか		
		信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
	1200	96	535	567
専門的な知識を持っているから	6.8	56.3	4.3	0.7
専門的な知識が不足しているから	22.4	4.2	20.0	27.9
偏った見方をしているから	19.1	2.1	10.8	29.6
公平な見方をしているから	3.0	18.8	1.9	1.4
正直に話しているから	1.7	10.4	1.1	0.7
正直には話していないから	41.2	2.1	27.1	61.2
私たちのことを配慮しているから	3.3	24.0	2.8	0.2
私たちのことには配慮していないから	21.0	1.0	11.2	33.7
私たちと考え方が似ているから	0.5	3.1	0.2	0.4
私たちとは考え方が違うから	11.3	-	9.2	15.2
熱意をもって、原子力に携わっているから	3.1	30.2	0.9	0.5
熱意が感じられないから	16.5	-	11.0	24.5
管理体制や安全対策ができていないから	2.0	16.7	0.7	0.7
管理体制や安全対策が不足しているから	43.7	1.0	33.6	60.5
情報公開ができていないから	1.5	8.3	1.3	0.5
情報公開が不足しているから	56.3	5.2	49.9	71.1
信頼したいから	6.8	53.1	4.7	0.9
信頼したくないから	5.8	-	2.6	9.7
国や自治体は営利目的ではないから	2.6	9.4	2.1	1.9
自分たちの利益優先に感じるから	25.7	-	13.8	41.3
その他	3.0	2.1	4.7	1.6

(%)

<参考>

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。  
(○はいくつでも) ※対象が「国や自治体」

	12年11月			11年11月			10年9月		
	国や自治体を信頼できるかどうか			国や自治体を信頼できるかどうか			国や自治体を信頼できるかどうか		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
N→	121	631	445	134	614	450	392	628	175
情報公開が十分されているから	14.0	1.1	0.4	11.9	1.1	1.6	15.8	2.9	1.7
情報公開が十分されていないから	5.8	55.6	76.2	6.0	63.4	71.1	7.7	54.1	62.9
事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから	38.8	3.3	1.1	34.3	2.3	0.4			
大きな事故が起きたから	21.5	38.4	44.0	11.9	37.5	42.2			
管理体制や安全対策が十分だから	5.8	0.6	0.2	6.7	0.2	1.3	16.3	1.1	1.7
管理体制や安全対策が不十分だから	5.8	37.7	58.9	5.2	42.2	61.1	3.6	20.1	37.1
専門的な知識を持っている人だから	34.7	1.7	-	28.4	1.8	0.7	28.6	1.1	0.6
専門家にも間違いはあるから	9.9	22.0	25.6	5.2	21.5	24.4	6.1	22.1	27.4
信頼したいから	51.2	6.0	1.1	52.2	5.7	0.2	55.9	5.7	1.7
信頼できないから	-	16.5	51.2	0.7	16.0	50.0	0.8	11.6	48.0
国や公的機関は営利目的ではないから	14.0	2.9	1.8	13.4	2.8	1.3	17.6	2.2	4.0
自分達の利益優先に感じるから	3.3	17.0	44.9	1.5	21.2	51.6	2.8	15.4	34.9
その他	-	2.7	2.2	3.0	2.0	3.1	0.3	2.5	2.3

\*「事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから」「大きな事故が起きたから」は、11年11月から追加

(%)



Ⅷ章 原子力・放射線・エネルギーについての  
広聴・広報に関わる事項

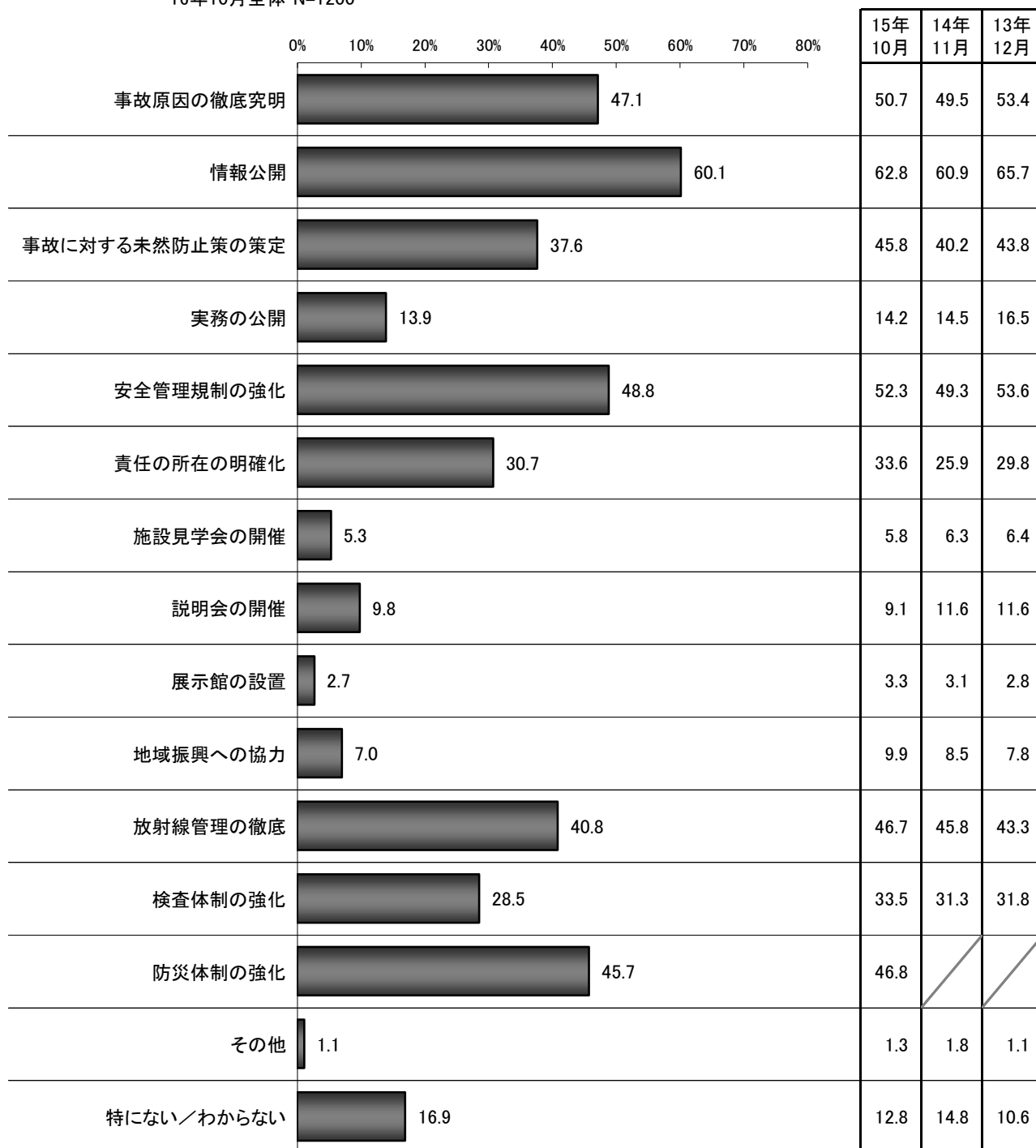


●原子力についての広聴・広報

原子力について、国や自治体に望む取り組みは、「情報公開」(60.1%)がもっとも多く、次いで、「安全管理規制の強化」(48.8%)、「事故原因の徹底究明」(47.1%)、「防災体制の強化」(45.7%)「放射線管理の徹底」(40.8%)と続く。前回と大きく変わらないが、全体として選択率が小さい。

問11. 原子力に関して、あなたは国や自治体にどのような取り組みを望みますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

16年10月全体 N=1200



\* 2015年10月から「防災体制の強化」を追加

<参考>

問. 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
事故原因の徹底究明	68.6	70.1	61.5	71.8	68.2	65.8
情報公開	71.0	70.7	69.6	71.8	68.8	67.4
事故に対する未然防止策	49.5	50.9	48.6	55.1	55.5	55.3
実務の公開	19.3	18.3	17.2	23.2	20.1	24.8
安全管理規制の強化	54.2	56.3	50.5	56.5	55.4	58.0
責任の所在の明確化	37.4	36.6	34.8	43.7	37.3	40.6
見学会や説明会の開催	10.6	9.9	16.7	19.4	19.3	18.1
展示館の設置	2.8	3.0	4.5	6.3	6.2	6.8
地域振興	4.8	5.3	5.8	7.8	7.0	7.3
放射線管理の徹底	40.7	44.8	40.0	50.3	48.8	46.3
検査体制の強化	32.8	36.3	31.5	44.3	41.4	41.6
その他	1.2	2.5	0.5	0.9	1.4	0.7
特にない／わからない	7.8	7.1	10.3	9.0	10.9	12.8
職員の姿勢	29.3	28.4	30.5	41.2	38.3	39.3

(%)



## ●原子力・エネルギーについての広聴・広報

原子力やエネルギーに関する日頃の情報源を訪ねたところ、「テレビ(ニュース)」(81.8%)、「新聞」(54.0%)、「テレビ(情報番組)」(38.7%)が主な情報源。インターネットでは、ニュースサイトが情報源としてやや高めのポイントを有する(16.9%)。また、「家族、友人、知人との会話」も11.2%の回答がある。前回と大きな変化はない。

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

16年10月全体 N=1200	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	15年 10月	14年 11月	13年 12月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月	
新聞											55.3	56.4	61.1	53.7	58.5	53.0	55.6	49.4	59.1	
テレビ(ニュース)											85.8									
テレビ(情報番組)											40.6	85.6	87.7	86.4	88.7	81.0	81.2	77.7	77.8	
テレビ(ドラマ)											1.0									
テレビ(CM)											3.6									
ラジオ											7.8	12.8	7.8	9.4	10.6	8.8	7.6	9.0	9.5	
雑誌(週刊誌・月刊誌等)											9.6	10.4	8.9	11.7	11.6	12.7	13.7	15.3	16.1	
自治体の広報紙											6.5	6.8								
事業者の広報紙											1.9									
本・パンフレット											4.9	3.8	6.0	7.2	7.6	7.6	9.1	9.8	10.5	
ビデオ・DVD											0.2	0.2								
講演会・説明会・セミナー等のイベント											2.0	2.6								
学校											2.6	2.3	1.8							
博物館・展示館・PR施設											1.3	1.3	1.8	1.7	1.8	3.4	3.7	9.9	11.6	
家族、友人、知人との会話											17.0	15.5								
回覧板											1.3	2.3								
国、自治体のホームページ											2.8	3.7								
原子力事業者、研究機関等のホームページ											1.6	2.6								
インターネット上のニュースサイト											19.9	23.3								
スマートフォンのニュースアプリ											9.8									
ツイッター											2.6	2.1	23.5	24.6	27.6	16.2	12.1	11.3	10.3	
フェイスブック											2.1	1.7								
メール配信(メールマガジン等)											0.7	0.7								
その他のインターネット情報											0.7	1.5								
その他											0.4	0.3	0.8	1.3	1.6	1.6	2.3	1.3	1.3	
特になし/わからない											6.8	8.6	6.7	4.2	2.3	9.3	7.8	7.9	7.2	

\*07年10月までの選択肢は「国や電力会社などのPR施設」、08年10月からは「博物館・展示館・PR施設」に変更

\*12年11月までの選択肢は「あてはまるものはない」、13年12月からは「特になし/わからない」に変更

\*「学校」は13年12月から追加

\*「自治体の広報紙」「ビデオ・DVD」「講演会・説明会・セミナー等のイベント」「家族、友人、知人との会話」「回覧板」は14年11月から追加

\*13年12月までは「インターネット」だけだった選択肢を、14年11月では細分化した

\*14年11月までは「テレビ」だけだった選択肢を、15年10月では細分化した

<2016年10月のクロス集計結果(1/2)>

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別							UPZ圏内・圏外	
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	原発UPZ圏内	原発UPZ圏外
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	222	167	90	1110
新聞	54.0	57.4	50.7	15.5	18.1	35.6	48.6	71.0	79.3	78.4	57.8	53.7
テレビ(ニュース)	81.8	81.5	82.0	62.0	63.8	81.4	84.1	89.6	87.8	86.8	77.8	82.1
テレビ(情報番組)	38.7	38.1	39.2	23.9	24.8	34.0	36.0	45.4	45.9	49.1	33.3	39.1
テレビ(ドラマ)	1.3	1.7	0.8	-	1.3	0.5	0.5	2.2	3.2	-	-	1.4
テレビ(CM)	2.2	2.3	2.0	1.4	3.4	1.5	1.9	1.6	2.3	3.0	1.1	2.3
ラジオ	5.8	7.2	4.3	1.4	0.7	5.7	3.7	6.0	8.6	10.8	6.7	5.7
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	8.6	10.4	6.8	-	2.0	5.2	5.1	9.8	16.2	15.0	12.2	8.3
自治体の広報紙	3.8	3.5	4.1	-	0.7	3.1	3.3	5.5	4.5	7.2	7.8	3.5
事業者の広報紙	2.1	2.5	1.7	-	-	2.1	1.4	2.7	4.1	2.4	3.3	2.0
本・パンフレット	3.6	4.5	2.6	2.8	4.7	2.6	2.8	2.2	6.8	2.4	1.1	3.8
ビデオ・DVD	0.3	0.5	-	-	-	0.5	-	0.5	-	0.6	1.1	0.2
講演会・説明会・セミナー等のイベント	1.6	1.7	1.5	2.8	0.7	0.5	0.9	1.1	3.2	2.4	-	1.7
学校	2.3	2.7	1.8	15.5	5.4	1.5	0.9	1.1	0.5	-	4.4	2.1
博物館・展示館・PR施設	1.3	1.2	1.5	2.8	1.3	1.5	0.9	1.1	0.9	1.8	2.2	1.3
家族、友人、知人との会話	11.2	9.1	13.2	9.9	9.4	12.4	10.3	14.8	9.5	11.4	14.4	10.9
回覧板	1.2	1.0	1.3	-	0.7	-	0.9	1.1	2.3	2.4	3.3	1.0
国、自治体のホームページ	2.1	3.0	1.2	1.4	-	4.6	1.4	1.1	4.1	0.6	1.1	2.2
原子力事業者、研究機関等のホームページ	0.9	1.2	0.7	-	-	-	1.9	-	2.7	0.6	1.1	0.9
インターネット上のニュースサイト	16.9	23.0	10.9	5.6	15.4	32.0	22.4	17.5	12.6	3.6	14.4	17.1
スマートフォンのニュースアプリ	10.3	12.2	8.4	7.0	12.1	21.6	15.0	10.4	3.2	0.6	14.4	10.0
ツイッター	2.3	1.8	2.6	5.6	8.1	3.1	0.9	1.1	0.5	-	1.1	2.3
フェイスブック	2.0	1.3	2.6	1.4	1.3	5.7	2.3	1.6	0.9	-	2.2	2.0
メール配信(メールマガジン等)	0.4	0.7	0.2	1.4	-	0.5	-	1.6	-	-	-	0.5
その他のインターネット情報	0.3	0.2	0.5	-	-	0.5	0.5	-	0.9	-	-	0.4
その他	0.3	0.3	0.2	-	-	-	-	-	0.5	1.2	-	0.3
特になし/わからない	11.7	10.2	13.1	28.2	24.8	11.9	10.7	6.6	5.0	8.4	15.6	11.4

(%)

<2016年10月のクロス集計結果(2/2)>

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	子供の有無別		女性の職業形態別			知識の程度別				社会性の程度別			
		小さい 子供あり	子供 なし	仕事 あり	パート 等	仕事 なし	知識 高	知識 中	知識 低	知識 無	社会 性高	社会 性中	社会 性低	社会 性無
N	1200	294	813	138	168	252	113	400	347	340	134	561	349	156
新聞	54.0	37.8	58.5	41.3	54.2	60.3	73.5	63.3	51.0	39.7	76.1	63.3	42.7	26.9
テレビ(ニュース)	81.8	79.9	81.9	79.0	88.1	82.5	86.7	88.3	86.2	67.9	95.5	87.2	76.8	61.5
テレビ(情報番組)	38.7	33.3	40.6	34.8	35.7	46.4	49.6	43.5	39.8	28.2	57.5	44.0	29.8	23.1
テレビ(ドラマ)	1.3	0.7	1.1	0.7	0.6	1.2	3.5	1.0	1.7	0.3	5.2	0.9	0.6	0.6
テレビ(CM)	2.2	2.0	2.1	2.2	1.8	2.4	3.5	1.3	2.3	2.6	3.7	2.5	1.7	0.6
ラジオ	5.8	3.4	6.6	8.0	2.4	4.0	11.5	5.8	4.3	5.3	14.2	6.6	2.9	1.9
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	8.6	4.1	10.7	7.2	3.0	9.9	12.4	12.3	7.2	4.4	17.2	11.1	3.2	4.5
自治体の広報紙	3.8	3.4	4.1	5.8	3.6	4.4	5.3	4.5	4.0	2.4	8.2	5.0	1.4	1.3
事業者の広報紙	2.1	2.4	2.1	2.2	1.2	2.0	3.5	3.3	2.0	0.3	7.5	2.0	1.1	-
本・パンフレット	3.6	1.0	4.3	4.3	1.8	2.4	14.2	4.0	2.0	1.2	6.0	4.5	2.0	1.9
ビデオ・DVD	0.3	-	0.4	-	-	-	1.8	0.3	-	-	-	0.4	0.3	-
講演会・説明会・セミナー等のイベント	1.6	1.0	2.0	1.4	0.6	2.4	5.3	2.0	0.9	0.6	4.5	1.8	0.6	0.6
学校	2.3	1.0	2.8	1.4	1.2	1.2	5.3	3.3	1.7	0.6	2.2	3.0	1.4	1.3
博物館・展示館・PR施設	1.3	2.0	1.2	1.4	1.2	2.0	5.3	1.8	0.6	0.3	2.2	1.8	0.9	-
家族、友人、知人との会話	11.2	10.2	11.4	15.9	13.7	12.7	9.7	13.8	12.1	7.6	17.2	12.8	9.5	3.8
回覧板	1.2	1.0	1.4	0.7	2.4	1.2	-	0.8	1.7	1.5	0.7	1.2	0.9	1.9
国、自治体のホームページ	2.1	2.0	2.2	2.2	-	1.6	5.3	2.3	2.0	0.9	3.7	2.7	1.4	-
原子力事業者、研究機関等のホームページ	0.9	0.3	1.2	0.7	0.6	0.8	4.4	1.5	-	-	2.2	1.4	-	-
インターネット上のニュースサイト	16.9	20.7	15.9	16.7	8.9	9.5	31.0	23.5	14.4	7.1	20.1	20.0	13.5	10.9
スマートフォンのニュースアプリ	10.3	14.3	8.4	12.3	9.5	5.6	11.5	13.0	10.7	6.5	9.0	11.8	10.6	5.8
ツイッター	2.3	1.7	2.3	2.2	2.4	1.6	4.4	2.8	1.4	1.8	3.0	2.0	2.9	1.3
フェイスブック	2.0	4.1	1.4	2.9	3.0	2.4	3.5	3.0	0.9	1.5	5.2	2.0	1.7	-
メール配信 (メールマガジン等)	0.4	0.3	0.5	-	-	0.4	0.9	0.8	0.3	-	3.0	-	0.3	-
その他のインターネット情報	0.3	0.7	0.2	-	1.2	0.4	0.9	0.5	-	0.3	0.7	0.4	0.3	-
その他	0.3	-	0.2	-	-	-	1.8	0.3	-	-	-	0.4	-	0.6
特になし／わからない	11.7	16.3	10.7	15.2	10.7	12.3	0.9	3.8	9.2	27.1	2.2	6.4	13.8	34.0

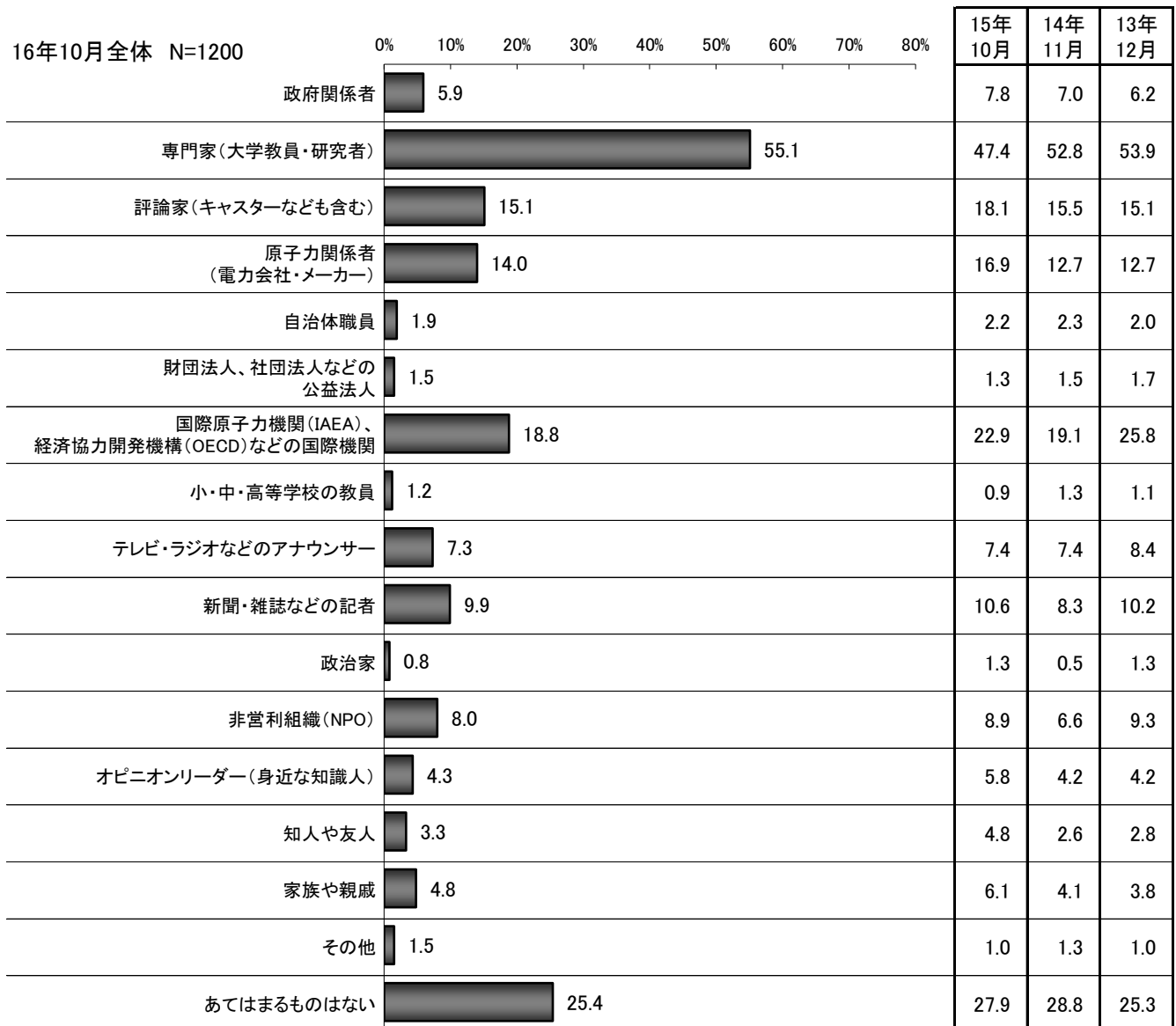
(%)



## ●原子力に対する信頼(情報発信者)

情報源の信頼としては、「専門家(大学教員・研究者)」(55.1%)が多く、次いで「国際機関」「評論家」「原子力関係者」である。「あてはまるものはない」という回答も25.4%ある。前回と大きな変化はない。年代別に見ると、国際機関に対する信頼は、50～70代で高い。社会性無では、「あてはまるものはない」という回答が多い。

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)





<2016年10月のクロス集計結果(1/2)>

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別							UPZ圏内・圏外	
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	原発 UPZ圏 内	原発 UPZ圏 外
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	222	167	90	1110
政府関係者	5.9	6.2	5.6	8.5	6.0	6.7	3.7	4.9	6.3	7.2	3.3	6.1
専門家(大学教員・研究者)	55.1	55.2	55.0	38.0	46.3	50.0	52.8	64.5	63.1	58.1	46.7	55.8
評論家(キャスターなども含む)	15.1	16.6	13.6	14.1	12.1	19.6	11.2	15.8	14.9	17.4	18.9	14.8
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	14.0	12.4	15.6	11.3	14.1	12.9	15.4	16.4	9.5	18.0	16.7	13.8
自治体職員	1.9	2.2	1.7	4.2	1.3	4.1	0.5	1.6	0.9	2.4	1.1	2.0
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.5	2.2	0.8	1.4	0.7	1.5	0.5	1.6	3.2	1.2	1.1	1.5
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	18.8	20.8	16.9	12.7	9.4	13.9	17.8	20.8	27.5	23.4	15.6	19.1
小・中・高等学校の教員	1.2	1.2	1.2	8.5	-	0.5	0.9	1.1	1.4	-	2.2	1.1
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.3	6.4	8.1	8.5	4.7	7.7	6.1	4.9	5.0	15.6	7.8	7.2
新聞・雑誌などの記者	9.9	10.7	9.1	7.0	6.0	5.7	7.9	13.7	11.7	15.6	12.2	9.7
政治家	0.8	0.3	1.3	-	0.7	1.5	1.4	-	0.5	1.2	-	0.9
非営利組織(NPO)	8.0	10.4	5.6	4.2	4.0	6.2	5.6	8.7	14.9	8.4	6.7	8.1
オピニオンリーダー(身近な知識人)	4.3	3.5	5.0	5.6	2.0	3.6	6.1	5.5	5.0	1.8	5.6	4.1
知人や友人	3.3	2.9	3.8	4.2	1.3	5.7	1.9	4.9	3.2	2.4	5.6	3.2
家族や親戚	4.8	4.0	5.5	11.3	6.0	8.8	3.7	3.8	1.8	2.4	4.4	4.8
その他	1.5	1.3	1.7	2.8	1.3	0.5	1.4	1.6	1.4	2.4	-	1.6
あてはまるものはない	25.4	24.2	26.7	32.4	32.2	28.4	27.6	19.7	22.5	20.4	27.8	25.2

(%)

<2016年10月のクロス集計結果(2/2)>

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。  
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	子供の有無別		女性の職業形態別			知識の程度別				社会性の程度別			
		小さい 子供あり	子供 なし	仕事 あり	パート 等	仕事 なし	知識 高	知識 中	知識 低	知識 無	社会 性高	社会 性中	社会 性低	社会 性無
N	1200	294	813	138	168	252	113	400	347	340	134	561	349	156
政府関係者	5.9	5.1	6.2	5.1	6.5	5.2	4.4	7.3	6.6	4.1	9.0	6.1	5.7	3.2
専門家(大学教員・研究者)	55.1	49.0	57.2	56.5	58.9	54.8	72.6	64.3	54.2	39.4	69.4	63.3	48.1	28.8
評論家(キャスターなども含む)	15.1	15.0	14.6	14.5	7.1	16.7	20.4	16.8	17.9	8.5	24.6	16.9	12.0	7.1
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	14.0	13.9	14.3	13.0	19.0	16.3	14.2	15.0	13.3	13.5	17.9	17.5	12.0	2.6
自治体職員	1.9	2.7	1.8	2.9	0.6	2.0	2.7	2.0	1.2	2.4	3.7	2.5	0.9	0.6
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.5	1.0	1.7	1.4	0.6	0.8	4.4	2.3	-	1.2	3.0	2.1	0.6	-
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	18.8	13.6	21.5	17.4	11.9	21.4	31.0	25.0	16.4	10.0	35.8	23.4	8.3	11.5
小・中・高等学校の教員	1.2	0.3	1.6	1.4	1.8	0.4	1.8	1.3	1.4	0.6	2.2	1.6	0.6	-
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.3	7.5	7.0	5.8	9.5	8.3	7.1	7.5	6.9	7.4	9.7	7.0	6.9	7.1
新聞・雑誌などの記者	9.9	6.8	10.9	7.2	9.5	10.3	17.7	11.0	9.5	6.5	14.2	12.3	6.3	5.8
政治家	0.8	1.7	0.5	1.4	1.2	1.6	-	0.8	0.9	1.2	1.5	1.1	0.3	0.6
非営利組織(NPO)	8.0	5.1	9.0	2.9	2.4	9.1	20.4	10.0	7.2	2.4	17.9	9.3	4.6	2.6
オピニオンリーダー(身近な知識人)	4.3	5.4	4.2	2.9	4.8	6.3	7.1	5.0	4.3	2.4	9.0	5.0	2.6	1.3
知人や友人	3.3	5.1	2.7	5.1	4.2	3.2	1.8	6.0	2.9	1.2	8.2	3.4	2.9	-
家族や親戚	4.8	6.5	4.3	7.2	5.4	4.4	1.8	5.5	5.5	4.1	9.0	4.6	4.6	1.9
その他	1.5	1.0	1.7	-	1.2	1.2	1.8	1.8	0.9	1.8	4.5	0.9	1.1	1.9
あてはまるものはない	25.4	28.6	24.2	26.8	25.0	27.0	13.3	18.3	24.5	38.8	14.9	17.5	29.8	53.2

(%)

<参考>

問. あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

問. あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

全体 N=1200	有益性に関する情報					事故やトラブルなどに関する情報				
	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月
政府関係者	18.8	23.3	5.8	5.1	8.8	25.4	36.0	3.3	4.1	8.7
専門家 (大学教員・研究者)	36.6	43.5	16.8	13.0	19.3	38.0	46.3	11.4	11.2	17.5
評論家 (キャスターなども含む)	43.0	45.2	23.1	20.3	20.8	54.0	55.8	23.7	24.8	28.3
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.8	21.1	9.8	9.4	10.9	20.9	31.1	3.8	4.1	6.8
自治体職員	0.9	1.0	0.6	0.8	1.1	1.8	1.9	0.4	0.6	1.1
小・中・高等学校の教員	2.6	2.0	1.8	1.8	2.2	2.3	2.1	2.0	1.8	2.3
テレビ・ラジオなどの アナウンサー	57.1	53.8	44.9	43.4	42.3	73.8	75.8	54.2	59.3	64.5
新聞・雑誌などの記者	27.5	29.1	20.0	21.9	25.8	35.6	40.6	25.1	30.3	35.8
政治家	9.7	8.9	1.8	3.1	5.3	10.8	13.2	2.3	2.8	5.0
オピニオンリーダー (身近な知識人)	1.8	3.1	1.9	2.3	3.1	1.8	2.9	1.3	2.4	2.7
知人や友人	7.9	8.5				9.9	11.8			
家族や親戚	7.3	8.2				8.2	10.8			
その他	0.6	0.7	1.5	1.3	0.8	0.4	0.7	0.9	0.6	0.5
あてはまるものはない/この 1年間に情報は得ていない	12.8	11.4	34.0	35.9	34.1	5.0	2.8	29.9	25.8	18.0

(%)

\* 07年10月は、全ての選択肢に「の発言」を付けた表記で聴取

\* 07年10月は、「テレビ」は「TV」の表記で聴取

\* 「知人や友人」「家族や親戚」は11年11月から追加

\* 10年9月までの質問文は、「原子力やエネルギーに関する「よい情報(安全性、有益性に関する情報)」を～」「原子力やエネルギーに関する「悪い情報(トラブルなどに関する情報)」を～」として聴取

<参考>

問. 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。  
次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
国	50.7	50.6	53.9	52.0	53.5	48.8
自治体	26.5	24.2	53.9	52.0	53.5	48.8
電力会社などの事業者	29.9	33.0	42.7	46.5	44.8	41.1
大学や研究所	41.6	43.9	45.8	53.9	44.8	51.8
財団法人、社団法人などの 公益法人	5.8	6.1	6.5	7.3	6.3	8.0
非営利組織(NPO)	18.5	19.6	15.8	24.9	23.3	21.5
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	37.5	42.9	41.8			
その他	1.8	2.2	0.9	1.0	0.8	1.1
あてはまるものはない	12.3	12.3	10.8	12.3	14.5	15.8

(%)

\* 08年10月までの選択肢は「公益法人(財団法人、社団法人)」、10年9月は「財団法人、社団法人などの公益法人」に変更

\* 08年10月までの選択肢は「NPO(非営利組織)」、10年9月は「非営利組織(NPO)」に変更

\* 「国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関」は10年9月から追加

\* 「国」「自治体」は、10年9月まで「国や自治体」として聴取。「国」「自治体」の10年9月までの数値は、参考として「国や自治体」の数値を掲載。



## ●原子力・エネルギーについての広聴・広報

原子力やエネルギーに関するイベント・施設の中で参加してみたいものとして、「施設見学会」(18.3%)、「勉強会」(14.3%)がやや高い。なお、「あてはまるものはない」がもっとも多く、60.6%を占める。新設した項目は軒並み選択率が低く、その他の全体としての傾向は前回と大きく変わらない。社会性高において、「講演会(少人数、双方向)」「講演会(大規模、パネリストによる講演会)」が20%を超える選択率となっており、「実験教室」「インターネットによる視聴」も1割を超える。

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものや利用してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

16年10月全体 N=1200

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	15年 10月	14年 11月	13年 12月
施設見学会									21.4	21.1	18.6
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)									14.2	15.0	16.8
工作教室									2.4	1.4	1.1
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)									10.6	7.0	8.1
趣味講座									2.2	1.9	2.2
講演会 (少人数、双方向型)									6.3	5.0	5.9
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)									7.8	7.8	9.4
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)									0.8	0.3	0.6
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)									3.6		
インターネットでの講演会視聴									3.7		
インターネットでのパンフレット等の閲覧											
インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧											
インターネットでの映像資料の視聴											
その他									0.8	0.5	0.7
あてはまるものはない									56.9	61.8	61.1

\*「バーチャル見学会」「インターネットでの講演会視聴」は15年10月に追加

\*「インターネットでのパンフレット等の閲覧」「インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧」「インターネットでの映像資料の視聴」は16年10月に追加

<2016年10月のクロス集計結果(1/2)>

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	性別		年代別							UPZ圏内・圏外	
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	原発UPZ圏内	原発UPZ圏外
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	222	167	90	1110
施設見学会	18.3	18.6	18.0	9.9	8.7	17.5	17.8	24.0	20.7	22.8	26.7	17.7
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	14.3	14.9	13.6	9.9	6.7	14.4	13.1	10.4	23.9	15.6	14.4	14.2
工作教室	2.5	1.8	3.1	4.2	3.4	6.2	2.3	1.6	-	1.2	1.1	2.6
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	7.8	6.7	8.8	8.5	6.0	12.4	9.3	7.1	7.7	2.4	5.6	7.9
趣味講座	2.1	1.8	2.3	1.4	2.0	3.1	1.4	0.5	3.2	2.4	4.4	1.9
講演会 (少人数、双方向型)	6.4	6.7	6.1	2.8	1.3	4.6	6.5	6.6	11.3	7.8	6.7	6.4
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	7.3	6.7	7.9	1.4	0.7	5.7	4.2	8.7	14.0	11.4	3.3	7.7
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	0.3	-	0.7	1.4	-	0.5	0.5	-	-	0.6	-	0.4
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	3.2	3.2	3.1	4.2	3.4	7.2	1.9	2.7	2.7	0.6	3.3	3.2
インターネットでの講演会視聴	3.8	4.4	3.3	1.4	4.0	2.6	3.3	5.5	6.3	1.8	3.3	3.9
インターネットでのパンフレット等の閲覧	3.2	3.2	3.1	2.8	5.4	3.6	3.7	3.3	1.4	2.4	3.3	3.2
インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧	3.3	4.4	2.2	1.4	1.3	5.2	4.2	3.8	2.7	2.4	4.4	3.2
インターネットでの映像資料の視聴	6.4	6.7	6.1	2.8	4.7	8.8	6.5	6.6	9.9	1.8	4.4	6.6
その他	0.4	0.5	0.3	-	0.7	-	-	1.6	-	0.6	-	0.5
あてはまるものはない	60.6	61.6	59.6	76.1	73.2	62.9	58.4	56.8	51.4	59.3	58.9	60.7

(%)

<2016年10月のクロス集計結果(2/2)>

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	子供の有無別		女性の職業形態別			知識の程度別				社会性の程度別			
		小さい子供あり	子供なし	仕事あり	パート等	仕事なし	知識高	知識中	知識低	知識無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無
N	1200	294	813	138	168	252	113	400	347	340	134	561	349	156
施設見学会	18.3	15.6	19.1	19.6	19.0	19.0	23.9	23.0	15.6	13.8	30.6	23.5	10.0	7.7
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	14.3	12.2	15.0	9.4	14.3	16.7	28.3	20.8	9.2	7.1	32.8	16.8	7.2	5.1
工作教室	2.5	5.8	1.4	4.3	2.4	3.2	0.9	2.0	3.5	2.6	3.0	3.4	1.4	1.3
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	7.8	11.6	6.3	8.0	8.3	9.9	8.8	9.5	8.6	4.4	15.7	10.3	2.9	2.6
趣味講座	2.1	2.0	2.2	2.2	1.8	3.2	0.9	2.3	2.3	2.1	3.7	3.2	0.3	0.6
講演会 (少人数、双方向型)	6.4	6.1	6.2	2.9	6.0	9.1	13.3	9.5	4.6	2.4	20.1	7.1	2.3	1.3
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	7.3	5.4	8.4	5.1	7.1	10.7	13.3	9.8	7.2	2.6	20.9	9.1	1.7	1.9
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	0.3	0.7	0.2	-	1.2	0.4	-	0.3	0.9	-	2.2	0.2	-	-
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	3.2	4.8	2.7	1.4	4.2	3.2	3.5	3.8	3.2	2.4	4.5	4.1	2.3	0.6
インターネットでの講演会視聴	3.8	1.7	4.6	3.6	3.6	3.2	9.7	4.5	3.7	1.2	6.7	4.8	2.3	1.3
インターネットでのパンフレット等の閲覧	3.2	3.4	3.2	1.4	5.4	2.4	5.3	4.0	3.2	1.5	6.7	3.7	1.7	1.3
インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧	3.3	3.7	2.8	1.4	3.0	2.4	5.3	4.8	2.9	1.2	6.0	4.1	1.7	1.3
インターネットでの映像資料の視聴	6.4	7.1	6.3	3.6	6.0	7.9	8.0	8.5	6.6	3.2	12.7	7.7	4.6	0.6
その他	0.4	-	0.6	-	0.6	0.4	0.9	0.5	-	0.6	1.5	0.2	0.6	-
あてはまるものはない	60.6	62.9	60.1	61.6	58.9	56.7	43.4	52.5	63.4	72.9	31.3	50.4	76.5	86.5

(%)



<参考>

問. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月
施設見学会	36.2	32.0	43.8	37.1
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	18.2	21.8	11.4	14.8
工作教室	4.0	4.0	4.6	6.3
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	16.5	18.3	14.4	15.9
趣味講座	7.1	7.3	6.6	9.4
講演会 (少人数、双方向型)	7.8	9.0	5.2	5.3
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	9.9	12.3	7.5	8.8
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	2.2	1.3	1.9	2.3
その他	0.3	0.7	0.4	0.5
あてはまるものはない	14.1	14.9	18.6	16.2

(%)

## IX章 自由記述

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
講演会に行って原子力についてお話を聞きたい。	男性	18歳	神奈川
情報を全て公開するべき。	男性	18歳	高知
原子力発電はリスクは高いといえど、するべき。	男性	19歳	大阪
日本での原子力発電は必要だと思う。日本は資源に恵まれている国ではないし、ドイツや外国のように広い土地もないので、火力発電などの現状では今後つまづいてしまうと思う。	男性	19歳	福岡
放射線は危険だからなくしたいが、エネルギーの為なら仕方ないと思う。	男性	19歳	富山
原子力は必要であると思う。ただ安全は確保して欲しい。	男性	20歳	大阪
施設の安全管理マニュアルを簡易的なものでも公開して欲しい。	男性	21歳	東京
安全第一	男性	21歳	神奈川
原子力をもっと様々な分野へ役立ててほしい。	男性	21歳	鹿児島
ツイッター・ヤフーニュース等でもっと情報を発信し、重要性を知らして欲しい。	男性	23歳	大阪
原子力やエネルギー自体をよく知らないのので、まずはネットでてっとり早く調べる。	男性	24歳	山形
地震国の日本なので不安。	男性	25歳	宮城
公開情報が少ない。	男性	26歳	東京
原子力発電で住民は危険で反対の人と、発電所で働いている人達がお金を使ってくれるからなくなるとこういうお金が入らなくなるから、発電所の賛成している人がいるのは、なんか複雑。	男性	29歳	千葉
知識を正確に有している人が少ないので、情報自体に信頼がない。	男性	29歳	大阪
色々な国の人達が、3.11の事に対してどう思っているか、メルトダウンの事をどう思っているかTVでやってほしい。	男性	30歳	福島
自然のものが一番良い。災害の多いこのご時世、太陽光や風力などでのエネルギーが一番安全。放射線は怖い。	男性	30歳	北海道
誰も本当のことを言えない。言っただけいけないのだと感じる。悪いことはすべて隠される。ニュース、政治、新聞すべて何かのフィルタリングをかけられて情報発信されていると思っている。	男性	32歳	岡山
町内会の回覧、市政便り等に載せて欲しいです。	男性	35歳	兵庫
最終的な処分法もないまま、原子力発電を続けるのは大反対!!事故があった今こそが、脱原子力のチャンス!!今を逃してはならないと思う。	男性	35歳	北海道
インターネットでは色々な情報があふれているので、本当に信頼できる情報源が欲しい。	男性	37歳	東京
インターネットでの情報発信。	男性	37歳	新潟
外部被ばく、内部被ばくを防げるような何かを研究してほしい。	男性	38歳	青森
政府発信はとにかく信用していない。ネットを通じて自分で自分の考え方がまとまるサイトをひたすら探すのみ。	男性	39歳	東京
原子力の情報などをもっとわかりやすく、きちんと国民に説明するべきだと思う。	男性	39歳	大阪
子供達の授業の中に取り入れてほしい。また、他国との比較を示してほしい。	男性	39歳	大阪
最近では原子力発電のニュースが少なくなったように感じる。原子力発電をなくすための活動が継続されるように、情報発信をしてほしい。	男性	40歳	山形
若者がエネルギーに興味を持つような取組が必要だと感じる。スマホを地用して分かりやすく、且つインパクト(危機感)を感じさせるような内容でのアプリ等があれば、効果的だと考える。	男性	40歳	山梨
①ドイツ、フランスetcの取り組みを知りたい。②火山国でのエネルギーの作り方の世界一を日本が作るべきだ。	男性	41歳	神奈川
何が本当なのかわからない。	男性	41歳	大阪

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
科学的なことから政治的なことまで、また基本的なことから複雑なことまですべてにおいて専門知識のぎゅうぎゅう詰めになっており、どこから手をつけてよいかわからない。様々な立場の人、諸々の職務にある人、都市に住む人、地方に住む人、人によって求める正しさが違い過ぎている。つまり何が正しい知識かとは別の所で社会的正義や利害関心が調停されないまま、錯綜する雑多な情報の中で、おのれの立場を決められない。	男性	41歳	栃木
テレビでもっとわかりやすく、回数を多く放送、説明してほしいです(正確に)。	男性	41歳	長野
TV、新聞等のメディアは、とにかく反対という意見ばかりを流すが、インターネットや他のメディアには賛成の意見を持っている学者など意見もある。どちらが正しいか正しくないかではなく、メディアは両方の意見を広く国民に知らせる義務があると思う。	男性	41歳	広島
わかりやすい説明であれば良い。	男性	42歳	福島
第三者機関による監視、継続的レポートが必要。第三者機関の常駐システムの確立が前提。	男性	43歳	秋田
情報公開による明確、かつ、一般にもわかりやすい解説(池上彰のような)。	男性	43歳	島根
世の役に立っているにもかかわらず、自分の無知のほどを思い知らされる。	男性	43歳	島根
どんな情報源、手段であろうが受け取る側により曲解される。ゆえ、多くの手段が望ましい。	男性	46歳	北海道
原子力の身体への影響は本当はどの程度まで良いのかわかりにくい。わかりやすい説明が欲しい。	男性	48歳	長崎
同じ情報が皆に届くようになること。	男性	49歳	福岡
原子力の平和利用は必要だと思うが、事故が起きた時の対策がないと共に研究、開発がされていなさすぎると思う。安全に利用する為にもアニメの世界ではないが、放射能を除去できる物、方法を考えられれば良いが…。	男性	52歳	埼玉
原子力は人間がコントロールできないので、使用しない方が良い。	男性	52歳	広島
理想としては原子力や化石燃料の依存度を減らし、再生可能エネルギーへの転換に力を入れるべきと考えるが、現状かなり困難であると言わざるを得ません。再生エネルギーのさらなる研究開発はもちろん、個人個人の意識改革、そして国際的な議論や協定、条約等も必要と感じます。	男性	53歳	埼玉
必要であると考えられるが、情報の公開がしっかりされてないので、国民は不安と思う。情報公開を嘘でなく、正直で発信するべきと思う。	男性	54歳	東京
原子力発電所はない方が良いと思うが、それ以上に温暖化により異常気象の方が恐怖です。	男性	56歳	鹿児島
身近なテレビ、新聞で知ることができたら良い。ネットはまだまだ身近には思えません。	男性	56歳	石川
原子力は使い方によっては大変危険なものではあるが、エネルギー等で有効活用することは、今後においても必要不可欠である。ただし徹底した安全確保、処理方法をきちんと確定することが絶対条件である。	男性	57歳	北海道
最終処分にも限界がある限り、利用したり稼働したりしてはいけないと思う。負の遺産と思います。	男性	57歳	鹿児島
直接今の生活にかかわらないので、しいて言えば安全性を早く証明してほしい。	男性	57歳	青森
原子力発電所の廃炉。	男性	58歳	神奈川
事業者、国、自治体、総じて信頼していない。真実を知りたいと思うが、そのための努力はあえてしようとは思わない。無責任だと思う。信頼できる政治家を選ぶ。	男性	59歳	埼玉
もっと適格に対応をし、検討のこと。	男性	60歳	埼玉
発電所を地中に作るなど、考えてほしい。	男性	60歳	宮崎
正確な情報を伝えてほしい。何であっても。	男性	60歳	山形
未来環境を第一に考えて欲しい。現在の利益や便利さよりも。	男性	61歳	千葉
原子力が必要なら東京に作ればいい!!	男性	62歳	愛知
安全であればよし。	男性	62歳	北海道
TVで正直に伝えて欲しい	男性	63歳	東京

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力発電所の再稼働は非常に不安です。	男性	65歳	千葉
人が発見開発したのだから、良いも悪いも人が解決しなければならない。もっとゆっくり自然(地球)を大事にしよう。大事なことが見逃されている。人間は賢く、神につぐ宇宙人なのだから。	男性	66歳	北海道
国民の命に関わることだから、経済の効率性、利権よりも情報の正確さ、開示、正直に、をモットーにしてほしい。国民あつての国ですから。	男性	66歳	沖縄
放射線は必要でもあるので、むずかしい。	男性	66歳	青森
天災をどう防ぐのか?地震、津波、噴火	男性	67歳	岐阜
以前、浜岡原発(中電社員ではない)に勤めていましたが、経験からすると不具合の発生は全て出入り業者に責を押し付け中電社員は上から目線で自分たちの責任は一切無いという態度である。こんな連中が原発を動かしていると思うのも腹が立つ。福島原発事故の時、真っ先に逃げ出したが東電社員と聞く。原発稼働させる電力会社が上記のようなテイタラクで安全審査がうんぬんの問題ではない。無能電力会社社員の内部改造から手をつけるのが一番先の問題だと認識している。マスコミ報道もこうした問題点を一切国民に知らせてない。原発再稼働は断固反対は以上のような理由である。	男性	67歳	静岡
徹底した情報公開。	男性	68歳	東京
将来子供達が安全な生活、治療で長生きできるよう政府、企業に頑張ってもらいたいです。	男性	68歳	東京
福島の地震の時、電力会社が大変なことになった。また、いつどこで地震があるかわからないので、原子力エネルギーはやめて欲しい。海に漏れて今だに流れているかもしれない。やめるべきと思う。	男性	68歳	和歌山
原子力エネルギー＝核兵器に直結するものと思う。非核三原則を遵守すべき。平和利用の推進を。	男性	69歳	福岡
情報公開を徹底すべき。	男性	69歳	山梨
安全で人間に役に立つ方法をわかりやすく。	男性	70歳	兵庫
福島原発の事故を端に、スリーマイル島やチェルノブイリの事故を教訓に、すべての原発で対応を考えることにつくる。	男性	70歳	福島
政官財学原子カムラからの発信は、安倍の「アンダーコントロール」発言に全てが集約され、嘘と欺瞞に満ちた虚構の世界である。人間の手に負えない原発は廃止、再生可能エネルギーに転換すべきです。	男性	71歳	千葉
福島原発事故における最終処理問題も、いまだ未定である現状をかんがみ、また事故時の事業者、国、自治体等の隠蔽問題もあり、すべてについて信用不可です。また事業者、自治体等における誘致と稼働の補助金が、透けて見えているのが現状です。放射性廃棄物の処分も重大な問題です。出来るだけクリーンエネルギーを考えてみてはいかがでしょうか。自民党員より。	男性	72歳	北海道
核廃棄物の最終処分方法(科学的処理)の確立が第一に必要。	男性	73歳	滋賀
貧困、過疎など地域の弱みにつけ込むかたちで、原発産業を維持しようとしている政府、産業界の卑劣さに怒りを禁じえない。	男性	73歳	北海道
経済大国第3位の日本といえども、日本人の努力だけでできたわけではありません。世界の人々が協力してくれたからです。自然エネルギーの開発に力を入れて、世界の方にお返しすることだ。日本は毎年ノーベル賞授与者が出ています。チマチマしたことより、人間、動物、植物が使うエネルギーに力を入れるべきです。石油は産油国に製油所を作り、粗製品にして輸出すれば。産油国もOK。	男性	75歳	岡山
情報発信の際、有利、不利を問わず、全てをだすこと。	男性	75歳	愛知
原子力発電はいらないと思う。	男性	76歳	新潟
事故があっても責任者が不明。原発のゴミが多過ぎ。	男性	77歳	福井
福島原発事故での情報提供の遅れ、又は事実の公表ができなかったことに真実性に欠けている件。	男性	77歳	岡山

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
情報はできるだけすばやく公開してほしいです。	女性	17歳	長崎
原子力関係の情報はたいがい信用できないと思う。	女性	18歳	大阪
原子力について深く考えたことがない。	女性	24歳	北海道
出来れば日本の原子力を止めてほしい。	女性	26歳	栃木
自分自身に身近なことでなければ、意識することもなくなっていくと思われる	女性	30歳	山形
原発のあり方を視野を広く(仕事の効率性だけでなく、命の尊さ、安全性)見てほしい。	女性	30歳	鹿児島
現在は“反対”に偏って報道されることが多く感じるので、偏らないようにリスクだけでなく、メリットも広められるべきである(手段は多様化するだろうと思う為、余計にそう思う)。	女性	31歳	大阪
全ての情報をきちんと包み隠さず伝えてほしい。	女性	32歳	石川
ネット発信	女性	33歳	神奈川
電力会社からの情報より第三者である複数の専門家の方達からの情報の方が大切な情報を教えてくれると思う。	女性	36歳	神奈川
真実を公開し、きちんと対応をして欲しい。	女性	36歳	東京
東日本大震災に起きた発電所は今のような型で進んでいるのかという情報公開がなさすぎるし、その地域近辺ではどうなっているのかということも情報がなさすぎる。日本は情報を隠したがるので、もっと真実を公開するべきだと思う。	女性	36歳	和歌山
情報源については大切だと思うが、その手段は安全なものが一番だと思う!!福島原発は事故を起こし世界的問題になってしまったので、やはり原発ではない方法で、かつ、そこで働いている人達がエネルギー関係の仕事につけるようになれば一番と思います(1人も職がなくなるという事がなく)。	女性	37歳	宮城
近場の問題ではないので、どこか人ごとでふわっと考えてしまいます。	女性	38歳	大阪
太陽光発電が至る所にあって、こんな所にもという所があり、どうかと思う。	女性	38歳	静岡
基本的な事がよくわかっていないので、エネルギーに関するイベントや展示などの機会があれば良い。他のイベントと組み合わせた方が入りやすいと思う。	女性	38歳	広島
自然を大切にしていけるような生き方をしていきたいし、して欲しい。	女性	39歳	千葉
うそのない情報が欲しい。	女性	39歳	福岡
ほとんどわからないのですが、犠牲になる人がいるのであれば便利にしなくてもいいと思う。日本も昔はそうやって生活していたのだから。でも、医療で役に立つものはまた助かるので、難しいところだな。と思います。	女性	41歳	大阪
大震災での福島の現状があるのに、他の地域で原発を再稼働しても大丈夫と言っている根拠がわからない。「想定外だった」では済まされないことなのに。	女性	42歳	京都
インターネットやスマホ等から情報が有り過ぎて、どれを信じていいのかわからなくなってきています。	女性	43歳	東京
震災以来、原子力や放射線に過敏になり過ぎだと思う。マイナスイメージを払拭する活動は、最初は嫌悪があってもインターネットを使って地道に活動した方が良い。	女性	43歳	埼玉
テレビの時計表示のように、放射線情報が常に出ている。	女性	44歳	栃木
東日本大震災以降、安全に対することに対して、何が本当で何を信じて良いのか、誰の責任なのか等、進展が感じられず、それでも日々電力は必要で、何をしていくのが良いのか誰を信じて良いのかわからないことが多い。安心に安全に進んでいくことを願うのみです。	女性	45歳	東京
食材の放射線の影響が心配。	女性	45歳	東京
悪い情報であっても全て発信して欲しい。どんな人や組織が発信しても東日本大震災は「何か隠しているのではないか」と思ってしまう。信頼回復に努めて欲しい。	女性	46歳	千葉
・良い点と悪い点を専門の人に、正しくわかりやすく説明してほしい。・たくさんの方が簡単に情報が入りやすいようにしてほしい。	女性	49歳	兵庫
その事象に直接利害関係のない第三者の専門家の意見をもっと聞けるようになれば良いと思う。	女性	50歳	奈良

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力発電はなくしてほしい。他の国に売るのもやめてほしいと思います。	女性	51歳	京都
原子力エネルギーに頼らずに電気供給が原発事故の後できていたはず。新しいエネルギー供給への取り組みや、技術の進歩などの情報も広くインターネットやTVなど、メディアで取り上げて一部の人にしか(情報を自ら求めて探し出す人)目に入らないようなことではいけないと思う。良いこと悪いことどちらもわかりやすく情報を流してほしい。	女性	51歳	群馬
小さい子にもわかりやすい説明ができると(マンガ等)いい。	女性	52歳	長野
その場限りの発言ではなく、次世代を考えたことを情報として伝えるよう努力してほしい。これからが心配です。	女性	53歳	山形
アクセスすればすぐに今の状態が知ることができる(信頼に値する)サイトがあれば良い!	女性	56歳	埼玉
全てのことにリスクは付きものなので、全面的に悪いとは言いきれない。	女性	56歳	神奈川
あのフクシマの恐怖を体験した国が、再稼働を検討するのは信じられない。原発に頼らない生活を目指すべき。	女性	57歳	愛知
市政だよりのようなもので、誰でもわかりやすく説明があれば良いと思う。	女性	57歳	愛知
日常的には関心を持っていても自ら情報を取る、発信する、という行動を取りにくいテーマだと思うので、定期的に新聞、雑誌、TV、ラジオ、インターネット等、多くの人々が情報を入手するツールの中で情報を開示することが大切だと思います。事故発生の後しばらくはニュース等で数多く流れていた情報が、時が経つと風化したかのようになってしまいます。	女性	58歳	東京
自然エネルギーを取り込んで(水、日光、風等)、原子力は少しずつなくして行けば良いと思う。	女性	59歳	福岡
チェルノブイリの現状や福島の子供達のガン発生の現状をもっとアピールすべき。地震国の原発が、どれ程危険かをTV etc,で訴えてほしい。	女性	59歳	東京
原子力エネルギーは廃棄も含め、最後迄決められていないのうやむやに利用している。	女性	60歳	神奈川
事業者だけの利益にとらわれず、安全第一の考え方に基づいた情報を隠し立てなく発信していただきたいです。	女性	61歳	奈良
テレビ(NHK)で定期的にこれらに関する討論会等情報発信することを、様々な時間帯で設けるようにする。	女性	62歳	大阪
全国普通に使用している、当たり前になっている電気(多方は原子力)なのに、放射能が]どの…と問題になっているが、水力、太陽光、風力等色々これからは一人一人が考えていかないといけないと思う。	女性	62歳	三重
行き過ぎた民主主義のためか、偏った意見に行きついているように感じる。すべての物にリスクは存在するのに、リスクのない安全性ばかり強調され過ぎて排除していく方向になりがち。すべてがベールで覆われてしまい見えないように目を背けているような気がする。リスクを切り捨てるのではなく、どうリスクと折り合っていくべきか、偏見にとらわれずにすべてにおいて公平に情報発信をしてほしい。	女性	62歳	大阪
新聞にわかりやすく解説して欲しい。	女性	63歳	兵庫
地域によって、情報発信量に差があると思います。次世代に負の遺産を残さずにすむように願っています。	女性	63歳	沖縄
原子力が安全でクリーンな物でないと理解している。政府や電力会社の方々が本当にどこまで制御できるのか不安でたまらない。	女性	63歳	青森
携帯の方に知らせるようなシステムにしてほしい(地震と同じように)。	女性	63歳	広島
事故に対する情報公開を徹底的に。	女性	64歳	神奈川
情報公開	女性	65歳	北海道
難しい用語ではなく、高齢者・子供にもわかるように、安全性を理解できるような絵本的に情報すれば、尚原子力エネルギー等についてわかりやすいと思います。	女性	66歳	徳島
医療に大いに役立てほしい。	女性	66歳	岐阜

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
現時点での原子力発電所を稼働しないからと言って、危険な存在であることに変わりないと思うので、地方の経済活動も考慮して徐々に終息する方向にもっていくべきだと思う。	女性	66歳	大阪
信じられると言う人。情報がどれか、わからない！	女性	67歳	大阪
どのような手段であれ正確な情報がほしいだけです。テレビ(NHK)でじっくりと…。	女性	67歳	群馬
東日本大震災の時の事故で情報や責任等がはっきりしていなかったのも、そういうこと等が心配。	女性	68歳	神奈川
全ての人ができるようにニュースで流して欲しい。評論家の専門用語ではなく。	女性	70歳	東京
早い段階できちんとしたことを伝えて欲しい。	女性	70歳	東京
第一に安全対策が万全である事を条件として、原子力エネルギーは必要と思う私です。	女性	70歳	千葉
安心とされていた原子力発電ですが、想定外の事故が発生したので、これからの安全性が崩れましたが、莫大な費用をかけて設立した施設をどうするのか疑問です。	女性	71歳	愛知
若い人の安全を第一に考える。	女性	73歳	山口
役所の市報と共に情報源を早めに発信して欲しい。	女性	74歳	東京
テレビか、ラジオからの情報だけです。	女性	74歳	熊本
テレビや公園で見たり聞いたりしたのですが、やはり一番に人体に影響があるかという事。命が一番なので、絶対大丈夫という事はあり得ないかもしれないが、人間の生活の中で役に立つ方法、使い方が大事だと思う。私たちは人生残り少ないけど、今から成長していく子ども達の健康、生活が大事だと思う。原子力やエネルギーは必要(安全が確実視)でしょうが、やはり絶対！ということをよく考えて使用してほしい。私利私欲によって行われる事のない使用、開発等をよく考慮してほしい。核実験なんてどこかの国のような馬鹿な事は絶対しないでほしい。絶対安全、絶対確実に医療とかに役立てて行ければいいカナ～～!!	女性	75歳	福岡
新聞(市報)とか放射線量の数値、今まで通りわかるよう。	女性	76歳	茨城
増やしてほしい。	女性	78歳	北海道
まだ近くの話ではないので、危機感がない。	女性	78歳	広島
原子力発電の廃止。	女性	79歳	鹿児島



## X章 生活意識や行動

## ●生活意識や行動に対する価値観

生活意識や行動に関する項目を質問している。  
 回答の高い項目は、「選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと思っている」(57.9%)、「街の美化や美観の保全是大事だと考えている」(41.8%)、「災害時には市民の助け合いが必要であり、ふだんから準備・訓練をしておくべきだ」(41.1%)が挙げられる。前回と大きな変化はない。

問1. ふだんの生活意識や行動について、あなたご自身のお考えについてお伺いします。  
 次の中からあなたの考えや行動に近いものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

16年10月全体 N=1200

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	15年 10月	14年 11月	
現在、ボランティア活動をしている。 もしくは近年に活動したことがある								11.9	12.4	16.3
ボランティア活動の経験はないが、 機会があればぜひしたいと思っている								16.0	15.1	15.8
地域の行事・イベント、地域の祭りなどには よく参加するほうだ								28.0	26.7	25.0
選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと 思っている								57.9	56.3	56.0
地域(コミュニティ)における 住民同士のふれあいを大切にしている								26.3	24.2	20.9
自治会・町内会、PTAなどの活動には 進んで参加している								21.3	23.5	19.8
街の美化や美観の保全是大事だと考えている								41.8	39.7	42.3
市民はだれも、外からの訪問者や観光客には 気を配り、もてなすべきだ								11.3	13.4	12.8
地域の伝統や文化は大事であり、 継承していくように努めている								17.5	19.1	20.5
地域の防犯や環境問題など、ご近所と 協力し合って具体的に対処している								10.5	12.8	12.8
児童や若者の公共心の希薄化が気がかりだ								21.4	22.0	24.9
地域の問題や課題を行政まかせにしないで、 市民も一緒に考え行動すべきだ								20.1	21.5	24.7
地域の出来事には常に注意して、さまざまな 情報を見聞きするようにしている								16.0	16.3	14.3
災害時には市民の助け合いが必要であり、 ふだんから準備・訓練をしておくべきだ								41.1	42.8	45.7
地域の寺・神社などの文化財は 心のよりどころとして大切にすべきだ								30.4	26.5	28.6
あてはまるものはない								13.0	13.8	16.0

### 4.3 調査結果に関するインタビュー

#### (1) インタビュー調査の実施

「原子力利用に関する世論調査（2016年度）」の結果を用いたインタビューを7回、のべ27名の対象者について実施した。実施状況を表22に示す。今後の広聴・広報・コミュニケーションの方向性を分析するために、インタビューの対象者が様々なセクターに分布するように配慮した。

インタビューでは、2016年10月に実施した「原子力利用に関する世論調査」の結果を用いて、インタビュアー<sup>1</sup>がその概要を紹介しながら、それぞれのトピックに関する意見や感想、また、広聴・広報・コミュニケーションに関する要望や方向性について聞いた。

なお、インタビュー対象者は、主に原子力などに対して関心が高い方へ依頼し、限られた人数に対して実施しているため、全国の世論調査の回答者を代表するものではない。

表22 インタビューの実施結果

インタビュー対象者	人数	実施日
報道関係者	1名	2016年12月21日
教育関係者	1名	2016年12月27日
事業者の広報担当	5名	2017年1月12日
NPO等団体①	4名	2017年1月17日
NPO等団体②	5名	2017年1月18日
首都圏10～20代	5名	2017年1月19日
首都圏10代	6名	2017年2月13日
【合計】	27名	

#### (2) インタビュー結果の整理と分析

本節ではインタビューから得られた意見を「原子力に対するイメージ」、「原子力発電に対する態度」、「ベネフィット認知・リスク認知」、「信頼」という観点からまとめ、それを受けて、今後、どのような広聴・広報・コミュニケーションを行うべきかという観点から考察する。また、インタビューから得られた調査票改訂に対する意見も整理した。

##### ① 原子力に対するイメージ

問1は本調査が始まったときから継続的に実施されているもので、原子力に対する認識の全体概要を知るためには意義深い。この調査結果について聞かれた意見を表23に示す。

「「必要」「不必要」イメージについて」の意見には、その経年変化を見て、東日本大震災前後での変化（必要のポイントが大きく下がり、不必要のポイントが高まった）を指摘する

<sup>1</sup> インタビュアー：木村浩（NPO法人パブリック・アウトリーチ）、記録：丸山剛史（株式会社NV研究所）

意見がある。また、その理由として、原油安による電気料金の低下などが挙げられた。

「不安」「危険」イメージについて」は、前年度の不安や危険のポイント上昇が維持されていることについて、原子力発電所の再稼働や、近年の自然災害の多さを挙げている。また、そもそもやはり原子力は危ない、怖い、というイメージがあることを指摘する意見もあった。

表 23 原子力に対するイメージに関する調査結果を見て得られた主な意見

全体として
<ul style="list-style-type: none"><li>福島第一原子力発電所の事故を機に、数値が明確に変化している。</li></ul>
「必要」「不必要」イメージについて
<ul style="list-style-type: none"><li>原子力に対するイメージ（必要、役に立つ）が回復傾向にないことは残念である。3.11 直後よりもポイントが低下しているのは不思議である。</li><li>原子力発電がなくても電気が足りていること、原油安による電気料金の低下などが効いているのかもしれない。</li></ul>
「不安」「危険」イメージについて
<ul style="list-style-type: none"><li>「危険」「不安」は、2012 年から 2014 年にかけて少し減っていたが、2014 年と 2015 年の間で上昇している。再稼働に関する報道が一つの原因か。立地県だけでなく、周辺 30 km、50 km に入る県知事も様々なことをコメントし、また、それらの地域の避難計画のこともクローズアップされていた。それを受けて、ポイントが上昇したのではないか。</li><li>近年は自然災害が多かった。それが災害への恐怖感や防災意識を高めているのではないか。</li><li>福島第一原子力発電所の事故も自然災害が契機になっている。事故前は、自然災害と原子力事故はイメージが結びついていなかったが、事故でそれが結びついたのではないか。</li><li>ここ 1・2 年「危険」「不安」が増加傾向にある背景には、2016 年 3 月 11 日の震災後 5 年をピークとする、福島最新状況・原発事故に関連したマスコミ報道も影響しているのではないか。</li><li>日本は被爆国なので、「危ない」というイメージを持っている。</li><li>福島第一原子力発電所の事故、被ばくなどから、「怖い」というイメージを持っている。</li><li>「リスクが高い」というイメージを持っている。</li></ul>

## ② 原子力発電に対する態度

原子力発電に対する態度に関しては、「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」と回答する者がおよそ 5 割弱という結果について、多くのインタビューが納得する結果だという意見が聞かれた。また、知識量に注目して、意見の変化が見られることに対する意見が得られた。

再稼働に関しては、「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい」が 3 割というのは妥当という意見が聞かれた。原子力の新規制基準が一定程度機能しているとの認識の一方で、まだまだ原子力に対する不信感が根強いとの意見も聞かれた。

エネルギー源全体に対しては、太陽光、風力への期待の高さと、原子力発電の震災後の落ち込みから回復していないことについての指摘が見られる。「再生可能エネルギーに対する過大評価が、原子力に対する期待の低下に結びついているように思える」との意見も聞かれ、各電源に対する正確な情報提供が望まれている。

表 24 原子力発電に対する態度に関する調査結果を見て得られた主な意見

原子力に対する態度

- 今の国民感情が反映されていると思う。
- 若者が保守的で、高齢の女性層が否定的という傾向が見えている。
- 知識が高い層で「即時廃止」が少しずつ増えているようだが、もう数年経過を見ないと傾向は分からないだろう。
- 知識が中程度の層の「即時廃止」が増えていることについて、再稼働に関する報道で、立地県だけでなく、周辺地域の方々も原発問題に関心を持つようになったことが一つの原因ではないか。今までは、知識の高い層が原子力に関心を持っていたが、再稼働問題によって、知識が中程度の層まで関心が広がってきたのかもしれない。
- 「徐々に廃止していくべきだ」という考え方はもっともだと思うが、先が見えないので、結局は、ずるずると原子力発電を使い続けることになるのではないかと感じる。
- 「しばらく使う」というのは、原発の新規建設はもう無理だと思うので、いかに再稼働するか、ということだろう。
- 原子力発電が停止してもすぐには電気料金が上がらないこと、原子力発電が停止しても電気が足りていることが、「即時廃止でもいいのではないかと」という意見に結びついているのではないかと感じる。
- 原子力発電は廃止してもいいと思っているが、いきなり廃止して生活が成り立つか不安なので、徐々に廃止していけばいいのではないかと感じている。
- 現代の生活は電気で維持されている。一方で原子力発電に対する忌避感がある。原子力発電を廃止にするのは構わない、では、廃止後どう電気を賄うのか、というところで答えに詰まる人も多いのではないかと感じる。国民全体の電力消費量を減らせばいいのか（減らせるのか）。化石燃料を使うという考えもあるが、二酸化炭素の排出、燃料の輸入量増加、電気代の上昇などの問題がある。再生可能エネルギーも現状では安定性に欠ける。この辺の感情が、「わからない」という回答につながっているのではないかと感じる。
- 福島第一原子力発電所の事故は、ヒューマンエラーが原因というよりも、地震・津波が原因だと思う。もし作業員や原子力発電のシステムそのものに問題があるならば、原子力発電を責めるのは理解できるが、自然災害が原因ならば、それを理由に原子力発電を責めるのは筋違いではないかと感じる。

再稼働に対する態度

- 「国民の理解が得られていない」が約4割というのは、意外と多いと感じた。ただ、このような問い方ではこういう結果になるのかもしれない。
- 「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい」が3割というのは妥当な割合と感じる。
- 原子力規制庁は、再稼働に関して厳しい審査を行っている印象がある。それが、「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい」のポイント増に寄与しているかもしれない。
- 「安全対策を行い、厳しい審査を経たなら再稼働してもよいと思う」に個人的には賛成なのだが、周りの人は原子力に対する不信感がまだまだ高いということを改めて感じた。
- 「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい (31.2%)」「再稼働は必要ない (25.8%)」の2択だったならば、どちらが多くなるのだろうか。
- 「なんとなく」で回答している方が多いように感じる。知識・根拠に基づいて回答している人はそんなに多くないのではないかと感じる。
- 「わからない」の回答割合（約19%）は、この程度だろう。
- 「原子力発電は当面残したほうがよい」という意見の方が多いのだから、再稼働を望む声は一定程度あるだろう。もんじゅも、地元の方は存続を望んでいる。沖縄の米軍基地も、地元にはあってほしいと思っている人もいるようだ。遠くに住んでいると「なくてもいいだろう」と思いがちだが、地元に住んで利害が絡んでいると、そう単純な話でもないようだ。
- 「放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない」など、準備が整っていない中で原子力を推し進め

るのはよくないと思う。

- 今は世の中の大半は原子力反対なのだと思うが、ほとぼりが冷めた頃には「やはり原子力が必要だ」という意見が出てきて、それに押し切られることになるのではないかと思う。
- 震災直後は「節電」を呼びかける声もあったが、最近は聞かなくなっている。そういう意味では、今は原子力発電を動かさなければいけない時期なのかもしれない、とも思う。

#### エネルギーに対する態度

- 全体としてはあまり経年変化がないようだ。
- 分かりやすい「太陽光」「風力」に人気があることが分かる。
- 知識の高い層は、「バイオマス」「廃棄物」「地熱」など様々な方法を知っていて、それらを総動員して「原子力」への依存を減らそうと考えているのだろう。
- 「原子力」は、震災後にポイントが低下している。ここまで落ち込んでいるのか、と驚いた。ここまで低下してしまうと、もう元には戻らないと思う。
- 再生可能エネルギーに対する過大評価が、原子力に対する期待の低下に結びついているように思える。FITによる経済負担を理解されていない方も多いのではないか。再生可能エネルギーの問題点もきちんと伝えて理解していただくべきだろう。
- この設問のポイント数に応じた電力の配分ができれば、国民世論を反映したエネルギー政策、ということになるのだろう。(太陽光・風力をすぐに高い割合にするのは難しいだろうが)
- 最近は太陽光発電で発電した電気を高く買ってくれないから、太陽光の新規参入が減っている、という報道を聞いたことがある。その割には、知識が高い層の「太陽光」に対する期待が高まっている(細かい事情までは知らないのかもしれない)。
- 火力発電所を取材すると、温室効果ガスの排出にかなり気を使っていることが分かる。ただ、一般的なイメージとしては、「煙をもくもく出していて環境に悪い」というイメージが強いのではないか。
- 地熱は思ったよりポテンシャルがないということが、一般市民に伝わっていない。発電コストについてはコスト検証委員会の検討結果が公開されているが、各エネルギー源のポテンシャル量は公開されていない。
- 「環境」と「安定供給」が広報をする際の大きなポイントだと思うが、一般の方は、「地熱」は環境によく、安定的な電源であると思いついてる。

### ③ ベネフィット認知・リスク認知

原子力に対する「ベネフィット認知」では、特に、地球温暖化と原子力との関係についての意見が多く見られた。福島第一原子力発電所の事故によって、二酸化炭素削減の議論が低下してしまったことや、地球温暖化防止という観点と原子力とが繋がっていることが認識されていないなどの意見が見られる。

一方、原子力に対する「リスク認知」では、その結果に納得するという意見が多い。今年度調査は高レベル放射性廃棄物に関して、新設の項目があったが、それに関しては、特に立地の段階になると受け入れられないという、いわゆる NIMBY (Not In My BackYard) 問題を指摘する意見が大きい。

高レベル放射性廃棄物の処分に関する「科学的有望地」を提示することによって、立地問題が顕在化するという意見も見られる。そして、この問題は、知識の有無によって決まるようなものではないとの意見も聞かれた。

表 25 ベネフィット認知・リスク認知に関する調査結果を見て得られた主な意見

ベネフィット認知

- ほぼイメージ通りの意見分布だった。
- 「原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さない」ということは素直に納得できる。ただ、その先の「地球温暖化」まではイメージが繋がらない人もいるのではないかと。「原子力発電」と「地球温暖化」は関係が遠い気がする。(CO<sub>2</sub>の排出量が増えていることは間違いないが、CO<sub>2</sub>の増加が本当に地球温暖化の主たる原因かどうかは分かってないこともある)
- パリ協定のCO<sub>2</sub>削減目標は、原子力利用に対する意見に影響するだろうか。日本では、福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、CO<sub>2</sub>の環境リスク認知が相対的に低下してしまい、その後、そのまま推移しているように思える。
- 市民は、CO<sub>2</sub>削減は大切だと思っているが、その手段として原子力を使うというところには意識が繋がっていないように思える。人々の期待は、原子力ではなく、再生可能エネルギーに向かっているのではないかと。
- パリ協定の目標達成には再生可能エネルギーの利用が不可欠である。ただし、再生可能エネルギーにはコストが高いという欠点があるので、原子力発電の併用が望ましい。両者とも活用していく形が望ましいか。
- 震災前は地球温暖化に対する関心が非常に高まっており、原子力発電所はその防止に役立つという意見も多かった。ところが、震災を機に、温暖化の話は全く聞かなくなってしまった。温暖化問題が解決したわけでもないのに話をしなくなってしまったことが、今になってじわじわと効いてきているのではないかと。
- 温暖化と原子力とは抱き合わせで議論を進めていくべきだ。

リスク認知

- ほぼイメージ通りの意見分布だった。
- ベネフィット認知に比べ、リスク認知のほうが、素朴な意見が出ているように感じる。ベネフィット認知では、原子力利用への意見や知識の有無によって意見に差があったが、リスク認知はクロス集計に大きな差が表れていない。
- どんな立場の人であれ、「リスクは避けましょう」「危険は低減しましょう」という点については意見が一致しやすい。
- 特に立地地域では、イデオロギーのぶつかり合いではなく、「もし事故が起きたら、住民をどう守ってくれるのか」ということが論点になることが多い。すでに原子力発電はあるので、それが動くのであれば安全性はどうなるのか、という現実的な考え方をしている住民が多い。地元の住民は国や首長の動向をしっかりと見ていて、よく分かっているような印象を持っている。

放射線・放射能

- 社会性や意識が高い方は、具体的な行動を起こすことが多い。放射線に敏感な保護者の方がいる学校もある。給食を食べさせない、校庭での運動はさせない、子供たちを遠足に参加させない(行き先は日光、磐梯)など。データを見せて説明しても信じてくれず、半ば宗教のようになっている。
- 学校で「放射線量を測りたい」という要望を出される保護者の方が実際に測ってみて、「線量は意外と高くないのだな」と思っている。ただ、それでも根っこの気持ちは変えてくれないようだ。

高レベル放射性廃棄物

- 高レベル放射性廃棄物の処分事業が進んでいないことを理由に、原子力利用に反対する方も多い。処分の問題に取り組むことも大切だろう。(反対する理由にされている、という側面もあるが)
- 必要性は感じつつも、我が身に照らすと嫌だ、という自然な回答だと思う。今の国民感情を反映していると思う。

- 科学的有望地公表されたら、その近隣の人たちは大反対するのではないか。指定廃棄物の問題ですら、これほど大騒ぎになっている。どんなに地域振興・交付金などがあっても、高レベル放射性廃棄物を引き受けようとする首長はいないと思われる。この問題は解決しないのではないか。なぜこの地域が選ばれたのか、ということは科学的に説明できないのではないか。
- 科学的有望地は、具体的な地名、エリアという形で示さなければ、受け取る側としては、示されたと感じないだろう。一方で、具体的に示せば必ず反対が起こる。
- 地方紙の記者も、科学的有望地がいつ示されるのかということに非常に高い関心を持っている。
- 知識の有無に関わらず、嫌なものは嫌なので、どんな示し方をしたとしても、処分場の場所は決まらないだろう。
- 立地問題の解決は非常に難しい。原子力関係には、理詰めで解決できない問題が多い。「心配ないですよ」という記事を書いても、「嘘だ」と反発されるだけである。今は、子供の声がうるさいということで、保育園・幼稚園が作れないという問題も起こっている。個人意識が高まって、おかしな社会的風潮が形成されつつある。まして原子力施設は、という状況だろう。「お互いさま」という意識が、現代日本では失われている。そして、政治家はその世論を無視できない。
- 必要なことは確かだが、どの県も処分場の立地を嫌がるだろう。処分場の場所が決まらず、ずるずると先延ばしになっている印象を持っている。
- 軌道エレベーターで放射性廃棄物を宇宙に捨ててしまえばいい、という意見を言っている人もいるが、現時点の技術では、安くて現実的なのは地層処分なのだろう。

#### ④ 信頼

信頼に関してはまず、「専門家」に対する信頼が思ったよりも高いことを指摘する意見が見られた。ただし、「専門家」といっても、様々な専門家がありうることの指摘がなされた。

また、不信の大きな理由である「情報公開がされていないから」に関しては、「意外と公開されていて、見ようと思えば見ることができるのだが、国民は主体的に見ようとしていない」との意見や、「正直に話していない」と思われているので、結局「情報公開をしても信頼は取り戻せないだろう」との意見が聞かれた。そのために、「私たちのことを配慮しているから」「信頼したいから」と相手に感じさせ、伝え手と受け手の距離感を縮める」ことが重要で、そのためには「国や事業者には、市民の方々の意見を「ひたすら聴く」という傾聴の姿勢が求められる」という指摘がなされている。

表 26 信頼に関する調査結果を見て得られた主な意見

##### 専門家・事業者・国・自治体に対する信頼

- 「専門家」に対する信頼が非常に高いことに驚いた。
- 専門家に対する信頼が高い。専門知識を持っていることが要因だろう。
- いろいろな「専門家」がいることには注意が必要だと思う。原子力に対して肯定的な専門家もいれば、否定的な専門家もいる。テレビ番組などで専門家に祭り上げられているだけの人もいるだろう。ただ、問9・10を見ると、専門家は「専門能力を持っている」ことが重視されているように見える。
- テレビのコメンテーターも「専門家」に含まれているかもしれない。「ニュース番組のコメンテーター」という枠組みで質問すると、その信頼の程度は低くなるかもしれない。
- 「国」があまり信頼されていないことが意外だった。
- 国は「信頼したいから」、自治体は「私たちのことを配慮しているから」のポイントが高い。国や自治体に対する、「私たちがしっかり守ってほしい」という依存度の高さや、主体的な取り組みに対する期待の高さが感じられる。



- 安全対策や情報公開に対する不満は、どの主体に対しても高い（「国」は特に高い）。「国」と言った場合、福島第一原子力発電所の事故が起きた当時の民主党政権の対策の不備が、根深くイメージとして残っているのではないか。
- 情報は意外と公開されていて、見ようと思えば見ることができるのだが、国民は主体的に見ようとしていない。この項目に対しては、国民の誤解が大きいだろう。
- 「正直に話していない」という理由は、悪者イメージを持たれている以上、どうしようもない。
- 「信頼したいから」という理由があるが、日本人は、安心できれば安全でなくてもいいと考える人が多いのではないか。（人柄を理解してもらい、信頼してもらおうことが大切）
- 「情報公開が不足しているから」「正直に話していないから」と思われているから、情報公開をしても信頼は取り戻せないだろう。最後に効いてくるのは、「私たちのことを配慮しているから」「信頼したいから」と相手に感じさせ、伝え手と受け手の距離感を縮めることではないか。国や事業者には、市民の方々の意見を「ひたすら聴く」という傾聴の姿勢が求められるのではないか。
- 震災前は、事業者は上から目線で「教えてやろう」という意識が強かったのではないか。また、説明会を開くこと自体が目的化していたのではないか。
- 福島第一原子力発電所のトラブル報道があるたびに、「国や東京電力は相変わらず何か隠している」という気持ちが高まってしまいうようだ。

#### 情報源に対する信頼

- 「専門家」に対する信頼が圧倒的に高い。専門家の方が、分かりやすく優しく説明するのがもっとも良い（逆に、専門家の方が、難しく偉そうに話す心象が悪い）。メディアも、「専門家の方がこう話している」という形で記事を作っている。そういう意味では、原子力に関して、専門家の露出をもっと増やしたほうがいいのかもかもしれない。
- 「国際機関」については、欧米信仰が寄与しているかもしれない。
- 「記者」への信頼が10%を切っている。かつて記者はきちんとした取材をしていて、彼らの出す情報への信頼はもっと高かった。今は、記者すらインターネット情報を頼りにしていて、あまり信頼できない。

## ⑤ 知識

エネルギー自給率があまり知られていないということに対して、納得できるとする意見が多く聞かれた。これがエネルギーに関する様々な問題の原因ではないかとの意見もある。一般の人々に情報を伝える際には、多くの情報を伝えるのは難しいため、エネルギー自給率に絞って伝えるという方法もあるのではないかと、との提案も見られる。

また、今年度調査に見られる知識量の低下について、東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故から5年以上が経過して、風化が起きているのではないかととの意見も見られる。報道関係者からは、「原子力発電所事故に関しては二度と起こらないように、震災についても一人でも多くの命が救えるように、呼びかけ続け、人々の意識にとどめ続ける報道が必要だ」との意見が聞かれた。

なお、学校教育の現場において、エネルギーや原子力、放射線、環境というような話題がどのように扱われているのかについて、具体的な情報提供もあった。放射線という目に見えないものを具体化できる霧箱の設置などについて、教育現場からの要望も見られる。

表 27 原子力・放射線・エネルギーの知識に関する調査結果を見て得られた主な意見

エネルギーや原子力に関する知識

- 普通の方々（世間一般の新聞読者、インターネット閲覧者）は、知らないことのほうが多いのだろう。東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故があってもなお、原子力事故とは何なのか、エネルギー政策における原子力の位置づけとは何なのか、を知らない人が多いと感じる。
- 私の身の周りでは、問4の項目はどれも全く知らないという人が多いと思われる。ただし、彼らに原子力に対する拒否感があるわけではない。自然な意味で知らない（拒否感がない）という方と、聞く耳を持たないという方では、性質が違うのではないか。ただし、原子力に対して拒否感がない方でも、原子力に関する話を聞く機会をずっと持たないままだと、聞く耳を持たない方に変化してしまうおそれがあるのではないか。
- 「日本のエネルギー自給率は6%」は、最低限理解してもらわなければならない事柄だと思う。これを理解するだけで、本世論調査の各設問に対する回答傾向はずいぶん変わってくるはずだ。
- 「日本のエネルギー自給率は6%」であることを知らない人が6割以上いることが、様々な問題の原因ではないか。これを知らないと、安定供給をどう考えればよいか、燃料費で国費がどんどん流出していることをどうするか、という意識を持ってない。
- 「エネルギー自給率6%」は、原子力賛成・反対に関わらず、国民全員が常識として知るべき事柄だ。
- 「日本のエネルギー自給率は6%」であることは知らなかった。
- 「エネルギー自給率6%」という数字は、化石燃料も核燃料も輸入しているのだから、そうなのだと思う。逆に、6%の国産エネルギーは何なのだろうかと思う。最近は太陽光発電なども普及してきて、少し自給率が上がってきたのだろうか。「日本の資源の自給率（例えば鉄鉱石など）」という話になると、どの程度の数値になるのだろうかと感じた。「資源自給率」という考え方はあまり聞いたことがない。
- フランスやドイツの電力事情もあまり知られていないのだなと感じた。
- 本調査では、原子力に関する知識量が2014年から2016年にかけて減っている。知識量の低下（関心の低下）は、「風化」と呼ばれる現象だろうか。東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故から5年が経ち、風化が進んでいるのだろうか。
- 原子力に対し国民全体の関心が低下していると思うが、しっかり考えなければいけない問題だと思う。
- 福島の方は、全国平均と比べ、特に放射線に関する知識の量が多いと思う（自分の生活に直接関わることなので）。原子力関係や国際関係の知識は、関心が高い人以外はあまりない。一方、東京（立地地域以外）の方々は、漫然とした知識を持っているように感じる。この設問の結果は、そういった一般の人々の認識を反映していると思う。
- 人々の反応は、知識の量に左右されることが多いように感じる。（特に、知識が少ない方はネガティブに反応しがちである）
- 私たちはエネルギーを使って生活しているにも関わらず、日常的に利用しているものに対する理解が足りていないのはよくないことだと思った。

新聞報道

- 原子力事故、原子力再稼働に関する記事を作って、地方紙を中心に掲載している。同じ記事でも地方によって反応は異なる。例えば、立地地域は「原子力発電は大切だ」という反応が多い。一方で、他の地域では、知識が少ないことが原因で反対する方もいる。
- 福島の新聞社は、現在福島に住んでいる人たちが安心・納得・共感する記事を多く載せようと努力されている。逆に、嫌な気持ちになるニュースはなるべく載せないようにしているようだ。復興に向かう気持ちを支えるような記事を載せたい、という声をよく聞く。
- 新聞社としては、きちんとした知識に基づき、フラットに書くように心がけている（両論があれば

併記するなど)。いろいろな立場の方が読んでも違和感がないように意識している。

- 「福島の人たち」といったときには、現在も福島に住んでいる方々（数はこちらが多い）と、福島県外に避難している方々がいる。福島の新聞社は、福島に住んでいる人たちに向けたメッセージを発信しようとしている。自主避難された方々に関する記事が載ることもあるが、あまりそればかり載せると、今も福島県内に住んでいる人たちの反発を生みやすい。一方で、福島県外に避難された方をないがしろにすると、その方々の気持ちが傷ついてしまう。新聞社としては、人数の多少にかかわらず、気持ちを汲み取って記事にすることが大切だと考えている。
- 記事を作成するにあたって、知識は非常に大切である。様々なことを勉強しながら記事を作るように心がけている。
- 忘れることは悪いことではないと思う。しかし、報道関係者の立場から言うと、二度と戦争を起こさないように「戦後 50 年」「戦後 70 年」と言い続けているように、原発事故に関しては二度と起こらないように、震災についても一人でも多くの命が救えるように、呼びかけ続け、人々の意識にとどめ続ける報道が必要だと考えている。
- 震災以降の放射線報道の混乱を見るにつけ、正しい科学知識に乏しい社会部系「記者」が原子力・エネルギー関連記事を書くことも多いので、エネルギー業界関係者としては、消費者向けの情報発信以上に、マスコミ向けの原子力リテラシー教育が重要だと思う。

#### 学校教育

- 理科の授業では、放射線を教えるときに、同時にエネルギー・資源のことも教えている。「原子力発電所はあったほうがいいのか」というテーマでディベートをすることもある。ディベートでは、生徒たちが自分でいろいろなことを調べ、「放射線が嫌だ」「でも、そう単純な問題でもない。エネルギーが必要だという面もあるし、放射線は役にも立つ」「でも、現に原発事故があり、困っている人がいる」「困っているのは主に風評被害だろう」などの議論がなされている。
- 社会科の授業では、食料自給率やエネルギー自給率について、中学校第 2 学年の地理で取り扱っている。
- 生徒が学校で学んだことが、保護者の方に伝わっていると思う。ただ、生徒が「福島県の農作物は検査を受けて安全なものしか流通していない」ということを自分で調べ、理解して、だからそれを買おうと思って保護者の方に伝えても、保護者の方はそれを買わない、ということも起こっているようだ。
- 原子力に対する知識や関心の低下は、教育の現場においては感じない。ただ、ベクレル・シーベルトなどの報道は減っている。「原発いじめ（福島から避難してきた子供が、お前たちは補助金をもらっているのだからお金を出せ、と学校でいじめられる問題）」があちこちで起こっていることは気にかかっている。
- 霧箱は、全国の中学生が、義務教育の間に触れられるようにしたほうがいいと思う。霧箱はドライアイスさえあれば簡単に作れるので、良い教材になると思う。ただ、実験をするのに最適な学年はどのくらいなのだろうか、と悩んでいる。教育課程では放射線を扱うのは中学 3 年生。「よく分からないけど何かが出ている」というよりも、原理を理解した上で見てもらったほうがいいのだろう、とは思っている。
- 小学校 5 年生くらいから抽象的な考え方が徐々に分かるようになってくる。ただ、放射線のことを無理なく理解できるのは中学 2～3 年生くらいだと思う。
- つい最近までは学校できちんとしたエネルギー教育をしていなかったため、エネルギー自給率の知識を持っている人が少ないのではないかと。近年は少しずつ指導要領が変わってきたので、10 年後にその効果が表れてくるかもしれない。ただ、指導する教師の関心とエネルギー問題の優先度の低さもあり、知識の普及は時間がかかると思う。
- 学校では地球温暖化について、理科では、エネルギー資源、発電方法、エネルギーの使い方などと併せて、地球温暖化や放射線について教えている。（ただし、これらは中学 3 年生の教科書の最後

のほうの内容であり、入試では範囲外になっている県がある)

- エネルギー、放射線は学習指導要領に含まれるので、教科書には必ず載っている。ただし、分量は教科書によって異なっている。
- 理科の教科書では、放射性廃棄物処分について触れていない。教科書には載っていないが、原子力をテーマにディベートをさせると、生徒たちが自主的に調べることはある。

知識を伝えるためのアプローチ

- 一般の人には、一度にたくさんの情報を伝えることはできないと思う。何か一つに絞って伝えるべきではないか。「エネルギー自給率6%」が伝えるべき情報だと思う。
- 原子力は、「エネルギー自給率6%」の危うさを補完できるエネルギー源である。国や事業者はどうしてもコスト面でメリットがあるという話をしがちだが、「エネルギー安定供給の面で原子力が重要だ」という話をしてほしい。
- (コミュニケーション経験の乏しい) 技術者をいかにリスクコミュニケーターに育てるか、が課題なのではないか。

## ⑥ 情報獲得に関する行動

人々の情報獲得に関する行動については、知識量や社会性(社会へのコミットメントの度合い)との関係を指摘する意見が多く見られた。すなわち、知識が豊富で社会性の高い人々は、自然と正しい情報を吸収するのに対して、エネルギーの問題に積極的でなく、無関心でい続けてしまう人々には、情報が届きにくいという構造があることの指摘である。

このような情報獲得に関する構造を下敷きにして、広報・広聴のターゲットをどこにするべきか、ということについては、意見が分かれた。代表的なものとしては、リソースの配分を考えると中間層にこそ積極的に情報を提供すべきだ、という意見と、知識量の少ない層も含め、全体へ情報を提供すべきだという意見である。

また、教育現場への大きな期待が示された。エネルギーや原子力といったトピックを教えることへの期待というよりは、「偏った考え方をするのではなく、科学的な情報に基づいて判断すべき、ということ」というリテラシー獲得への期待を述べる声もあった。

情報を提供するイベントなどの波及効果については、有効であった事例をほとんど知らないという意見が多かった。なお、波及効果が期待できる取組事例の紹介があったので、それについては別途、コラムにまとめている。

表 28 情報獲得行動に関する調査結果を見て得られた主な意見

情報獲得行動

- 無関心層が増えて、選挙の投票率がどんどん下がっている。民意を反映しているかどうかあやしい選挙もある。原子力分野でも、無関心層の掘り起こしが必要なのだろう。どんな事柄にせよ、知ってもらわないと物事が始まらない。
- 自分の身に切迫するものがないと、人は積極的に学ぼうとしない。何とか我が身に引き付けて考えてもらう工夫が必要だろう。無関心層にどう呼びかけるかという問題は、あらゆる分野が抱えていると思う。
- 社会性が中程度の人たちに届く情報源はメディアに限定されている。依然として情報入手経路は「新聞」や「テレビ(ニュース)」が強い。ただ、インターネットも情報源になりつつある(特に

30代男性は、「インターネット上のニュースサイト」のポイントが高い)。

- 社会性の高い方は積極的に情報を得ようとするため、イベントに参加しようとする。彼らは、自然に正確な知識を得ていくことだろう。
- 世代別・性別のクロス集計を基に、広報戦略を考えていくべきだろう。若年層はそもそも情報を入れようとしないうという傾向が、クロス集計結果を見るとよく分かる。
- 日本人は付和雷同なところがある。ラディカルな話題が出ると、「そうだ、そうだ」と同意しやすいのではないか。(原子力に賛成か、反対か、と問われれば、反対と言やすい)
- これまでの原子力広報の結果が、この調査結果に表れている。今までの経緯をなかったことにして、ゼロから始めるわけにはいかない。信頼が失われマイナスになっているところからスタートしなければいけない場合も多いだろう。
- 頭ごなしに原子力を否定している人は、「評論家」などに扇動されているおそれがある。

#### 広報・広聴のターゲット

- 知識の高い層は、原子力について自ら調べ、強固な意見を持っている場合が多い。一方で、関心や知識の無い層は、こちらが呼び掛けても反応しない。広報に割けるリソースが限られている中では、知識や関心が中程度の層を中心に広報活動を行ったほうがよさそうだ(同時に、知識が低い層に対する知識の底上げも必要だと思う)。
- 知識無し、社会性無し層の動向は、社会全体の動向に左右されるのではないか。今は社会全体が原子力に対してネガティブなので、彼らもネガティブな意見を持ちやすい。彼らに特化した広報をするのではなく、全体(特に中間層)への広報をすべきだろう。
- 情報源として、マスメディアが強いことが分かった。マスメディアを活用するならば、人口比率の多い層への働きかけが効果的だろう。次世代に力を入れるべきとの声は多いが、次世代の人口比率はそれほど多くない。第二次ベビーブーム層(40代)に焦点を当てて広報していくことが大切かもしれない。調査結果では、40代に「わからない」との回答が多いが、相応の人生経験を積んできた40代が意見を持っていない状況はよろしくない。
- 調査結果を見ると、知識のない層、関心のない層にアプローチしても、効果は少ないのではないか。ある程度関心があり、知識がある層に展開していったほうが効果が高いのではないか。
- 知識がない方の知識の底上げも必要だろう。選挙の際には、知識を持った上で判断してほしいと思う。知識が低い層、知識がない層は、全体の約5割を占めている。
- 知識がない層に分類されている人の中には、文章化されていると「よく分からない」と思ってしまうけれども、実際にはもう少し知識がある人もいるのではないか。そういう意味では、全ての層に広報していく必要があるのではないか。
- どのくらい時間をかけるかによるのではないか。原子力に関する情報を全ての層に伝えていくには膨大な手間と時間がかかるので、やって意味のある層に呼びかけたほうがいいのではないか。
- マスメディア以外の個別の取り組みとしては、専門家や有識者を通じての情報発信が有効か。いかにインフルエンサーを活用するかがポイントになるだろう。

#### コンテンツ

- エネルギー政策に絡めて、原子力の知識、関心を持ってもらうべきだ。電力小売自由化が始まり、関心が高まっている現在は、そのいい機会だと思う。良い面・悪い面の両方を幅広く伝えていくべきだ。
- 20歳以上に対しては、会社で実施するセミナーなど(エネルギーに関係がなくてもよい)において、地球温暖化、日本のエネルギー自給率とそれに対する原子力の効果などを少しでも伝えるようにすると、多少は関心喚起になるのではないか。
- 原子力を拒絶している人も含めて、国民全員に知識を伝えようとするときに、原子力のことから伝えようとする拒絶反応が起こるだろう。放射線の話も、「放射線→原子力→嫌だ」という思考回

路になってしまう人も多いだろう。そもそも放射線とは何か、というところから伝えていくことが必要なのではないか。放射線は、原子力に限らず、医療、食品、検査など様々な面で活用されているということを伝えるところから始めるべきだ。

- 原子力や放射線に関する情報は、様々なところに分散していて、専門家同士でも意見が異なる場合も多いので、情報のプラットフォームの整備が必要なのではないか(専門家同士が意見を交わす場、専門家と学校教員が意見を交わす場)。教員が正しい理解をしてくれれば、子供たちにも正しく伝わるのではないか。
- 震災前は(資源エネルギー庁後援事業の一環で)一般消費者と企業向けに省エネ出前講座で複数年講師を担当した。以前は省エネ・温暖化に対する関心が高かったのだが、震災を機に原子力政策が不透明になり、資源エネルギー庁事業も減ると、それらの関心も冷めてしまって、今、それを元に戻すために苦戦している。意見が固まっている方はともかく、「どちらともいえない」層の関心を高めるにはどうしたらよいかを悩んでいる。

#### テレビ・新聞

- テレビは基本的に娯楽メディアなので、娯楽番組への注力が大きく、ニュース部門は小さい。新聞やその他のメディアも活用し、いろいろなチャンネルを作って、関心を持ってもらう工夫が必要だろう。
- 本当に「新聞」や「テレビ(ニュース)」をこんなに見ているのだろうか。
- 「テレビ(情報番組)」は、子供たちが録画して毎週見ている。

#### インターネット

- 今は、インターネットの情報を盲信している人が多いように思える。
- 「家族・友人・知人との会話」は、最近はLINEで会話しているケースも多いと思われる。(フェイスブックフェイスとは限らない)
- 「事業者のホームページ」はあまり見られていないことが分かった。ツイッターなどで誘導しないと見てもらえないということか。
- 情報源として、思ったよりインターネットが重視されていなかった。企業のホームページを見る人は、ほとんどいない。原子力やエネルギーに関する情報が、日常の情報として出てくるようにしないと、一般の人の目には触れにくいのだろう。
- 一般の人々は、事業者のホームページをほとんど見ないのだろう。ただし、人々からの信頼が高い専門家の方が事業者のホームページを情報源にしているとすれば、しっかりした内容を整える必要がある。

#### 直接対話

- 「家族・友人・知人との会話」が、思っていたよりもポイントが高かった。私たちは日ごろ草の根の活動をしているが、会の最後には、必ず、「帰った後に家族や知り合いに伝えてください」と呼びかけている。その考え方は間違っていなかったと分かり、安心した。
- そもそも、日常生活でエネルギーや原子力を話題に出すことは少ない。

#### 教育

- エネルギーや原子力について、しっかり学校で扱うべきだ。理科がメインになるが、社会科で扱ってもいいし、道徳のテーマにしてもよい。偏った考え方をするのではなく、科学的な情報に基づいて判断すべき、ということを学校で教えていくべきだと思う。(ディベートはその一つの方法)
- 先生が「福島の食べ物は安全だ」と言うよりも、生徒たちが自分たちで調べて、きちんと検査されていることを理解すると、態度が変わりやすい。自分たちで調べることが大切だと思っている。
- 調べる際の情報源は、学校では、教科書、書籍などになることが多い。インターネットは、必ずし

も正しい情報が載っているとは限らないという点に注意が必要である。

- ディベートの場でも、「公的機関の情報ではこうなっている」「百科事典にはこう書かれている」という発表は、周りから信用されやすい。そういう意味では、科学的に正しい情報を整理した書籍を出版することには意味がある。
- 中学校や高校生の理科や社会の先生の中に、エネルギーについて中立の立場で非常に丁寧に指導してくださる方も（少しずつ）増えている。放射線が学習指導要領に入ったことも影響しているだろう。ただし先生個人の知識量やスタンスに負うところは大きい。
- 原子力やエネルギーについて、義務教育で半強制的に学んでいく必要があるのではないか。（ただし、教育の仕方によって、意見が偏るおそれがある点には注意が必要だ）
- 若いうち（中学生頃）から、授業やセミナーを通じて、原子力について考える場を作っていくべきだ。

#### 波及効果

- イベントに集まった人だけでなく、その人たちが帰った後に周りに広めることを期待したい（波及効果）、という声がよく聞かれるが、それは日ごろあまり効果を感じたことはない。
- 近年は個人意識が高まって、「皆で何かを考えましょう」、「地域で盛り上がりましょう」という場もないし、雰囲気もない。ご近所付き合いもほとんどなくなっている。事なかれ主義が横行している。波及効果はあまり期待できないのではないか。
- 波及効果を直接的に感じることはあまりない。イベントの波及効果の効果測定は難しい。インターネットのニュースサイトなどで報道してもらい、それをどれだけの人に見てもらったかというのは分かりやすいが、それ以外は効果を測るのが難しい。
- 原子力関連情報が多く報道された時期は、世論調査で原子力に対する意見が変動しやすい、という効果は観測されている。我々が最近行った調査でも、賠償の費用負担問題、もんじゅ廃炉などの報道の影響が表れている。

#### ⑦ 質問票改訂に対する意見

- ・（問 4 について）エネルギー関係の設問は一般的な内容だが、原子力関係の設問はかなり詳細に書いてあり（細かい数字まで書いてあり）、違和感を覚えた。質問者側の意図が感じられてしまう。
- ・（問 4 について）知識項目は、経年変化を見るために、ここ数年変化させていない。しかし、項目に改善する必要があるかもしれない。例えば、近年では「パリ協定」などが話題になりうるか。
- ・（問 6-1 について）「東日本大震災以前の状況を維持すべき」という選択肢があるが、震災以前の原子力の状況を知らないで答えても問題はないのか。知識がなく、以前は日本に非常に多くの原子力発電があったと思っ込んでいる人もいるかもしれない。（フランスは、8割という情報も載っているため、誤解を招かないか心配だ。）
- ・（問 12 について）情報源として、「新聞広告」は聞いていないのか。（もう古い手法になりつつあるかもしれないが。）

## ⑧ コラム「波及効果が期待できる取組事例」

私は、ある立地地域で事業者が開催している講演会（少人数・双方向）の講師を務めている。「講演会（少人数双方向）」の需要が高まってきているように感じている。子育て講座、片づけ講座、婚活講座などを行っているのだが、主催者側に、一つのテーブルに座る参加者は5人以内にして、テーブルに一人ずつ社員が入るようにしてほしい、とお願いしている。1テーブル5人以内なら、グループ内の誰に対しても、人をまたがずに話ができる。また、ふとしたつぶやき（こぼれ出た本音）も聴き取ることができる。大人数の講演会だと質問しにくい雰囲気になりがちだが、少人数のテーブルなので、質問が出やすい雰囲気になっている。

大規模の講演会では、事業者が参加者に知識を伝えようとして、対立してしまう構図になりがちである。事業者には、知識を伝えるのではなく、人柄を伝えるようにしてほしいとアドバイスしている（例えば、片づけ講座で、あえてうまく片づけができないことを伝えるなど）。

お料理講座では、名札の下に得意な料理や好きな食べ物を書いてもらって、話のきっかけにしている。その結果、講座が始まる前に参加者がお互いに打ち解けることができている。参加者が事業者の人柄を理解して、初めて、参加者は事業者の話の聞く気になる。事業者の方にはそれを大切にしてほしいと伝えていて、事業者の方もその大切さを理解して守ってくださっている。

講座で打ち解けた後に、事業者の方がエネルギーの話をする、参加者から様々な反応が表れる。中には、その場で事業者の方と（以前は無関心だった）発電所などの見学会の打ち合わせをしだす人もいる。ある地域でイベントを開いたところ、それが口コミで広がって、他の地域からも開催希望が出てきたことがある。口コミの力は非常に大きい。

講座終了時に、事業者の方から、「一般市民としてどう感じたか」と講評を頼まれることがある。私は以前ジャカルタに住んでいたのだが、ジャカルタは電圧が非常に不安定だった。日本は電圧が一定で、スイッチを入れれば、電気がつくことが当たり前になっているが、ジャカルタで生活したことで、その当たり前をすごくありがたく思うようになった、という話をしたところ、参加者から「確かにそうだ」という反応があった。事業者が同じことを言うと反発があるが、私は一般市民の立場なので、安定供給のありがたみを言うことができる。

一般の人にエネルギーの話の長時間しても、集中力がもたないと思われる。20分程度でまとめることもポイントのひとつではないか。

### 波及効果に効果がありそうな事例

終了時にグッズを渡して、家に帰った後に家族に伝わるように工夫している。エネルギーに関する情報が載った下敷きを配布しているが、評判が良い。

クリアファイルは評判があまりよくない（中身が見えないほど表面に情報が書かれているため、仕舞い込んでしまったり、他のクリアファイルに紛れてしまうため）。両開きのクリアファイルは重宝するし、他と異なり目立つので、使ってもらいやすいのではないかと。他とは違う特徴があるグッズを作成することが大切だ。

パンフレットはすぐに捨てられてしまう。A4版のパンフレットは特に捨てられやすい（女性のバッグにはA4版が入らない）。B5版のパンフレットはコンパクトなので、女性用のバッグでも出し入れしやすくして良い。デザインについては、色の効果も大きいと思われる。女性層を意識して活動しているので、パンフレットの表紙も薄いピンク色などにして、親しみやすいイラストをつけるなどの工夫をしている。



(3) インタビュアーによる情報提供内容

インタビュー時にインタビュアーが用いたパワーポイント資料と、提供した情報の概要を示す。

## 紹介する調査の概要

- 原子力利用に関する世論調査（原子力文化財団）
  - オムニバス調査
  - 割り当て留め置き法
  - 全国15～79歳男女 1200人
  - 2016年10月5日～10月17日

→原子力発電への態度、知識量、社会性等でクロス

2

- ・ オムニバス調査である（原子力だからやりたくない、という人が減るメリットがある。一方で、質問量が多いので回答がいい加減になりがちというデメリットがある）。
- ・ 割り当て留め置き法（人口比率に合わせて、調査員が直接会って調査票を渡し、回収する方法）。
- ・ 調査時期は2016年10月。回収数は1200。
- ・ 主なクロスは、原子力利用に対する意見（増加、維持、徐々に廃止、即時廃止、わからない）、知識量（よく知っている、ある程度知っているという数で分類）、社会性（丸を付けた数で分類）。

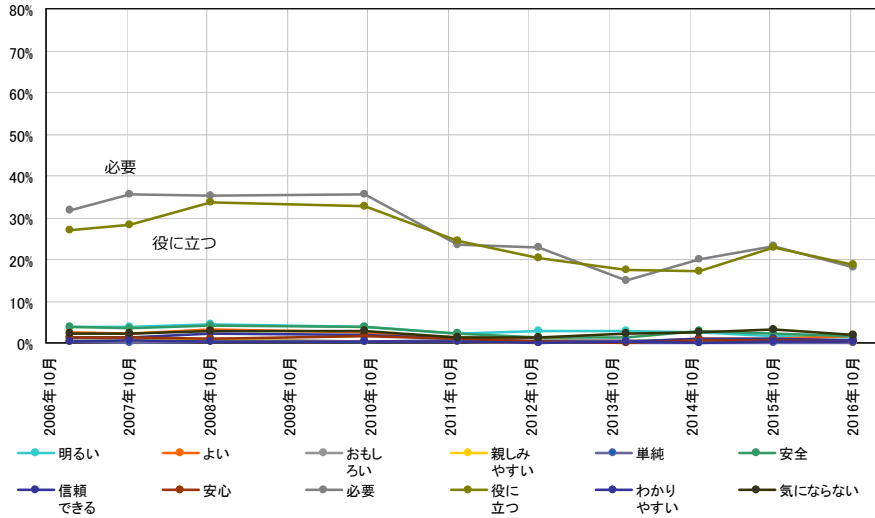
<p><b>知識量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本のエネルギー自給率は6%である</li> <li>● 二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである</li> <li>● 電力を安定的に供給するため、さまざまな発電方式を組み合わせて発電されている</li> <li>● 原子力発電はウランの核分裂で発生した熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している</li> <li>● 火力発電は化石燃料を燃やした熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している</li> <li>● フランスの発電電力量の約8割は原子力発電が担っている</li> <li>● ドイツは今後、国内の原子力発電を段階的に廃止する方針である</li> <li>● プルサーマルとは、原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電（軽水炉）の燃料として利用することである</li> <li>● 使用済核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、再び燃料として使用する一連の流れを核燃料サイクルという</li> <li>● 軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3～5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である</li> <li>● 私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている</li> <li>● 放射線と放射能は違う</li> <li>● 放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている</li> <li>● 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響で、確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である</li> </ul> <p>・・・「よく知っている」「ある程度知っている」の個数  知識高：11～14  知識中：4～10  知識低：1～3  知識無：0</p>	<p><b>社会性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、ボランティア活動をしている。もしくは近年に活動したことがある</li> <li>● ボランティア活動の経験はないが、機会があればぜひしたいと思っている</li> <li>● 地域の行事・イベント、地域の祭りなどにはよく参加するほうだ</li> <li>● 選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと思っている</li> <li>● 地域（コミュニティ）における住民同士のふれあいを大切にしている</li> <li>● 自治会・町内会、PTAなどの活動には進んで参加している</li> <li>● 街の美化や美観の保全是大事だと考えている</li> <li>● 市民はだれも、外からの訪問者や観光客に気を配り、もてなすべきだ</li> <li>● 地域の伝統や文化は大事であり、継承していくように努めている</li> <li>● 地域の防犯や環境問題など、ご近所と協力し合って具体的に対処している</li> <li>● 児童や若者の公共心の希薄化が気がかりだ</li> <li>● 地域の問題や課題を行政まかせにしないで、市民も一緒に考え行動すべきだ</li> <li>● 地域の出来事には常に注意して、さまざまな情報を見聞きするようにしている</li> <li>● 災害時には市民の助け合いが必要であり、ふだんから準備・訓練をしておくべきだ</li> <li>● 地域の寺・神社などの文化財は心のよりどころとして大切にすべきだ</li> </ul> <p>・・・ 選択数  社会性高：8～15  社会性中：3～7  社会性低：1～2  社会性無：0</p>
---	--

3

- ・ 主なクロスは、原子力利用に対する意見（増加、維持、徐々に廃止、即時廃止、わからない）、知識量（丸を付けた数で分類）、社会性（丸を付けた数で分類）。
- ・ 社会性を測る設問では、社会に対するコミットメントの程度を測っている。

## 原子カイメージ（肯定的）

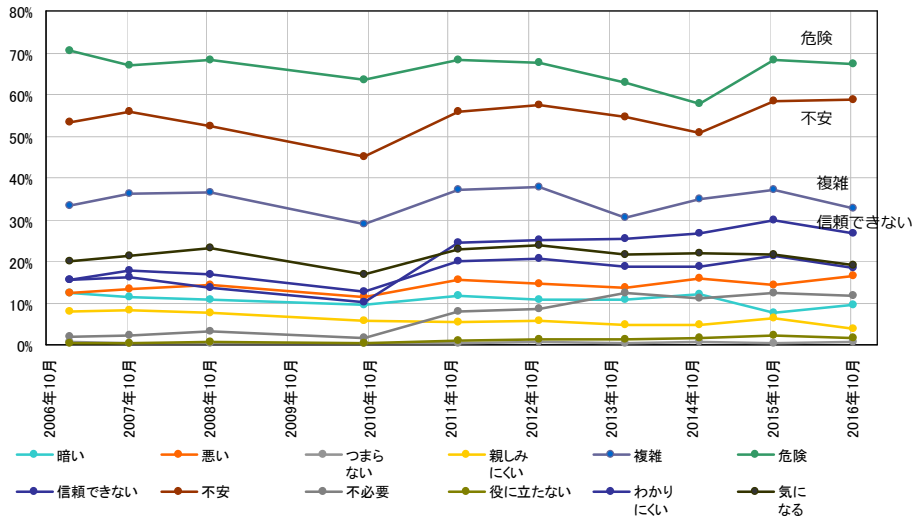
あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。（複数回答）



4

## 原子カイメージ（否定的）

あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。（複数回答）



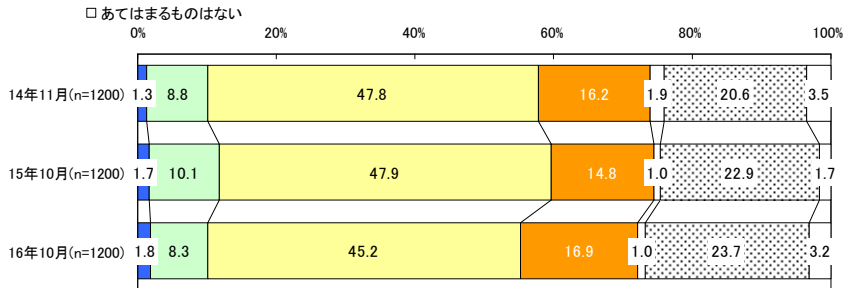
5

- 肯定的なイメージは、「必要」、「役に立つ」のポイントが高い。震災後、これらのポイントは低下している。2013年度調査でポイント低下は底を打ったようにも見えるが、2016年度はまたポイントが落ち込んでいる。しばらく経過を見る必要がある。
- 肯定的なイメージに比べ、否定的なイメージの方が反応が大きい。
- 否定的なイメージは、「危険」、「不安」、「複雑」、「信頼できない」が多い。「信頼できない」は震災後ポイントが上昇している（震災前10%程度→25～30%）。「不安」、「危険」のポイントは、2011年11月以降やや下がってきていたが、2015年10月でまた上がった。
- 「必要」のポイント低下に連動して、「不必要」のポイントが増えている。

## 原子力発電の利用

今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。

- 原子力発電を増やしていくべきだ
- 東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ
- 原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
- 原子力発電は即時、廃止すべきだ
- その他
- わからない



6

- NHK の世論調査の結果の紹介：二項対立で聞くと、賛成（利用）が約 15%、反対（廃止）が 40～50%。
- 「増やす」＋「維持」は 1 割程度。「即時廃止」は 1.5 割。「しばらく利用するが徐々に廃止」が 5 割弱。残りは「わからない」。この傾向には大きな経年変化がない。
- 「わからない」との回答が、経年でやや増えているかもしれない。

(%)

2014	N	増加	震災前 維持	徐々に 廃止	即時 廃止
全体	1200	1.3	8.8	47.8	16.2
知識高	164	3.7	10.4	48.2	25.0
知識中	473	1.7	11.4	57.1	15.6
知識低	287	0.0	8.0	48.1	13.9
知識無	276	0.7	4.0	31.2	14.1

2015	N	増加	震災前 維持	徐々に 廃止	即時 廃止
全体	1200	1.7	10.1	47.9	14.8
知識高	132	4.5	<u>17.4</u>	47.7	<u>20.5</u>
知識中	465	1.9	11.8	60.0	12.7
知識低	328	1.2	8.8	43.3	17.1
知識無	275	0.4	5.1	33.1	12.7

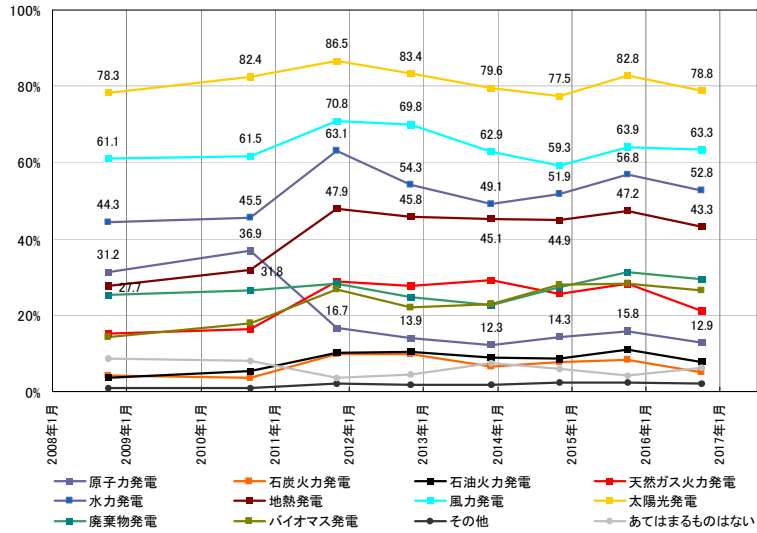
2016	N	増加	震災前 維持	徐々に 廃止	即時 廃止
全体	1200	1.8	8.3	45.2	16.9
知識高	113	<u>6.2</u>	<u>13.3</u>	46.0	26.5
知識中	400	2.0	9.3	55.3	<u>20.0</u>
知識低	347	0.9	8.6	47.0	14.7
知識無	340	1.2	5.0	31.2	12.4

7

- 2014年～2015年で、知識が高い層は、「即時廃止」が約5%減少し、逆に「維持」が約7%増している。2015年～2016年では、「即時廃止」が増え「維持」が減り、2014年に近い形に戻った。もうしばらく時間をかけて経緯を見守る必要がある。
- 2014年～2015年で、知識が低い層は、「徐々に廃止」が減り、「即時廃止」が増え、原子力に対してやや否定的に変化していた。
- 2016年は、知識中程度の層の「即時廃止」が増えている。(12.7%→20.0%)
- 全体としては2014年～2016年で大きな変化はないが、知識が高い層、知識が中程度の層が、やや廃止側に動いているか。
- 2016年の結果は、全体として関心の低下の影響を受けているようにも見える。

# 今後のエネルギー

今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。（複数回答）



8

(%)

年	N	石炭	石油	天然ガス	原子力	水力	地熱	風力	太陽光	廃棄物	バイオマス	なし
2014	1200	7.6	8.5	25.5	14.3	51.9	44.9	59.3	77.5	27.4	28.1	6.0
全体	1200	7.6	8.5	25.5	14.3	51.9	44.9	59.3	77.5	27.4	28.1	6.0
知識高	164	17.1	17.1	42.1	24.4	56.1	65.9	61.6	76.2	36.6	50.6	0.6
知識中	473	8.2	9.9	27.1	17.8	59.2	56.7	63.2	85.4	31.9	36.8	3.0
知識低	287	4.2	5.2	25.8	9.4	51.9	38.3	64.8	78.0	24.0	18.1	4.9
知識無	276	4.3	4.3	12.7	7.6	37.0	19.2	45.3	64.1	17.8	10.1	15.6
2015	1200	8.2	11.1	28.3	15.8	56.8	47.2	63.9	82.8	31.3	28.3	4.1
全体	1200	8.2	11.1	28.3	15.8	56.8	47.2	63.9	82.8	31.3	28.3	4.1
知識高	132	15.9	20.5	45.5	36.4	65.9	70.5	65.9	81.8	40.9	64.4	0.8
知識中	465	9.9	12.5	35.7	18.3	62.8	59.4	66.5	87.1	40.6	36.1	1.1
知識低	328	7.6	9.1	21.6	11.6	57.3	43.9	69.2	86.0	29.0	20.1	2.1
知識無	275	2.2	6.5	15.6	6.5	41.5	19.3	52.4	72.4	13.8	7.6	13.1
2016	1200	5.1	7.8	21.1	12.9	52.8	43.3	63.3	78.8	29.6	26.6	6.3
全体	1200	5.1	7.8	21.1	12.9	52.8	43.3	63.3	78.8	29.6	26.6	6.3
知識高	113	5.3	9.7	29.2	28.3	62.8	67.3	65.5	83.2	32.7	54.9	0.9
知識中	400	8.0	9.0	29.3	15.8	62.8	60.8	71.8	85.3	38.5	38.3	1.8
知識低	347	4.3	8.4	17.6	11.0	51.9	33.4	64.6	81.0	29.7	19.3	3.5
知識無	340	2.4	5.3	12.4	6.5	38.8	25.0	51.2	67.6	17.9	10.9	16.5

9

- トップ3は震災前後で変わらず「太陽光」、「風力」、「水力」。昔は「原子力」が4位だったが、今は「地熱」が4位になっている。
- 「原子力」は震災後にポイントが低下し、2016年まで低いまま維持している。
- 近年は、「地熱」、「バイオマス」、「天然ガス火力」への期待が高まっている。

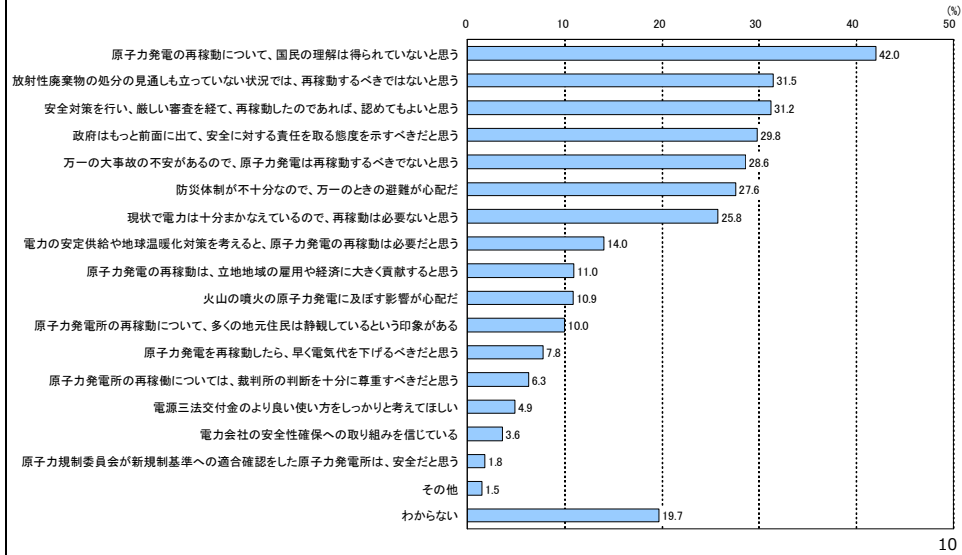
#### 〔知識クロス〕

- 知識中程度の層が、最も「太陽光」、「風力」に期待している。
- 知識が高い層は、「地熱」、「廃棄物」、「バイオマス」など、他の層では選択されないエネルギーを選択している。様々なエネルギーを合わせて使うべき、と考えているのかもしれない。
- 「原子力」は、知識が低い層よりも高い層の方が選択率が高い。
- 知識が高い層は、2014年～2015年で「原子力」の選択が増えたが、2015年～2016年では減った（24.4→36.4→28.3%）。知識が高い層は、2016年度では、「太陽光」への期待がやや高まっている。
- 2016年は、「知識の高さ」の程度が、やや下がっているかもしれない。（2016年の知識高い層は、2014～2015年の知識中程度層と同レベルか、という印象がある）

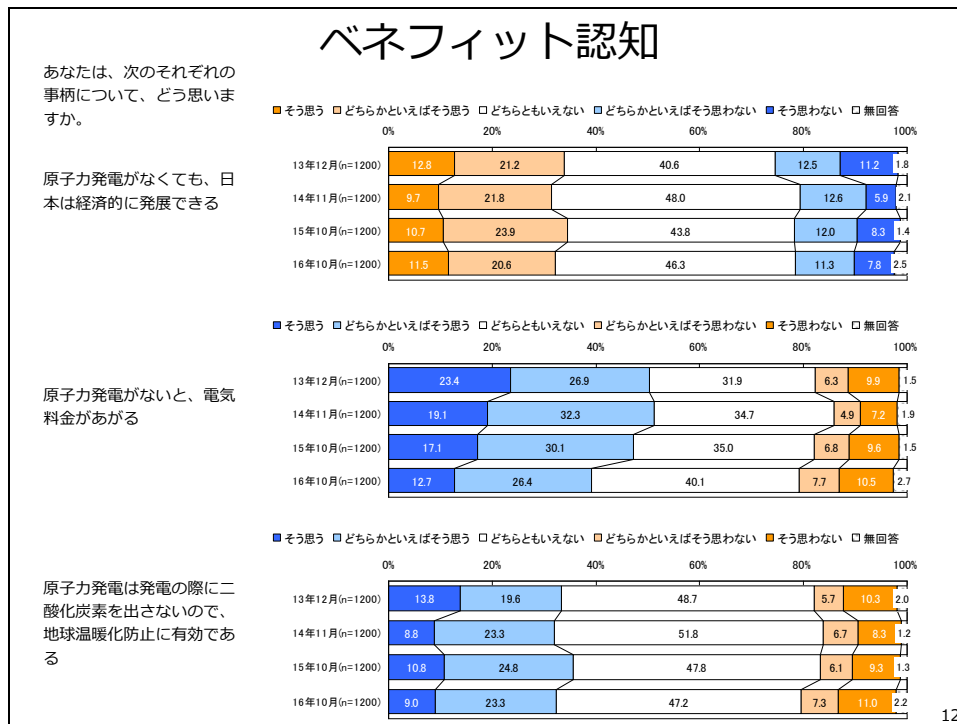


## 再稼働

原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることとなります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。



- ・ 3割を超えている項目は、「再稼働について国民の理解は得られていない」、「廃棄物処分の見通しも立っていない現状では、再稼働すべきでない」、「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい」。
- ・ その他の主な意見（回答率が25～30%の項目）は、「政府はもっと前面に出て安全に対する責任を取る態度を示すべき」、「万一の重大事故の不安があるので再稼働すべきでない」、「防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配」、「現状で電力は十分賅えているので再稼働は必要ない」。
- ・ その他の意見は回答率が下がる。



問 7c 原子力発電のベネフィット認知（経済性）（原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる）

- 原子力に対して否定的な意見のほうが多い。

問 7d 原子力発電のベネフィット認知（経済性）（原子力発電がないと、電気料金が上がる）

- 原子力発電がなくても電気代は上がらないと思う人が増えている（原油安の影響もあるか）。

問 7e 原子力発電のベネフィット認知（地球温暖化）（原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないで、地球温暖化防止に有効である）

- 経年変化はない。肯定回答のほうが高い（35%程度）。ただし、震災前の同様の質問では肯定回答が6割程度だった。

																	(%)
2015	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	10.7	23.9	43.8	12.0	8.3	17.1	30.1	35.0	6.8	9.6	10.8	24.8	47.8	6.1	9.3	
増加	20	10.0	5.0	30.0	25.0	30.0	65.0	25.0	10.0	-	-	55.0	35.0	5.0	-	5.0	
震災前維持	121	2.5	6.6	43.8	25.6	20.7	36.4	29.8	24.8	3.3	4.1	26.4	38.8	28.1	5.0	0.8	
徐々に廃止	575	10.3	29.2	42.3	11.7	5.0	19.8	35.0	29.7	7.5	6.8	11.3	28.5	46.1	6.6	6.8	
即時廃止	177	33.3	33.9	18.6	2.8	9.6	6.2	22.6	29.4	12.4	28.2	4.5	18.1	37.3	10.2	27.1	
2016	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	11.5	20.6	46.3	11.3	7.8	12.7	26.4	40.1	7.7	10.5	9.0	23.3	47.2	7.3	11.0	
増加	22	9.1	4.5	13.6	40.9	31.8	68.2	22.7	4.5	-	4.5	59.1	18.2	22.7	-	-	
震災前維持	99	4.0	5.1	39.4	28.3	17.2	33.3	34.3	25.3	3.0	2.0	15.2	43.4	33.3	4.0	2.0	
徐々に廃止	542	8.1	27.9	46.5	11.4	4.2	13.3	30.6	39.1	8.1	6.8	9.2	27.1	46.1	9.2	7.0	
即時廃止	203	38.9	22.7	27.1	2.0	7.9	6.4	18.2	33.0	12.8	26.1	6.4	17.2	39.4	8.4	25.6	
																	(%)
2015	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	10.7	23.9	43.8	12.0	8.3	17.1	30.1	35.0	6.8	9.6	10.8	24.8	47.8	6.1	9.3	
知識高	132	17.4	17.4	31.1	15.2	17.4	28.0	25.8	17.4	11.4	16.7	28.0	31.8	21.2	6.1	12.1	
知識中	465	12.3	25.4	38.3	14.8	8.2	23.9	33.1	29.0	6.0	6.9	15.9	32.9	37.8	5.8	6.9	
知識低	328	10.4	27.1	45.1	11.6	4.0	10.1	35.7	35.1	7.6	9.8	4.0	20.4	58.8	6.4	8.8	
知識無	275	5.1	20.7	57.5	6.2	9.1	8.7	20.4	53.5	4.7	10.5	1.8	12.7	64.0	6.2	12.7	
2016	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	11.5	20.6	46.3	11.3	7.8	12.7	26.4	40.1	7.7	10.5	9.0	23.3	47.2	7.3	11.0	
知識高	113	24.8	21.2	31.9	8.8	10.6	20.4	27.4	32.7	5.3	13.3	23.0	32.7	24.8	7.1	11.5	
知識中	400	13.3	24.5	42.8	12.0	5.3	15.0	32.0	32.5	9.3	8.5	11.8	29.5	39.3	9.0	8.5	
知識低	347	11.5	20.7	45.8	14.4	5.8	12.4	26.2	43.8	8.1	7.5	5.2	24.5	55.3	5.5	8.4	
知識無	340	5.0	15.6	55.6	8.2	12.1	7.6	19.7	47.6	6.2	15.0	5.0	11.8	55.6	7.4	16.5	
<p>原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる</p> <p>原子力発電がないと、電気料金があがる</p> <p>原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないで、地球温暖化防止に有効である</p>																	

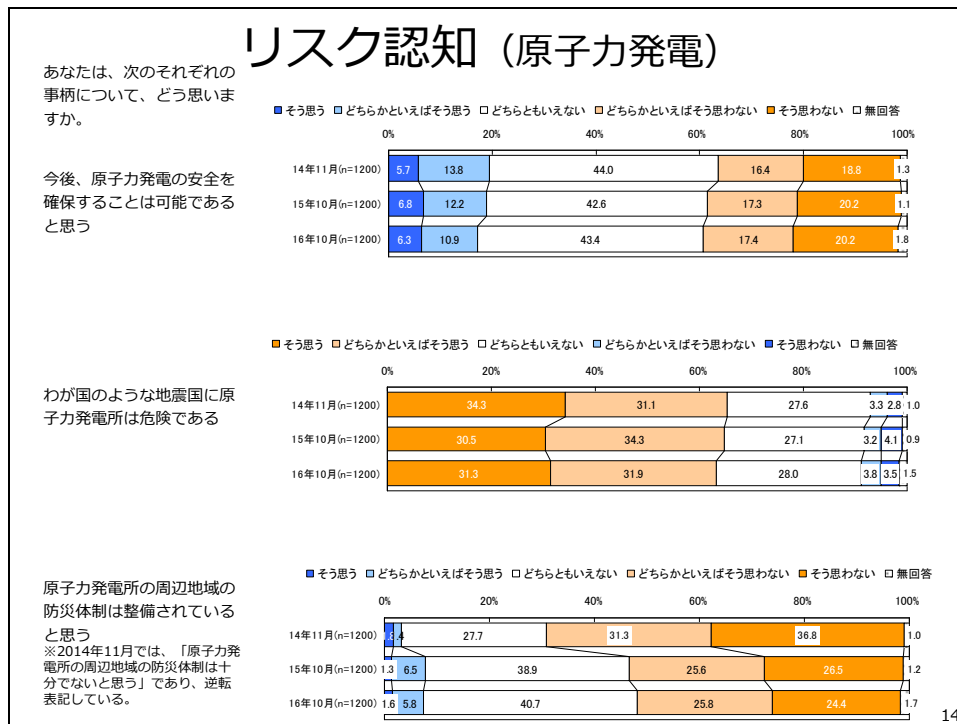
13

〔原子力利用クロス〕

- 「即時廃止」層は、ピークが二つに分かれている。原子力発電が二酸化炭素を出さないことは認めている層（メリットは認めつつも原子力を即時廃止してほしい層）と、それすら認めない層（メリットを認めず原子力を即時廃止してほしい層）に分かれている。

〔知識クロス〕

- 知識のない層、知識の高い層で、二酸化炭素削減効果を認めない人が多い。2016年度は、知識のない層での強い否定が増えているように見える。知識のない層は、情報を得た上で判断しているわけではなく、イメージ先行で判断している可能性が高い（広報で働きかけがしにくい）。



問 7f 原子力発電のリスク認知（今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う）

- ・ 否定的な回答が多い。

問 7g 原子力発電のリスク認知（わが国のような地震国に原子力発電所は危険である）

- ・ 肯定的な意見は6割強。
- ・ 震災前から多くが肯定的な回答をしていたが、福島第一原子力発電所の事故でそれが実証されてしまい、肯定的な意見がさらに高まり、そのまま維持されている。

問 7h 原子力発電のリスク認知（原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う）

- ・ 2014年度と2015～2016年度で聞き方を変えている。
- ・ 5割強が、防災体制が十分でないと感じている。2015～2016年で経年変化なし。

																(%)	
2015	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	6.8	12.2	42.6	17.3	20.2	30.5	34.3	27.1	3.2	4.1	1.3	6.5	38.9	25.6	26.5	
増加	20	35.0	20.0	35.0	-	10.0	10.0	10.0	35.0	15.0	30.0	15.0	25.0	50.0	5.0	5.0	
震災前維持	121	24.0	34.7	33.1	3.3	4.1	5.0	29.8	46.3	9.9	8.3	5.0	17.4	52.9	19.0	5.0	
徐々に廃止	575	5.6	10.4	41.6	24.5	17.2	32.9	44.2	18.1	2.3	1.9	0.7	5.6	33.0	31.5	28.5	
即時廃止	177	2.3	2.3	16.9	19.2	58.2	75.1	13.6	5.1	0.6	5.1	1.1	1.1	15.3	20.3	61.0	
2016	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	6.3	10.9	43.4	17.4	20.2	31.3	31.9	28.0	3.8	3.5	1.6	5.8	40.7	25.8	24.4	
増加	22	45.5	22.7	22.7	9.1	-	9.1	13.6	40.9	13.6	22.7	18.2	18.2	45.5	18.2	-	
震災前維持	99	15.2	31.3	38.4	10.1	3.0	9.1	29.3	44.4	11.1	4.0	4.0	18.2	44.4	24.2	8.1	
徐々に廃止	542	5.2	11.4	43.4	22.9	16.1	29.9	44.3	21.0	3.1	0.9	0.6	5.4	37.3	34.5	21.4	
即時廃止	203	3.0	1.5	20.7	18.2	54.2	76.4	13.3	4.9	1.0	3.0	1.5	1.0	15.8	20.7	59.1	
																(%)	
2015	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	6.8	12.2	42.6	17.3	20.2	30.5	34.3	27.1	3.2	4.1	1.3	6.5	38.9	25.6	26.5	
知識高	132	10.6	18.2	31.1	9.8	30.3	32.6	29.5	22.0	6.1	9.8	1.5	13.6	23.5	24.2	35.6	
知識中	465	8.4	14.0	35.1	21.7	20.4	33.8	37.2	21.3	3.4	3.4	1.7	7.5	30.3	31.8	28.0	
知識低	328	5.8	12.5	44.5	19.2	16.5	33.2	37.5	25.3	2.1	1.2	1.2	5.2	43.3	25.0	24.1	
知識無	275	3.3	5.8	58.5	10.9	19.3	20.7	27.6	41.5	2.5	5.8	0.7	2.9	55.6	16.4	22.5	
2016	N	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No	Yes	←	→	No
全体	1200	6.3	10.9	43.4	17.4	20.2	31.3	31.9	28.0	3.8	3.5	1.6	5.8	40.7	25.8	24.4	
知識高	113	11.5	22.1	28.3	14.2	23.0	39.8	34.5	16.8	5.3	2.7	0.9	11.5	31.9	21.2	33.6	
知識中	400	5.8	11.0	35.3	24.8	21.5	36.8	35.8	20.3	4.0	2.0	1.5	6.3	30.8	36.3	23.8	
知識低	347	6.1	11.0	48.7	17.0	16.4	31.4	34.3	29.4	2.9	1.2	1.4	4.3	44.7	23.1	25.4	
知識無	340	5.3	7.1	52.6	10.3	21.5	21.8	24.1	39.4	4.1	7.9	2.1	5.0	51.2	17.9	21.2	
		今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う					わが国のような地震国に原子力発電所は危険である					原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う					

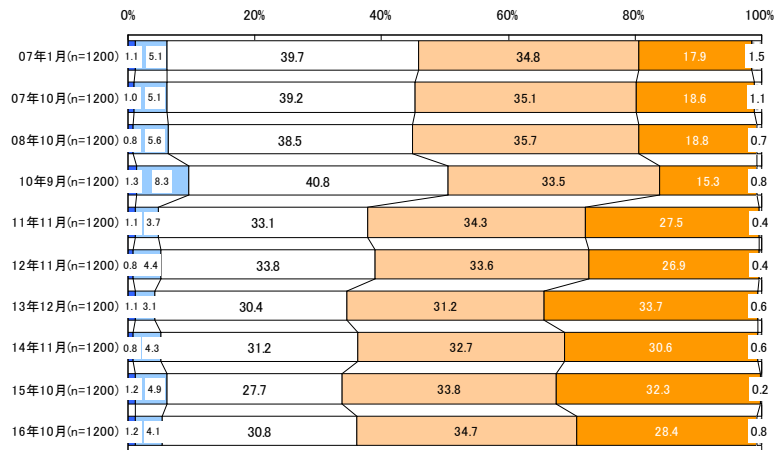
〔原子力利用クロス・知識クロス〕

- ・ リスク認知に関しては、ベネフィット認知で見られたような「二つのピーク」は見られない。一般的に、ベネフィット認知では衝突が起きやすく、リスク認知ではそれが起きにくいと言われている。

## リスク認知 (HLW)

現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。  
あなたは、そのことについてどのように感じますか。

■ 安心 □ どちらかといえば安心 □ どちらともいえない □ どちらかといえば不安 ■ 不安 □ 無回答

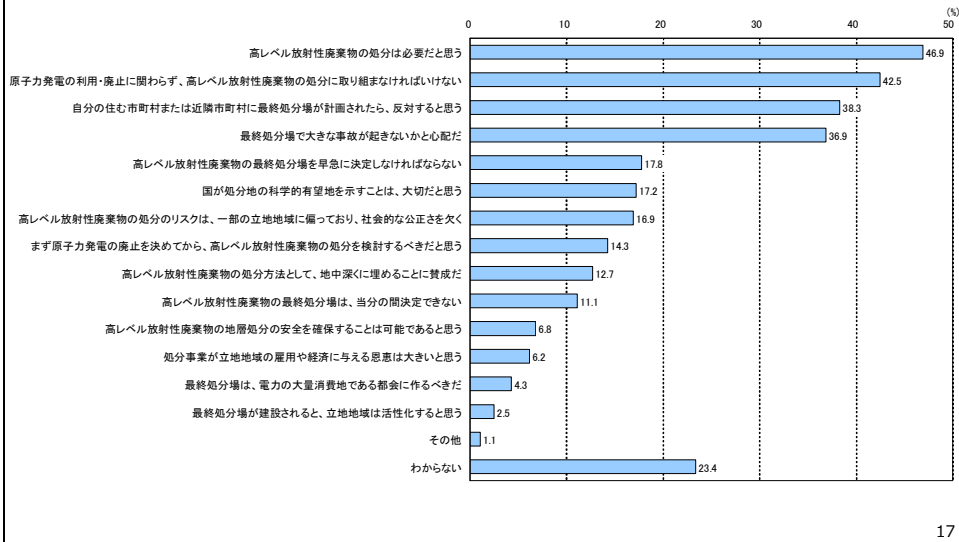


16

- 震災以前から、「不安」との回答は5割程度あった。震災を機に「不安」との回答が増え、その後もそれが維持されている。

# HLW

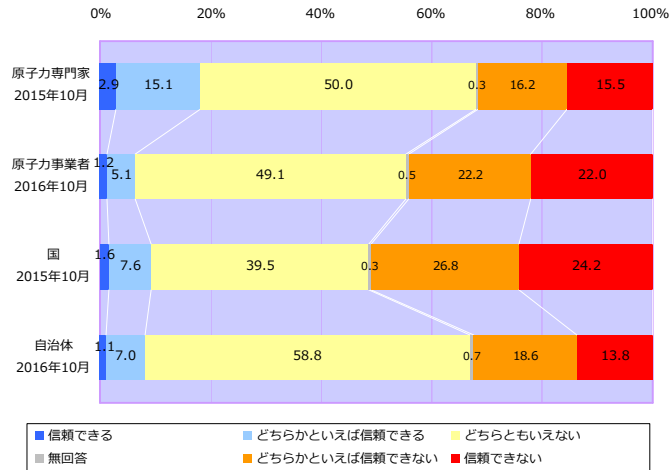
高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか（複数回答）



- ・ 「処分は必要」、「原子力発電の利用・廃止に関わらず処分に取り組まなければならない」「自分の住む地域に処分場が来たら反対する」「最終処分場で大きな事故が起きないかと心配だ」のポイントが高い。
- ・ 「科学的有望地」が「立地の候補地」と捉えられてしまうと、「自分の住む地域に処分場が来たら反対する」に結びつくおそれが高い。
- ・ 「処分は必要」との回答は多い（46.9%）が、「地中深くに埋めることに賛成だ」との回答は12.7%。
- ・ 「処分場は大消費地である都会に作るべき」は5%程度で、それほど多くない。

# 信頼／不信

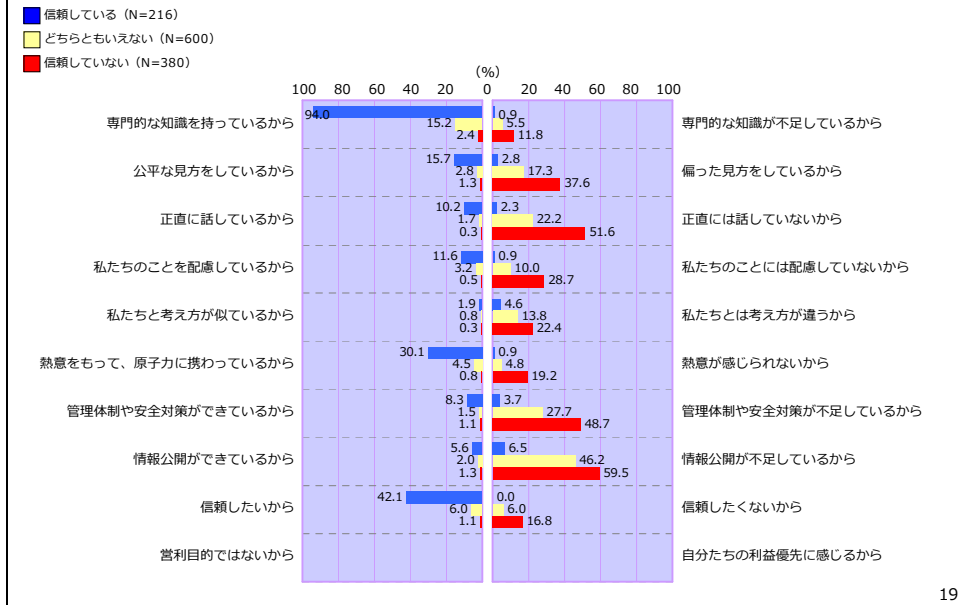
原子力に関して、あなたは「原子力専門家／原子力事業者／国／自治体」を信頼できると思いますか。  
 ※2015年10月：原子力専門家／国 2016年10月：原子力事業者／自治体



- ・ 「専門家」は信頼できるとの回答が多い（2割に達していないが）。「国」は信頼できないとの回答が多い。

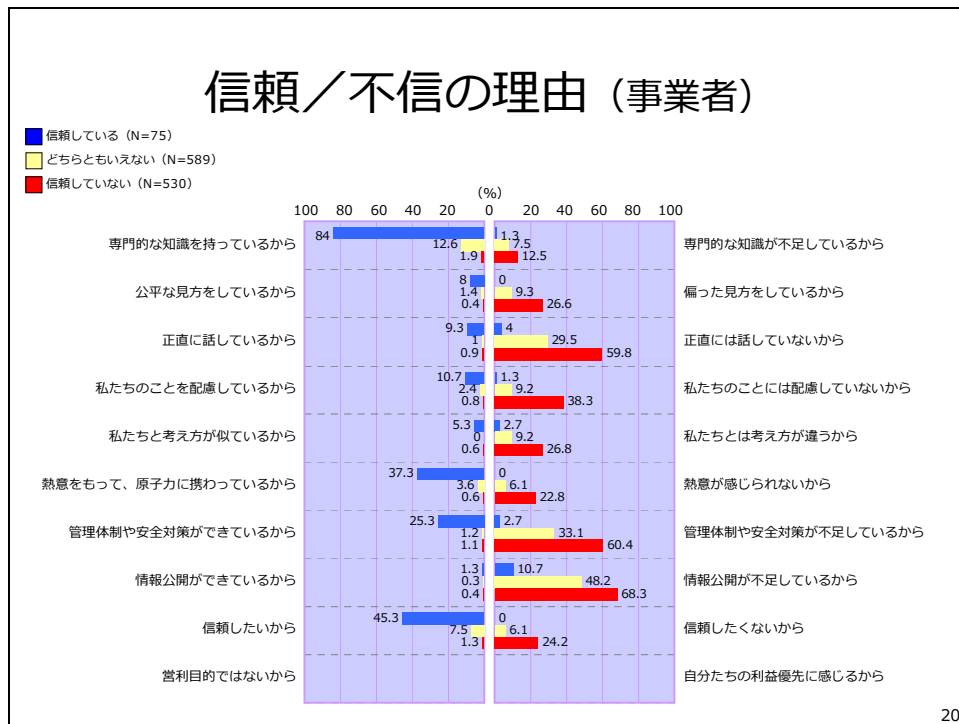


## 信頼／不信の理由（専門家）



### 〔専門家〕

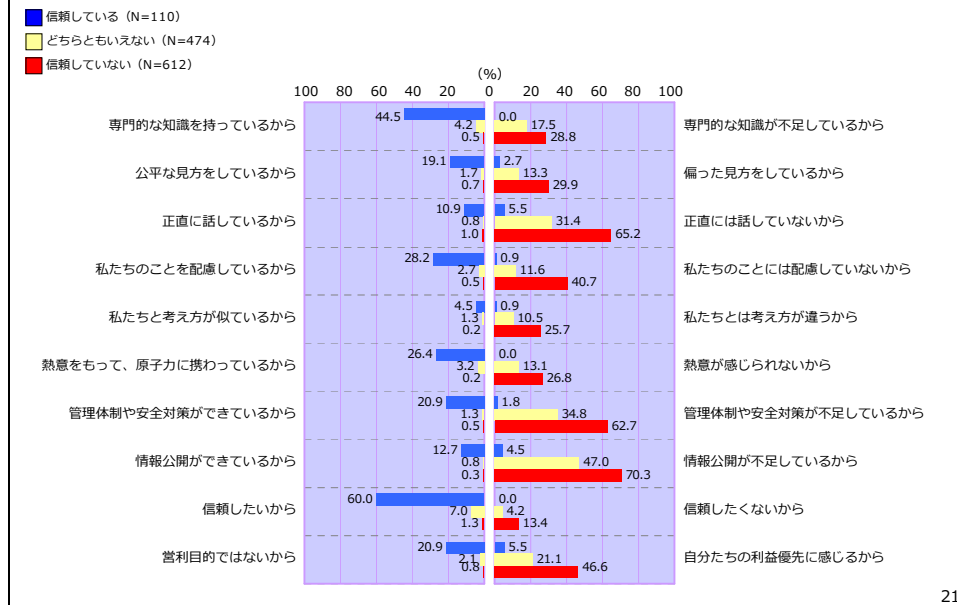
- ・ 信頼する理由は、「専門的な知識を持っているから」、「信頼したいから」、「熱意を持っているから」など。
- ・ 信頼しない理由は、「情報公開が不足しているから」、「正直に話していないから」、「管理体制や安全対策が不足しているから」など。
- ・ どちらともいえない層の選んだ理由は、信頼しない層が選んだ理由に近い。



〔事業者〕

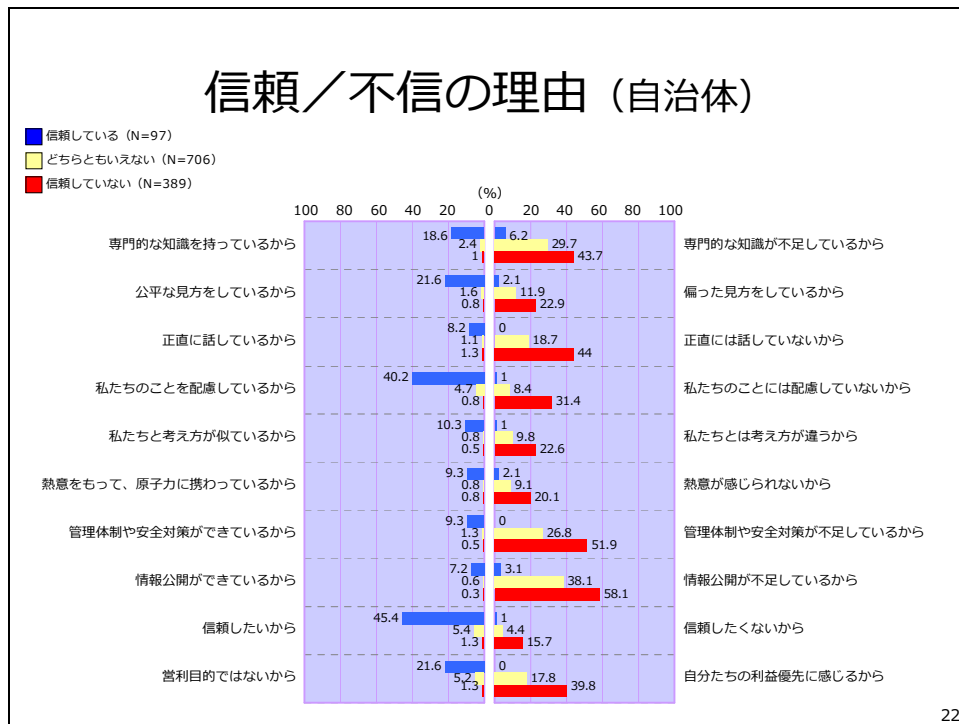
- ・ 信頼する理由：「専門家」に近い。「管理体制や安全対策ができていないから」のポイントが高め。
- ・ 信頼しない理由：「専門家」に近い。

## 信頼／不信の理由（国）



〔国〕

- ・ 信頼する理由は、「信頼したいから」が高め。「専門的な知識を持っているから」のポイントは低めになっている。
- ・ 信頼しない理由は、「専門家」に近い。

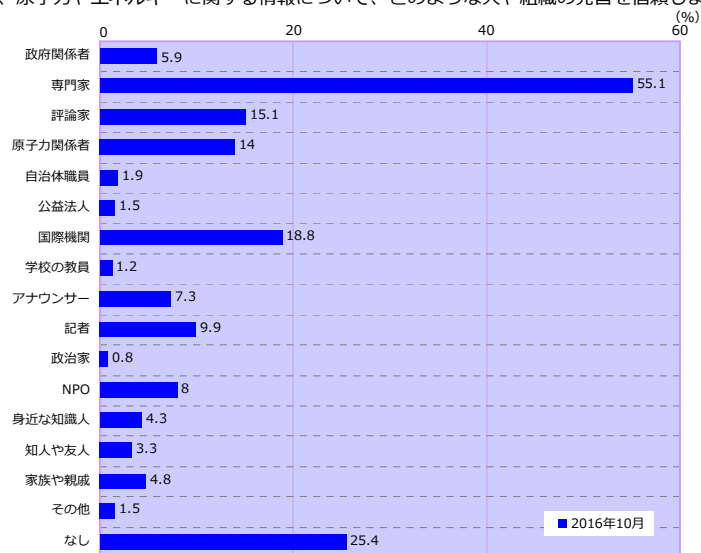


〔自治体〕

- ・ 信頼する理由の中で、「専門的知識を持っているから」のポイントが他と比べ非常に低い。「私たちのことを配慮しているから」のポイントが高め。
- ・ 信頼しない理由に、「専門知識が不足しているから」が挙げられている。

## 情報源信頼 (情報発信者)

あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。



24

- ・ 「専門家」に対する信頼度が高い。「国際機関」、「評論家」、「原子力関係者」が続く。「あてはまるものはない」との回答が約 25%ある。

	N	政府関係者	専門家	評論家	原子力関係者	自治体職員	公益法人	国際機関	学校教員	アナウンサー	記者	政治家	NPO	リーダー	知人・友人	家族・親戚	その他	特になし
全体	1200	5.9	55.1	15.1	14.0	1.9	1.5	18.8	1.2	7.3	9.9	0.8	8.0	4.3	3.3	4.8	1.5	25.4
増加	22	13.6	68.2	13.6	36.4	-	-	18.2	-	9.1	4.5	-	-	4.5	-	-	-	13.6
震災前維持	99	12.1	61.6	17.2	27.3	4.0	2.0	16.2	2.0	5.1	4.0	3.0	1.0	2.0	2.0	4.0	1.0	18.2
徐々に廃止	542	5.5	64.6	16.6	14.8	2.2	2.0	24.0	0.6	8.1	11.1	0.4	9.8	5.0	3.0	4.1	0.6	17.9
即時廃止	203	3.9	54.7	19.7	5.9	1.0	1.0	24.1	2.5	5.9	16.3	-	16.3	7.4	9.4	6.9	2.0	22.7
DK	284	5.6	38.0	8.8	13.0	1.8	0.4	8.1	1.4	7.7	5.3	1.8	2.5	1.8	1.1	4.9	3.2	41.5
知識高	113	4.4	72.6	20.4	14.2	2.7	4.4	31.0	1.8	7.1	17.7	-	20.4	7.1	1.8	1.8	1.8	13.3
知識中	400	7.3	64.3	16.8	15.0	2.0	2.3	25.0	1.3	7.5	11.0	0.8	10.0	5.0	6.0	5.5	1.8	18.3
知識低	347	6.6	54.2	17.9	13.3	1.2	-	16.4	1.4	6.9	9.5	0.9	7.2	4.3	2.9	5.5	0.9	24.5
知識無	340	4.1	39.4	8.5	13.5	2.4	1.2	10.0	0.6	7.4	6.5	1.2	2.4	2.4	1.2	4.1	1.8	38.8
社会性高	134	9.0	69.4	24.6	17.9	3.7	3.0	35.8	2.2	9.7	14.2	1.5	17.9	9.0	8.2	9.0	4.5	14.9
社会性中	561	6.1	63.3	16.9	17.5	2.5	2.1	23.4	1.6	7.0	12.3	1.1	9.3	5.0	3.4	4.6	0.9	17.5
社会性低	349	5.7	48.1	12.0	12.0	0.9	0.6	8.3	0.6	6.9	6.3	0.3	4.6	2.6	2.9	4.6	1.1	29.8
社会性無	156	3.2	28.8	7.1	2.6	0.6	-	11.5	-	7.1	5.8	0.6	2.6	1.3	-	1.9	1.9	53.2

25

## 〔原子力利用クロス〕

- ・ 「専門家」や「国際機関」は全体的に信頼されている。「徐々に廃止」層、「即時廃止」層は「国際機関」への信頼が高め。「増加」、「維持」層は「原子力関係者」への信頼が高め。
- ・ 「即時廃止」層は、「評論家」、「NPO」、「記者」に対する信頼が高い。「専門家」への信頼はやや低め。「原子力関係者」への信頼は他の層に比べ低い。（自分の考えに近いことを言う人を信頼する傾向があるのかもしれない）
- ・ 「記者」と「アナウンサー」は、全体ではポイントに大きな差がないが、「即時廃止」層では「記者」の信頼のほうが高い。

## 〔知識クロス〕

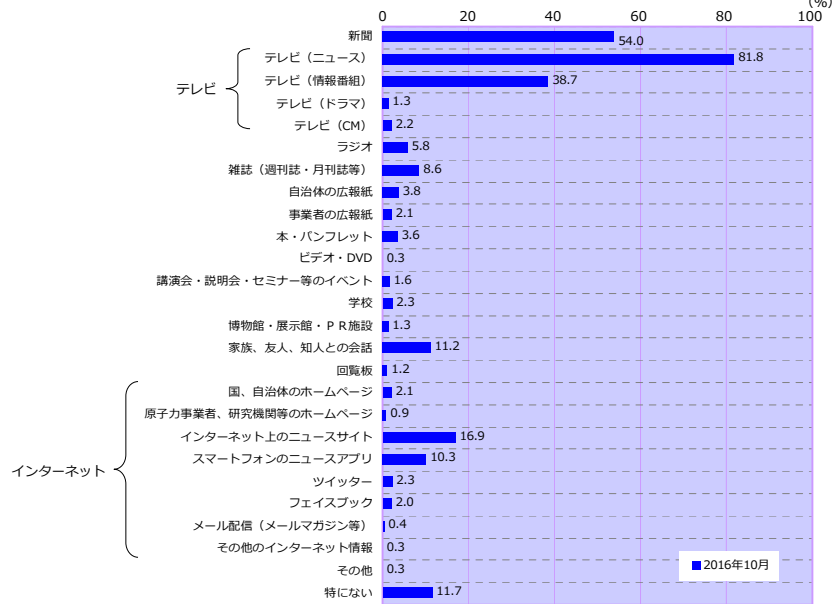
- ・ 知識がない層は「特になし」が高く、「専門家」に対する信頼度も低い。
- ・ 知識が高くなるにつれ、どの主体に対する信頼度も上がってくる。
- ・ 「原子力関係者」は、知識が高くなってもあまりポイントに変化がない。

## 〔社会性クロス〕

- ・ 社会性が高いほど、各主体に対する信頼度が高まる傾向がある。社会性無しの層は、「特になし」のポイントが特に高い。

## 情報源（メディア）

あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。



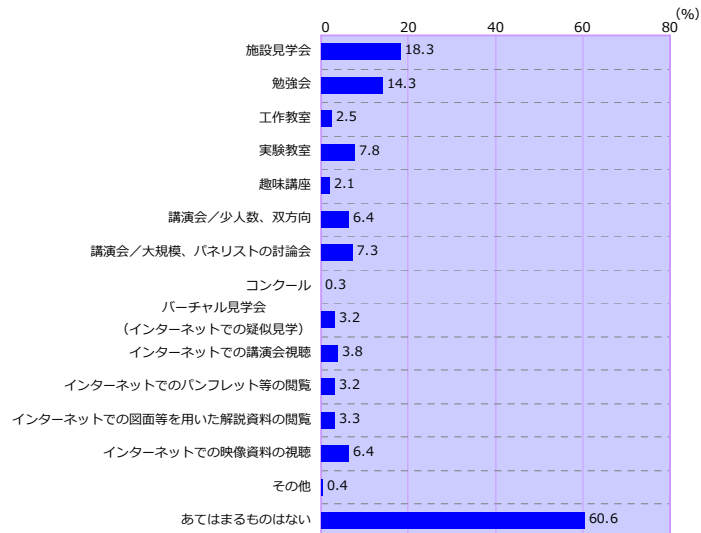
26

### 問12 原子力・エネルギーについての広聴・広報（情報源）

- ・ 「テレビ（ニュース）」、「新聞」、「テレビ（情報番組）」が高い。少しポイントが下がって、「インターネット上のニュースサイト」、「家族、友人、知人との会話」、「スマートフォンのニュースアプリ」。ほぼ全て、マスメディア経由の情報である。

## 参加したいイベント等

「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。



27

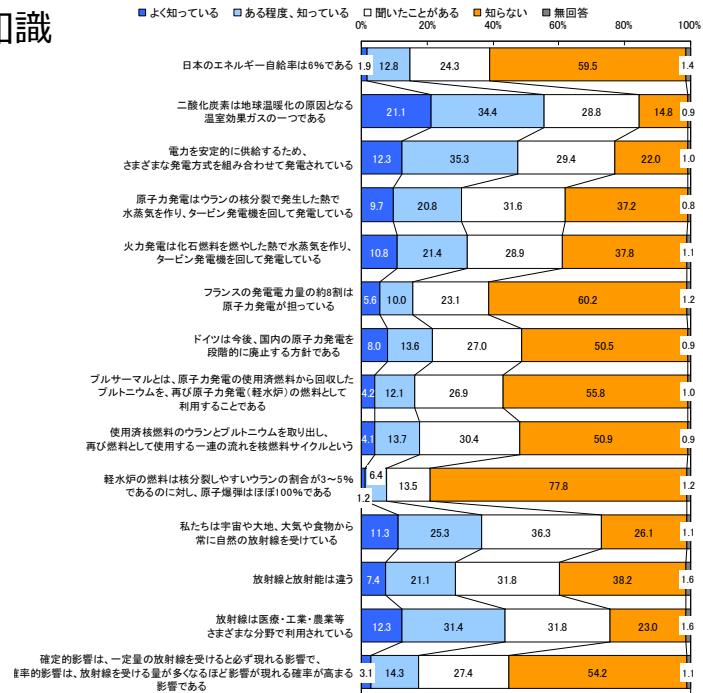
### 問 14 原子力・エネルギーについての広聴・広報（参加したいイベント）

- ・ 6割超が「あてはまるものはない」と回答している。
- ・ 「施設見学会」「勉強会」は、10%を超えている。





## 参考：知識



29

- ・ 「知らない」が多い項目は、「軽水炉と原爆のウランの割合」、「日本のエネルギー自給率は6%」、「放射線の確定的影響・確率的影響」、「フランスの原子力事情」、「ドイツの原子力事情」。
- ・ 「ドイツ」と「フランス」では、「ドイツ」の方が認知度が高い。
- ・ 「知っている」が多い項目は、「二酸化炭素は温室効果ガス」、「エネルギーのベストミックス」、「放射線は様々な分野で利用されている」、「自然放射線」。
- ・ 放射線に関する項目は、近年、知っている人が減っている傾向にある。
- ・ 2014年～2016年にかけて、知識が高い層の人数が減っている。原子力に対する関心の低下が影響しているか。(昨年度のインターネット調査の回答者に近い傾向)

#### (4) インタビュー結果の分析

前節では調査結果に対して聞かれた意見を整理してきた。原子力発電に対する態度に関しては、「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」と回答する者がおよそ 5 割弱という結果について、多くのインタビューイが納得する結果だという意見が聞かれた。再稼働に関しては、「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい」が 3 割というのは妥当という意見が聞かれた。原子力の新規制基準が一定程度機能しているとの認識の一方で、まだまだ原子力に対する不信感が根強いとの意見も聞かれた。

エネルギー源全体に対しては、太陽光、風力への期待の高さと、原子力発電の震災後の落ち込みから回復していないことについての指摘が見られる。「再生可能エネルギーに対する過大評価が、原子力に対する期待の低下に結びついているように思える」との意見も聞かれ、各電源に対する正確な情報提供が望まれている。

原子力に対するベネフィット認知では、特に地球温暖化と原子力との関係についての意見が多く見られた。福島第一原子力発電所の事故によって、二酸化炭素削減の議論が低下してしまったことや、地球温暖化防止という観点と原子力とが繋がっていることが認識されていないなどの意見が見られる。

一方、原子力に対するリスク認知では、その結果に納得するという意見が多い。今年度調査は高レベル放射性廃棄物に関して、新設の項目があったが、それに関しては、特に立地の段階になると受け入れられないという、いわゆる NIMBY (Not In My BackYard) 問題を指摘する意見が大きい。科学的有望地を提示することによって、立地問題が顕在化するのではないかという意見も見られる。そして、この問題は、知識の有無によって決まるようなものではないとの意見も聞かれた。

信頼に関してはまず、「専門家」に対する信頼が思ったよりも高いことを指摘する意見が見られた。ただし、「専門家」といっても、様々な専門家がありうることの指摘がなされた。

また、不信の大きな理由である「情報公開がされていないから」に関しては、「意外と公開されていて、見ようと思えば見ることができるのだが、国民は主体的に見ようとしていない」との意見や、「正直に話していない」と思われているので、結局「情報公開をしても信頼は取り戻せないだろう」との意見が聞かれた。そのために、「私たちのことを配慮しているから」「信頼したいから」と相手に感じさせ、伝え手と受け手の距離感を縮める」ことが重要で、そのためには「国や事業者には、市民の方々の意見を「ひたすら聴く」という傾聴の姿勢が求められる」という指摘がなされている。

エネルギー自給率をあまり知られていないということに対して、納得できるとする意見が多く聞かれた。これがエネルギーに関する様々な問題の原因ではないかとの意見もある。一般の人々に情報を伝える際には、多くの情報を伝えるのは難しいため、エネルギー自給率に絞って伝えるという方法もあるのではないかと、との提案も見られる。また、今年度調査に見られる知識量の低下について、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から 5 年以上が経過して、風化が起きているのではないかと、との意見も見られる。

人々の情報獲得行動については、知識量や社会性（社会へのコミットメントの度合い）との関係を指摘する意見が多く見られた。すなわち、知識が豊富で社会性の高い人々は、自然と正しい情報を吸収するのに対して、エネルギーの問題に積極的でなく、無関心でい続けてしまう人々には、情報が届きにくいという構造があることの指摘である。

このような情報獲得構造を下敷きにして、広報・広聴のターゲットとしてはどこにするべきか、ということについては、意見が分かれた。代表的なものとしては、リソースの配分を考えると中間層にこそ積極的に情報を提供すべきだ、という意見と、知識量の少ない層も含め、全体へ情報を提供すべきだという意見である。

また、教育現場への大きな期待が示された。エネルギーや原子力といったトピックを教えることへの期待というよりは、「偏った考え方をするのではなく、科学的な情報に基づいて判断すべき、ということ」というリテラシー獲得への期待を述べる声もあった。

情報を提供するイベント等の波及効果については、有効であった事例をほとんど知らないという意見が多かった。

以上を踏まえて、情報発信のあり方についての意見をまとめると、以下のようなになるだろう。

#### 〔広報・広聴のターゲット〕

広報・広聴のターゲットについては意見が分かれた。知識量の中間層をターゲットにすべきだという意見と、知識量の少ない層を含め、全体に満遍なく情報を提供すべきだという意見である。

#### 〔コンテンツ〕

最も重大な情報としては、「日本のエネルギー自給率」についての周知であろうとの意見が多かった。多くの人を情報提供の対象にするならば、この1点のみに集中してもよいほどの意味があるとの認識がされている。

その他には具体的なものとして、各電源に関する正確な情報、原子力と地球温暖化の関係性が挙げられた。

また、東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故からほぼ6年を経過するが、それによる記憶の風化を心配する声もある。これが、エネルギーや原子力に対する関心の低下を招き、知識量の低下も引き起こしてしまっている可能性がある。原子力業界にとっては痛し痒しな状況かもしれないが、関心の低下を防止するためには、東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故に関する記憶の風化を食い止めるような努力も望まれる。

教育への期待も大きかったが、エネルギーや原子力といったトピックを教えることへの期待というよりは、「偏った考え方をするのではなく、科学的な情報に基づいて判断すべき、ということ」というリテラシー獲得への期待が寄せられた。

〔広報・広聴のあり方〕

情報を提供するだけでは、結局信頼されないことから、人々への配慮を忘れず、信頼したいと相手に思ってもらえるような行動を心がけ、相手との距離感を縮めることを目指すべきではないかという意見が聞かれた。そのためには、相手の話をしっかり聞く「傾聴」の態度が必要になってくる。情報の提供はそれにあわせて行うことが望まれるだろう。